

2021年度 履修要綱

総合政策学部・環境情報学部



四日市大学

学生諸君へ

1. 「学習」から「学修」へ。「生徒」から「学生」へ。

「履修要綱」「講義要綱」「学生便覧」は、四日市大学の学生として「学修」や学生生活を進めていく上で必要な手続きなどについて説明しています。

ここで「学習」ではなく「学修」と書かれているのには理由があります。

大学では、教科書などで与えられた内容を学ぶ「学習」ではなく、自分から進んで（能動的に）学んでいくことを「学修」と呼び、皆さんに取り組むことを求めています。ですから、学部・学科により決められた学修内容（必修科目など）を踏まえ、さらに自分の持っている能力や技術を伸ばしていくこと、また目標や目的に向けて自主的に取り組んでいくことが大切です。

また、それにより皆さんは「生徒」（中学校・高等学校で学ぶ者）から「学生」（大学で学ぶ者）となれるのです

- ・ 新入生は、大学での学修方法を理解し、間違いのない学修計画を立ててください。
- ・ 在学生は、これまでの学修内容が、自分の目的や将来、そして卒業のために必要なことをしっかりと修めているのか、再確認してください。

2. 「履修要綱」について

本書「履修要綱」では、大学の授業、単位、履修方法、試験、成績、カリキュラム、その他について、読めば分かるように丁寧に解説しています。

- ・ 新入生は、「単位制」についてよく理解してください。計画的に授業を履修し、卒業に向けて必要な単位を修得するために、1年次に必要な単位を修得してください。
- ・ 在校生は、入学年度に応じたカリキュラムに従い、正しく単位が修得できているか確認してください。特に科目区分ごとに必要な単位が修得できているのか注意してください。

3. 「講義要綱（シラバス）」について

別書「講義要綱（シラバス）」では、所属学部で開講される授業ひとつひとつについて、説明しています。よく読んで履修する授業について理解してください。

「授業の位置づけ」・・・卒業認定・学位授与の方針（DP）との関連。

「授業のねらい」・・・講義の概要、問題意識、他との関連や今後の発展方向を。

「到達目標」・・・到達目標とは授業を通じて身に付けるべき内容や技術のことです。

「授業計画」・・・15回の講義の内容を紹介し、授業の全体像を分かりやすくしています。

「成績評価方法・課題・フィードバックの方法」・・・定期試験の他、日頃の学習態度など、評価のポイントを示しています。課題の内容や提出方法、フィードバックの方法。

「テキスト・教材・参考文献」・・・指定書籍の他、プリントの配布、参考文献などについてもふれています。

「事前・事後学習」（時間外学修に必要な内容・時間）・・・予習・復習等の具体的な内容及びそれぞれに必要な時間。

「担当者から一言」・・・受講上のアドバイスなど。

想定外の状況だからこそ、自分を見つめ直すチャンス

総合政策学部長 鶴田利恵

2020年度は、新型コロナウイルスの拡大によって、世界中の人々がこれまで経験したことのない状況に陥りました。皆さんの生活も一変したことと思います。大学もオンライン授業の実施を余儀なくされ、我々教職員も皆さんも、不慣れな環境の中で混乱する日々を送ることとなりました。来る日も来る日も、パソコンやスマホと向かい合う日々、途切れることなく追いかけてくる課題。「何でこんなことやらなきゃいけないんだ!?!」、「もう、やってられない!!」と投げ出しそうになったこともあったのではないのでしょうか？ 私自身も、今からオンライン授業の準備を始めなければならないという時に、突然自宅のPCが立ち上がらなくなるというハプニングに見舞われ、文字通り泣きたい気持ちになったり、反応のないPCに向かって語りかける毎日の繰り返しに、何度も心が折れそうになったりしました。

世の中は、昨年当初の小中高の学校の臨時休講やアベノマスクの配布に始まり、2度の緊急事態宣言、自粛要請が行われる一方で、経済の悪化を不安視した結果実施された「Go to トラベル」や「Go to イート」などのキャンペーンとその停止といった具合に、まるで、終点が見えないジェットコースターに延々と乗り続けているかのような状況です。また、外食や営業自粛の要請に応じない個人や飲食店に対して、私的にSNSや張り紙などで攻撃する「自粛警察」が出現するなど、社会的な不安定さも露呈することになりました。

しかし、このような環境の変化の中でも、また閉塞感に押しつぶされそうになる状況の中でも、更にそのような状態が何度も波のように繰り返される場面においても、我々人間は何とか知恵を出し合って対応し、脅威に立ち向かおうとしています。

皆さんも、当初は困惑していたオンラインの授業についていけるようになりましたよね。私自身も同様です。Moodleの存在は知っていたし触ったことはありましたが、ほとんど利用していなかったのに、今回の件でその使い勝手の良さに気付かされ、「今後さらに利用範囲を拡大して、教育効果を高めていこう!」という気になっています。Office365の世界がようやく理解できたことも大きな収穫でした。私生活では、これまで真剣に考えもしなかった自分自身の健康を見つめ直し、抵抗力や体力をつけるための習慣を新たに取ったりもしました。

皆さんのように若い世代でこのような経験をするとするのは、必ず今後の人生に大きな意味を持ってくると思います。いいえ、そうしなければならないのです。このコロナ禍で経験した閉塞感や巣籠もり生活という想定外の出来事を経験したからこそ生み出すことのできる気づきや、知恵があるはずです。

そういう気持ちで、四日市大学総合政策学部のカリキュラムをもう一度見直してみてもどうでしょうか？もしかすると、昨年までは興味がなかった講義科目に、コロナ禍を生き抜こうとしている、この1年で変化したあなたの心が動かされるかもしれません。

我々人間には逆境を乗り越え、次世代のために技術を進化させていく力を持っているのです。一人一人の爪の研ぎ方、歩み、変化や変革は極めて小さいものですが、それが社会という大きな枠の中で、これまで起きなかった化学反応をうみ、社会全体の大きな進歩につながって行くに違いありません。大学の授業への新たな興味の発掘は、必ずその一歩につながるはずです。

あいさつ

環境情報学部長 千葉 賢

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。2・3・4年生のみなさん、今年度も充実した学生生活を送りましょう。

さて、新入生のみなさんは、入学してからまだ間もなく、大学の授業とはどういうもので、どのように授業を受ければよいのか、とまどうことばかりでしょう。この「履修要綱」と、同時に配布されている「講義要綱（シラバス）」は、これから授業を受けていく上で指針となるものです。熟読してください。2年生以上の学生は、一度は経験していますので、わかっていることも多いと思いますが、もう一度よく読んでください。

環境情報学部のカリキュラムにおいては、「全学共通教育科目」と「学部専門教育科目」から構成されています。学年次で配当科目、卒業必要条件も変わりますので、自分の年次をよく確かめて履修してください。

各部門の履修科目を決めるときには、この履修要綱と講義要綱をよく読み、科目の講義内容をよく理解しておいてください。大学では高校のようにあらかじめ決められた科目を受講するのではなく、卒業必要条件を満たす範囲内であれば、多くの科目の中から、自分の興味にしたがって授業を選択できるからです。

履修に当たっては、自分がどのような内容を学びたいのかを第一に考えてください。なかには、朝の1限目の講義や特定の曜日に授業を入れないように履修科目を決める人がいます。しかし、みなさんは勉強するために大学に来ています。自分は何を学びたいのかを最優先にして行動するように心がけてください。

新入生のみなさんにとっては、90分間という大学の授業時間が大変長くて負担に思う人もいます。でも、慣れてください。集中して授業を聞いていると、90分間はすぐに終わってしまうように感じます。

みなさんが卒業してからも、環境情報学部で学んでよかったと思えるような学生生活を送られることを心から願っています。

目 次

2021年度教学暦	1~2
履修登録等日程	3
1. 授 業	
1. セメスター制	5
2. 単位制	5
3. 授業時間帯	5
4. 授業マナーについて	5
5. 授業の欠席について	5
6. 授業	6
7. 科目の種類	6
8. 休講	7
9. 補講	7
10. 集中講義	7
11. 教室変更	7
2. 履 修	
1. 履修とは	8
2. 履修上の注意	8
3. 履修制限	8
4. 他学部開講科目の聴講	9
5. 留学生対象科目について	9
6. コンピュータ教室使用科目・実験室使用科目	9
3. 履修登録	
1. 履修登録の流れ	12
2. 時間割作成	12
3. コンピュータ(Web)登録	12
4. 確認・訂正	12
4. 履修中止制度	
1. 履修中止制度	13
2. 成績証明書の記載について	13
5. 試 験	
1. 定期試験	14
(1) 筆記試験	14
(2) レポート試験	14
2. 受験上の注意	14
3. 追試験	15
4. 再試験	15
5. 定期試験と追・再試験の関係	16
6. 追・再試験時間帯	16
6. 成 績	
1. 成績評価	17
2. 成績配付	17
7. G P A	
1. G P A制度	18
2. G P Aの算出方法	18
8. UNIVERSAL PASSPORT	19
9. 担当教員	
1. 各年次担当教員	26
2. オフィスアワーについて	27
3. 授業改善アンケート	27
10. その他	
1. 掲示板	28
2. UNIVERSAL PASSPORT	28
3. 提出物	28
4. 窓口受付時間	28
5. 問い合わせ	28
6. 各種願・届	29

11. カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

1. ねらい	30
2. イメージ図	30
3. 卒業要件	31
4. 基礎科目	32
5. 語学科目	34
6. 日本語科目	35
7. 情報科目	36
8. 地域科目	37
9. 一般教養科目	38
10. キャリア科目	40
11. 特別科目・ボランティア活動 a・b	41
12. 特別科目・国際協力研修/青年海外協力研修	42
13. 特別科目・インターンシップ	43
14. スキル科目	44
①社会調査士養成ユニット	44
②公務員養成ユニット	46
③おもてなし経営ユニット	48
④英語力養成ユニット	49
⑤メディアデザインユニット	50
⑥数理・統計力養成ユニット	52
12. 資格等の単位認定	53
13. 「防災士」の資格を目指す科目	55
14. 地域志向科目と三重創生ファンタジスタ資格	56
15. 成長スケール	57
16. 海外語学研修	58
17. スポーツ指導者養成科目（総合政策学部）	59
18. 社会調査士資格科目（総合政策学部）	60
19. おもてなし経営実践プログラム（総合政策学部）	61
20. 環境情報特別講義 I（環境情報学部）	62
21. 海洋調査法（環境情報学部）	63
22. 総合政策学部カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）	
1. カリキュラムポリシーとディプロマポリシー	64
2. カリキュラムマップ	65
3. カリキュラムツリー	66
4. カリキュラム説明	67
5. 卒業要件	69
6. カリキュラム表	70
7. 年次履修計画・履修モデル	74
8. 卒業研究	89
23. 環境情報学部カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）	
1. カリキュラムポリシーとディプロマポリシー	90
2. カリキュラムについて	91
3. カリキュラムマップ	92
4. カリキュラムツリー	93
5. 卒業要件	95
6. カリキュラム表	96

2021年度 教 学 暦

授業
試験
集中講義・補講

4 月

日	月	火	水	木	金	土
				1 入学式	2 新入生オリエンテーション	③
④	5 新入生オリエンテーション	6 新入生オリエンテーション 履修登録	7 前学期授業開始 履修登録確認・訂正	8 履修登録確認・訂正	9 履修登録確認・訂正	⑩
⑪	12 履修登録確認・訂正	13 履修登録確認・訂正	14	15	16	⑰
⑱	19	20	21	22	23	⑳
㉕	26	27	28	㉑ (昭和の日)	30	

5 月

日	月	火	水	木	金	土
						①
②	③ (憲法記念日)	④ (みどりの日)	⑤ (こどもの日)	6	7	⑧
⑨	10 履修中止申請書配布・受付	11 履修中止申請書配布・受付	12 履修中止申請書配布・受付	13 履修中止申請書配布・受付	14 履修中止申請書配布・受付	⑮
⑯	17 履修中止申請書配布・受付	18 履修中止申請書配布・受付	19 履修中止申請書配布・受付	20 履修中止申請書配布・受付	21 履修中止申請書配布・受付	⑳
㉓	24 履修中止内容確認	25 履修中止内容確認	26 履修中止内容確認	27 履修中止内容確認	28 履修中止内容確認	㉑
⑳	31					

6 月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4	⑤
⑥	7	8	9	10	11	⑫
⑬	14	15	16	17	18	⑰
㉑ 学園創立記念日	21	22	23	24	25	㉒
㉗	28	29	30			

7 月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	③
④	5	6	7	8	9	⑩ 補講
⑪	12	13	14	15	16	⑰ 補講
⑱	19	20	21	㉒ (海の日) 平常授業	㉓ (スポーツの日) 平常授業	⑳
㉕	26	27 前学期授業終了	28 前学期試験	29 前学期試験	30 前学期試験	㉑

* 7月22日(木)・23日(金)は祝日ですが、平常どおり授業を実施します。

8 月

日	月	火	水	木	金	土
①	2 前学期試験	3 前学期試験	4 前学期試験	5 追試験願締切	6 追試験該当者・時間割発表	⑦
⑧	⑨ (山の日)	10 追試験	11 追試験	12	13	⑭
⑮	16	17	18	19 再試験該当者発表 再試験願出	20 再試験時間割発表	⑳
㉒	23 再試験	24 再試験	25	26	27	㉑
㉓	30	31				

9 月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3 成績配付(留年生)	④
⑤	6	7	8 秋季卒業式	9	10	⑪
⑫	13	14	15	16	17	⑱
⑲	㉑ (敬老の日)	21 1年生ガイダンス 成績配付・履修登録	22 2年生・3年生ガイダンス 成績配付・履修登録	㉒ (秋分の日)	24 4年生ガイダンス 成績配付・履修登録 成績不振者面談(1234年)	㉑
㉓	27 後学期授業開始 履修確認・訂正	28 履修確認・訂正	29 履修確認・訂正	30 履修確認・訂正		

* 学年別ガイダンスの詳細は後日掲示します。

10月

日	月	火	水	木	金	土
					1 履修確認・訂正	②
③	4	5	6	7	8	⑨
⑩	11	12	13	14	15	⑯
⑰	18 履修中止申請書配布・受付	19 履修中止申請書配布・受付	20 履修中止申請書配布・受付	21 履修中止申請書配布・受付	22 履修中止申請書配布・受付	⑳ 大学祭
㉔ 大学祭	25 履修中止申請書配布・受付	26 履修中止申請書配布・受付	27 履修中止申請書配布・受付	28 履修中止申請書配布・受付	29 履修中止申請書配布・受付	⑳
⑳						

* 大学祭10月23日・24日（予定）

11月

日	月	火	水	木	金	土
	1 履修中止内容確認	2 履修中止内容確認	③ (文化の日) 平常授業 履修中止内容確認	4 履修中止内容確認	5 履修中止内容確認	⑥
⑦	8	9	10	11	12	⑬
⑭	15	16	17	18	19	⑳
㉑	22	㉓ (勤労感謝の日)	24	25	26	㉗
㉘	29	30				

* 11月3日（水）は祝日ですが、平常どおり授業を実施します。

12月

日	月	火	水	木	金	土
			1	2	3	④
⑤	6	7	8	9	10	⑪ 補講
⑫	13	14	15	16	17	⑱ 補講
⑲	20	21	22	23	24	㉕
㉖	27	28	29	30	31	

1月

日	月	火	水	木	金	土
						① (元日)
②	3	4	5	6	7	⑧
⑨	⑩ (成人の日)	11	12	13	14	⑮
⑰	17	18	19	20	21	㉒
㉓	24	㉕ 後学期授業終了	26	27	28	㉙
⑳	31 後学期試験					

2月

日	月	火	水	木	金	土
		1 後学期試験	2 後学期試験	3 後学期試験	4 後学期試験	⑤ 後学期試験
⑥	7 追試験願締切	8 追試験該当者・時間割発表	9 追試験	10 追試験	⑪ (建国記念の日)	⑫
⑬	14	15	16	17	18 成績配付(4年生) 再試験該当者発表・再試験願出	⑲
⑳	21 再試験時間割発表	22	㉓ (天皇誕生日)	24 再試験	25 再試験	㉖
㉗	28					

3月

日	月	火	水	木	金	土
		1	2	3	4 成績配付(4年生)	⑤
⑥	7	8	9	10	11	⑫
⑬	14	15 卒業式	16	17	18	⑲
⑳	㉑ (春分の日)	22 新2年生・3年生ガイダンス 成績配付・健康診断・履修登録	23 新4年生ガイダンス 成績配付・健康診断・履修登録 成績不振者面談(新2・3年生)	24 履修登録締切13:00	25	㉖
㉗	28	29	30	31		

* 学年別ガイダンスの詳細は後日掲示します。

※日程変更および臨時休業等はその都度掲示にて連絡します。

履修登録等日程

2021年度 前学期

月日（曜日）	学 年	内 容	時 間	場 所
3月23日(火)	新2年生 (2020年度) 入学生	在学生オリエンテーション		詳細は掲示で確認してください。
	新3年生 (2019年度) 入学生			
3月24日(水)	新4年生 (2018年度) 入学生			
3月25日(木)	新2～4年生	前学期履修登録締切日	最終日13:00まで	5号館
4月1日(木)	新入生	入学式・新入生ガイダンス、学部対面式	13:00～	四日市市文化会館
		留学生ガイダンス 日本学生支援機構奨学金(予約採用者) 説明会	15:40～	
4月2日(金) ～6日(火)		学部別教務ガイダンス、プレースメン トテスト、健康診断、履修登録等を実施 します。	別途指示	四日市大学 別途指示
4月7日(水) ～7月27日(火)	全学年	前学期授業開始～前学期授業終了		
4月7日(水) ～13日(火)	全学年	履修登録確認・訂正	最終日16:30まで	履修登録確認・訂正 期間ですが、第1講の講義から必ず出席 してください。
5月10日(月) ～21日(金)	全学年	履修中止申請書配布・受付	最終日16:30まで	教学課
5月24日(月) ～28日(金)	全学年	履修中止内容確認	最終日16:30まで	教学課

*3月24日(水) 14:20～成績不振者保護者面談

2021年度 後学期

月日(曜日)	学 年	内 容	時 間	場 所
9月3日(金)	2017年度 以前入学生	成績配付	9:00~16:30	教学課
9月21日(火)	1年生	後学期オリエンテーション	9:10 時間厳守	詳細は掲示で確認 してください。
9月22日(水)	2年生	学生生活・CSCガイダンス、学部 別ガイダンス、履修登録等を実施しま す。在学生はこれらすべてに参加しな ければなりません。 遅刻をするとスケジュールに支障を きたすので集合時間を守ること。	9:10 時間厳守	
	3年生		13:00 時間厳守	
9月24日(金)	4年生		9:10 時間厳守	
9月24日(金)	全学年		後学期履修登録締切日	最終日16:30まで
9月27日(月) ~1月25日(火)	全学年	後学期授業開始~後学期授業終了		
9月27日(月) ~10月1日(金)	全学年	履修登録確認・訂正	最終日16:30まで	履修登録確認・訂正 期間ですが、第1講の講義から必ず出席 してください。
10月18日(月) ~29日(金)	全学年	履修中止申請書配布・受付	最終日16:30まで	教学課
11月1日(月) ~11月5日(金)	全学年	履修中止内容確認	最終日16:30まで	教学課

*9月8日(水) 10:30~…秋季卒業式

*9月24日(金) 午後…成績不振者保護者面談

2022年度 前学期

月日(曜日)	学 年	内 容	時 間	場 所
3月22日(火)	新2年生 (現1年生)	在学生オリエンテーション 学生生活ガイダンス、健康診断、学 部ガイダンス、履修登録等を実施しま す。在学生はこれらすべてに参加しな ければなりません。 遅刻をするとスケジュールに支障を きたすので集合時間を守ること。		詳細は掲示で確認してください。
	新3年生 (現2年生)			
3月23日(水)	新4年生 (現3年生)			
3月24日(木)	新2~4年生	前学期履修登録締切日 (上記2日間に未登録の者など)	最終日13:00まで	5号館

*3月23日(水) 午後、成績不振者保護者面談

**※オリエンテーション期間、履修登録期間は学生便覧・履修要綱・シラバス・時間割・
筆記用具を必ず持参してください。**

1 授 業

1. セメスター制

セメスター制とは、1年間を前学期（4月1日から9月15日まで）と後学期（9月16日から翌年3月31日まで）の2つの学期に分け、各学期で授業を完結し、単位を修得する制度です。

4年次まで計8つの学期に分けられることとなります。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期

2. 単位制

すべての授業科目には一定の基準で単位数が定められています。定められた基準に従って授業科目を履修し、学修状況・出席・試験等による成績評価の結果、合格することによって、その授業科目に与えられている単位を修得していく制度が単位制です。そして、この単位数によって学修の達成度が計られ、単位数の合計が一定の要件を満たした者に対して卒業が認定されます。

3. 授業時間帯

本学の授業は90分を1時限として行っており、授業時間帯は次のとおりです。

1時限	2時限	3時限	4時限	5時限
9:10～10:40	10:50～12:20	13:00～14:30	14:40～16:10	16:20～17:50

授業は、学生生活の中心であると同時に、学問探求の場でもあります。従って、授業への出席は重要であり、常に出席し、積極的に学修に取り組まなければなりません。

4. 授業中のマナーについて

- ❖携帯電話、電源を切るか、マナーモードにする。
- ❖アメ・ガム・ジュースなどを含め飲食はしない。
- ❖遅刻をしない。
- ❖私語をしない。
- ❖その他周りの学生に迷惑を及ぼす行為をしない。

5. 授業の欠席について

やむを得ない理由により授業を欠席した場合は、欠席した授業の次の時間に、担当教員に欠席したことを直接申し出てください。

但し、2週間以上病気等で欠席する場合、あるいは公認欠席の場合には、教学課への届出が必要です。

【履修要綱P29、学生便覧の規則等を参照してください。】

6. 授業

①授業形態

大学の授業は講義、演習、実験、実技などに区分されています。いずれの形態においても授業への出席、予習、復習、試験の受験が必要です。

②開講方式

授業には3つの開講方式があります。

- a. 週1回開講
- b. 週2回開講（連続講義）
- c. 週2回開講（非連続講義）

b・cの授業は対になっている週2回の授業時間帯に他の授業を履修することはできません。

③先修制

授業科目名に「1」「2」の算用数字がついている科目は先修制科目です。例えば、「2」のついた授業科目を履修するためには「1」のついた授業科目の単位を先に修得していなければなりません。これは、履修科目の学修成果をより高めるために設けられた「学修の順序」です。したがって、「1」「2」の授業科目を同一学期に履修することはできません。

[類似の科目表記に注意]

1. 授業科目名に「a」「b」のついている科目は先修制科目ではありません。どちらを先に履修してもよく、また同時に履修することも可能です。
2. 授業科目名に「I」「II」のついている科目は先修制科目ではありません。しかし、できる限り「I」⇒「II」の順序で履修することが望まれます。

7. 科目の種類

①必修科目

卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目です。卒業に必要な単位を満たしていても、必修科目を修得していなければ卒業することはできません。

②選択科目

複数の科目の中から、自由に選択し履修することができる科目です。区分ごとに卒業に必要な単位数が定められています。シラバスをよく読み授業内容を理解し、年次、単位数に注意をして計画的に履修してください。

1 授 業

8. 休講

- ①大学の行事、会議、担当教員の学会出張・病気等の理由で授業が出来ない場合は、その授業を休講することがあります。その場合は、掲示にて通知します。**（電話による問い合わせには応じませんので注意してください。）**
- ②休講掲示がなく、授業開始時間から30分経過しても授業が行われない場合は、休講となります。その場合は、教学課に連絡をしてください。
- ③暴風警報等の発令時および交通機関のストライキ等が生じた場合は、規程によって休講となります。**（詳細は ホームページ、掲示などを参照してください。）**
- ④休講情報をUNIVERSAL PASSPORTで配信します。更新のタイミングにより、突発的な休講は反映されないことがありますので正式には掲示板で確認してください。

9. 補講

何らかの事情により授業が休講になった場合や、授業内容が予定通り進まなかった場合に担当教員の判断で平常の授業以外に行われる授業のことです。補講は平日の5時限、または補講期間(教学暦参照)に開講します。補講日時は掲示およびUNIVERSAL PASSPORTで連絡します。

10. 集中講義

集中講義とは、通常授業とは別に、所定の期間(教学暦参照)に集中して行われる授業のことです。集中講義の授業日時等は掲示板で確認してください。

11. 教室変更

授業時間割には、各授業科目の教室番号が記載してあります。教室を変更する場合、掲示およびUNIVERSAL PASSPORTで連絡します。教室を間違えないように受講してください。

1. 履修とは

大学が定めるルールに従って授業科目を受講し、卒業要件を満たしていくことを履修といいます。総合政策学部のカリキュラムをよく理解し、将来の進路にあわせて目標を定めることが大切です。卒業要件を考慮しつつ、「履修上の注意」や「履修制限」に注意して、各自の履修計画を立ててください。その際、「履修要綱」「講義要綱（シラバス）」「学生便覧」を活用してください。

- 「履修要綱」・・・学修のルールを解説します。
- 「講義要綱（シラバス）」・・・講義の詳細な内容を案内します。
- 「学生便覧」・・・学則や学生生活上のルールを解説します。

2. 履修上の注意

時間割をもとに、各自の時間割を作成しますが、その際、配当年次、クラス、優先科目（必修科目・選択必修科目等）などに注意すると共に、以下の注意事項を守り履修しなければなりません。

- ①授業には出席し、積極的に学習に取り組んでください。
- ②同一曜日・時限に開講される授業科目を同時に履修することはできません。
- ③集中講義についても履修登録が必要です。
- ④一度単位を修得した科目を二度履修することはできませんが、成績が「不可」の科目は再度履修することができます。
- ⑤開講年次が下位学年配当の科目を履修することはできますが、上位学年配当の科目を履修することはできません。
- ⑥事前登録科目は、指定された曜日・時限で履修してください。
- ⑦先修制の科目は、科目の順番通りに単位を修得していなければ履修することはできません。
- ⑧履修登録をしていない科目の単位は授業を受講したとしても認定されません。
- ⑨履修登録した科目がすべて単位化（合格）出来るとは限りません。卒業単位を修得するためには余裕をもって履修登録してください。但し、履修制限単位数を超えて履修することはできません。
- ⑩履修登録は学期ごとに実施します。この時に、自分が今までに修得した単位数、今から履修すべき単位数をよく確認してください。
- ⑪履修登録時点では卒業要件を満たしていても、登録した科目の途中放棄や履修中止により単位数が不足する場合がありますので注意してください。

3. 履修制限

各年次の学期ごとに定められた履修制限単位数を超えて履修することはできません。但し、履修制限対象外科目については制限単位数に含まれません。

【2013年度以降入学生】

1年次～4年次まで学期あたり24単位を上限とします。

1年次		2年次		3年次		4年次	
前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期	前学期	後学期
24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位	24単位

なお、下表のとおりGPAにより履修登録の上限を変更することができます。但し、直前の学期の修得単位数は12単位以上必要です。

履修登録学期の前の学期のGPA	履修登録の上限単位数
3.5以上の場合	28
3.0以上3.5未満	26
3.0未満	24

※1年次後学期の履修登録から適用となります。

② 履 修

履修制限対象外科目（履修制限単位数に含まれません。）

科 目 名
海外語学研修 a、海外語学研修 b、地域連携特別講義 a、地域連携特別講義 b、ボランティア活動 a、ボランティア活動 b、国際協力研修、インターンシップ、他大学開放科目 a、他大学開放科目 b、他大学開放科目 c、他大学開放科目 d、他大学開放科目 e、資格取得による読替科目、海洋調査法（環境情報学部）、環境情報特別講義 I（環境情報学部）

4. 他学部開講科目の聴講

聴講とは単位修得を必要とせず、知識の修得、資質の向上を目的として受講をすることです。卒業論文制作や、卒業研究等に役立てるために関連科目を受講する場合などを指します。

聴講できる科目は、原則として講義科目とし、演習（ゼミ）科目、実験実習科目等は除きます。

聴講を希望する学生は「他学部科目聴講願」に担当教員の承認を得て**授業開始日一週間後迄**に教学課に提出してください。

5. 日本語科目について

留学生は、留学生対象科目を必ず履修をし、授業に出席してください。

6. コンピューター教室使用科目・実験室使用科目

コンピューター教室使用科目及び実験室使用科目の履修は、機器・機材等に制限があるため、履修者が一定以上あった場合、最初の授業において抽選を行います。下記の該当科目の履修を希望する学生は、必ず最初の授業に出席してください。最初の授業に出席しなかった場合は、履修が自動的にキャンセル扱いになります。注意してください。また、抽選ではずれた場合は、履修登録確認・訂正日において、履修の変更を行ってください。

【総合政策学部 コンピュータ教室使用科目】（※必修科目を除く）

学期	曜日	時限	学年	授業科目名	担当教員	定員	教室
前	月	1	1	メディアツールa	池田幹男	23	5102
前	月	2	2	英語コミュニケーションⅠ	エリック・プレイ	17	4101
前	月	2	2	英語コミュニケーションⅠ	ゴードン・リース	23	5102
前	月	3	3	Webデザインb	堀内敬弘	19	5201
前	月	3	1	観光英語Ⅰ	エリック・プレイ	17	4101
前	月	4	2	英語コミュニケーションⅠ	エリック・プレイ	17	4101
前	月	4	2	英語コミュニケーションⅠ	ゴードン・リース	23	5102
前	火	1	2	アプリケーション演習Ⅱ	本部賢一	22	5101
前	火	1	2	アプリケーション演習Ⅱ	池田幹男	23	5102
前	水	1	1	基礎英語Ⅰ	柴田啓文	23	5102
前	水	1	1	基礎英語Ⅰ	ゴードン・リース	27	5202
前	水	2	1	メディアツールa	都 映里	19	5201
前	水	2	1	コンピュータ英語Ⅰ	柴田啓文	27	5202
前	水	3	2	データ分析の基礎	田中伊知郎	27	5202
前	水	4	1	メディアツールa	都 映里	19	5201
前	水	4	2	おもてなし特別講義 a	岩崎(祐)・岡(良)	42	5301・5302
前	木	1	2	英語表現Ⅰ	ゴードン・リース	17	4101
前	木	3	2	Webプログラミングb	池田幹男	27	5202
前	木	4	2	地域福祉論	柴田啓文	27	5202
前	金	1	2	メディアツールc	田中麻衣	19	5201
前	金	2	2	メディアツールc	田中麻衣	19	5201
前	金	3	1	メディアツールa	池上貴文	19	5201
後	月	2	2	英語コミュニケーションⅡ	エリック・プレイ	17	4101
後	月	2	2	英語コミュニケーションⅡ	ゴードン・リース	21	5302
後	月	3	1	観光英語Ⅱ	エリック・プレイ	17	4101
後	月	3	3	公務のための英文理解	ゴードン・リース	21	5302
後	月	1	2	メディアツールd	関根辰夫	19	5201
後	月	4	2	英語コミュニケーションⅡ	エリック・プレイ	17	4101
後	月	4	3	マーケティング演習	岡(良)・岩崎(祐)・西浦	27	5202
後	月	4	2	英語コミュニケーションⅡ	ゴードン・リース	21	5302
後	水	1	1	基礎英語Ⅱ	ゴードン・リース	23	5102
後	水	1	1	基礎英語Ⅱ	柴田啓文	21	5302
後	水	2	1	メディアツールb	都 映里	19	5201
後	水	2	1	コンピュータ英語Ⅱ	柴田啓文	27	5202
後	水	3	2	統計的分析	田中伊知郎	27	5202
後	水	4	2	英語表現Ⅱ	ゴードン・リース	17	4101
後	水	4	1	アプリケーション演習Ⅰ	池田幹男	22	5101
後	水	4	1	メディアツールb	都 映里	19	5201
後	水	4	1	アプリケーション演習Ⅰ	本部賢一	27	5202
後	木	2	1	Webプログラミングa	池田幹男	23	5102
後	木	2	1	Webプログラミングa	片山清和	27	5202
後	木	2	1	Webプログラミングa	前川督雄	21	5301
後	木	3	1	メディアツールb	池田幹男	27	5202
後	木	4	2	おもてなし特別講義 b	池田・岩崎(祐)・岡(良)	50	5102・5202
後	金	5	2	Webデザインa	堀内敬弘	19	5201
後	金	2	2	データ解析の技法	吉見勝治	23	5102
後	金	4	1	メディアツールb	池上貴文	19	5201

* コンピュータ教室使用科目以外で履修制限のある場合は、シラバスに記載されています。シラバスをしっかりと読んで確認してください。

2 履 修

環境情報学科 2017年度以降入学生

開講期	曜日	時限	学年	授業科目名称	担当教員	定員	教室
前	月	1	1	メディアツール a	池田 幹男	23	5102
前	月	2	2	英語コミュニケーション I	エリック・プレイ	17	4101
前	月	2	2	英語コミュニケーション I	ゴードン・リース	23	5102
前	月	3	1	観光英語 I	エリック・プレイ	17	4101
前	月	3	3	データ統計処理	片山 清和	27	5202
前	月	3	3	Webデザイン b	堀内 敬弘	20	5201
前	月	4	2	英語コミュニケーション I	エリック・プレイ	17	4101
前	月	4	2	英語コミュニケーション I	ゴードン・リース	23	5102
前	月	4	3	地理情報システム論	井岡 幹博	27	5202
前	火	1	2	アプリケーション演習Ⅱ	池田・本部	45	5101・5102
前	水	2	1	コンピュータ英語 I	柴田 啓文	27	5202
前	水	2	1	メディアツール a	都 映里	20	5201
前	水	3	2	データ分析の基礎	田中伊知郎	27	5202
前	水	4	1	メディアツール a	都 映里	20	5201
前	水	4	3	データベースプログラミング	井岡 幹博	22	5101
前	木	1・2	1	コンピュータリテラシー	池田・片山	72	5101・5102・5202
前	木	1・2	2	環境実験・調査 a	廣住・大八木	8	実験室
前	木	1	2	英語表現 I	ゴードン・リース	17	4101
前	木	2	3	コンピュータ音楽論	柳澤 翔士	20	5201
前	木	3・4	1	環境化学実験	牧田 直子	8	実験室
前	木	3	2	Webプログラミング b	池田 幹男	27	5202
前	金	1	2	メディアツール c	田中 麻衣	20	5201
前	金	2	2	メディアツール c	田中 麻衣	20	5201
前	金	3	1	メディアツール a	池上 貴文	20	5201
前	金	4	1	基礎英語 I	柴田 啓文	23	5102
後	月	2	2	英語コミュニケーションⅡ	エリック・プレイ	17	4101
後	月	2	2	英語コミュニケーションⅡ	ゴードン・リース	21	5302
後	月	3	1	観光英語Ⅱ	エリック・プレイ	17	4101
後	月	3	3	公務のための英文理解	ゴードン・リース	21	5302
後	月	4	2	英語コミュニケーションⅡ	エリック・プレイ	17	4101
後	月	4	2	英語コミュニケーションⅡ	ゴードン・リース	21	5302
後	月	4	2	メディアツール d	関根 辰夫	20	5201
後	月	4	3	マーケティング演習	岩崎(祐)・岡(良)・西浦	27	5202
後	月	4	3	情報システム論	池田 幹男	21	5301
後	水	1	3	コンピュータグラフィックス	井岡 幹博	22	5101
後	水	2	1	コンピュータ英語Ⅱ	柴田 啓文	27	5202
後	水	2	1	メディアツール b	都 映里	20	5201
後	水	3	2	統計的分析	田中伊知郎	27	5202
後	水	4	1	アプリケーション演習Ⅰ	池田・本部	49	5101・5202
後	水	4	1	メディアツール b	都 映里	20	5201
後	水	4	2	英語表現Ⅱ	ゴードン・リース	17	4101
後	木	1・2	1	環境化学実験	牧田 直子	8	実験室
後	木	1	2	プログラミング	片山 清和	27	5202
後	木	2	1	Webプログラミング a	片山・前川・池田	71	5102・5202・5301
後	木	3	1	メディアツール b	池田 幹男	27	5202
後	木	3・4	2	環境実験・調査 b	大八木・廣住	8	実験室
後	木	4	2	おもてなし特別講義 b	池田・岩崎(祐)・岡(良)	50	5102・5202
後	金	2	2	Webデザイン a	堀内 敬弘	20	5201
後	金	2	2	データ解析の技法	吉見 勝治	23	5102
後	金	4	1	メディアツール b	池上 貴文	20	5201
後	金	4	1	基礎英語Ⅱ	柴田 啓文	21	5302

1. 履修登録の流れ

履修登録の手続きは次のような流れになっています。履修要綱（本書）をよく読み、間違いのないように登録してください。

* 単位修得までの簡単な流れ



2. 時間割作成

各自で時間割を作成します。P.8の「履修上の注意」「履修制限」に注意してください。

3. コンピュータ (Web) 登録

【前学期】 新入生 4月 6日(火)16:00まで
 新2年 3月23日(火)~3月25日(木)13:00まで
 新3年 3月23日(火)~3月25日(木)13:00まで
 新4年 3月24日(水)~3月25日(木)13:00まで

【後学期】 1年生 9月21日(火)~9月24日(金)16:30まで
 2年生 9月22日(水)~9月24日(金)16:30まで
 3年生 9月22日(水)~9月24日(金)16:30まで
 4年生 9月24日(金)16:30まで

- ①履修登録のためにコンピュータ教室を専用教室として開放します。
- ②履修登録は、四日市大学UNIVERSAL PASSPORT上で行ってください。【履修登録の際には、学内のPCにログオンするためのユーザーIDとパスワードが必要です。】
- ③登録期間中は何度でも登録内容の変更が可能です。しかし、期間終了後は一切の変更が出来なくなります。履修科目を選ぶ際は、講義要綱（シラバス）・履修要綱をよく読んでから行ってください。
- ④履修登録後、必ず保存用に時間割の印刷を行ってください。

4. 履修登録内容の確認・訂正

【前学期】 全学年 4月 7日(水)~13日(火)9:00~16:30
 【後学期】 全学年 9月27日(月)~10月1日(金)9:00~16:30

- ①履修の確認は、四日市大学UNIVERSAL PASSPORT 上で行ってください。
- ②時間割が間違っている場合、その場で修正してください。なお、保存用に必ず印刷を行ってください。

* 1年生で前学期の履修登録内容の確認・訂正期間終了後（開講後2週間以内）に履修変更を希望する学生は、教学課で申請用紙を受け取り、入門演習担当教員に相談・承認を受けてください。

4 履修中止制度

1. 履修中止制度

履修中止制度とは、前学期及び後学期の一定期間に本人からの申請により履修登録した科目の履修の中止を認める制度です。

授業を受けてきたものの勉強したい内容と異なっていた場合や授業についていけないだけの知識が不足していると感じられた場合など、そのままでは単位を修得することが難しく、不合格（「不可」）となることでGPAが下がることを回避するための措置です。

* 履修中止科目申請書配布・受付期間 (9:00~16:30 教学課)

前学期 5月10日(月)~ 5月21日(金)

後学期 10月18日(月)~10月29日(金)

* 履修中止内容確認期間 (9:00~16:30 教学課)

前学期 5月24日(月)~ 5月28日(金)

後学期 11月 1日(月)~11月 5日(金)

(注1) 履修中止を希望する学生は、ゼミ担当教員に相談・承認を受けてください。ゼミ担当教員の署名捺印のある申請書のみ有効です。

(注2) いったん履修中止を申請した科目は、その学期内に履修を復元させることは出来ません。

(注3) 必修科目は原則として履修中止を認めません。

(注4) 履修中止した単位数分の追加履修は認めません。

(注5) 履修中止申請が認められない場合もあるので、履修中止内容の確認をするまでは、必ず当該授業に出席してください。

2. 成績証明書の記載について

履修中止をした科目は、成績証明書に記載されません。

1. 定期試験

(1) 筆記試験は一定の期間を設けて前学期と後学期に実施します。

- ① 科目ごとの試験実施の有無および時間割等は、試験期間開始の2週間前に掲示にて発表します。
- ② 試験の時間帯は次のとおりです。

1 時限	2 時限	3 時限	4 時限
9:10～10:40	10:50～12:20	13:00～14:30	14:40～16:10

- ③ 試験時間は60分または80分です。

(2) レポート試験は、レポートの提出により受験の扱いとなります。必ず本人が提出してください。

「形式・提出日・提出場所」等が決められています。本学指定の「レポート試験用表紙」（教学課にて配布）に指示どおりに記入し、ホッチキスで留めて提出してください。提出日時等は試験時間割発表時に行います。提出締切時間を過ぎると、受け付けることはできません。十分注意してください。

2. 受験上の注意

受験の際は、監督者の指示に従い次の事項を遵守してください。

(1) 受験資格

- ① 試験を受けることのできる科目は、履修登録を行った科目に限ります。
- ② 次に該当する者は受験資格を失いますので注意してください。
* 学生証を忘れた者は、教学課で仮学生証（発行当日のみ有効1,000円）の発行を受けてください。
* 授業料等未納者（当該学期分が完納されていない者）

(2) 入室・退室

- ① 指定の教室に試験開始時間までに入室してください。なお試験開始後20分以上遅刻したものは入室できません。遅刻は他の迷惑になります。時間厳守を心掛けてください。
- ② 前列端より一人おきに着席してください。
- ③ 試験開始後30分以上経過しなければ退室できません。

(3) 不正行為

試験時に次のような不正行為があった場合、同期の試験実施科目（レポート・実技等を含む）をすべて無効とし、学則により処分します。

〔学生便覧参照『学生の試験中における不正行為に関する細則』〕

- (1) 他人の学生証や仮学生証で受験すること
- (2) 名前をごまかして受験すること
- (3) 机や持ち込みを許可されたものに解答などを書き込んでおくこと
- (4) カンニングペーパー等を持っていたり、使用したりすること
- (5) 持ち込みを許可されていないテキスト、ノート、コピー等を持ち込み、見ること
- (6) 他人の答案を見たり、自分の答案を他人に見せたりすること。
また答案用紙を交換すること
- (7) 他人から解答についての指示を受けたり、他人に指示を与えたりすること
- (8) 試験監督者の指示に従わないこと
- (9) 不必要にまわりを見たり、不自然に身体を動かしたりすること
- (10) その他、不正の事実が歴然としていること

(4) 持ち込み品

机上に置くことのできる持込品は、試験科目により異なります。掲示により確認し、監督者の指示に従ってください。携帯電話等の電子機器の電源は入室前に切っておき、机上などの見えるところに置かないようにしてください。

5 試 験

3. 追試験

追試験は以下の理由で試験を受けることが出来なかった場合に実施します。なお評価は修める成績より下げて行われます。

事 由	内 容	必要証明書
病 気		医師の診断書
き びき引	公認欠席となる日数は次のとおりとします。 父母 _____ 5日 祖父母・兄弟 _____ 3日 その他3親等までの血族 _____ 2日 ※上記の日数に往復に要する日数を加えることができる場合があります。 ※上記の日数には土・日・祭日を含めます。	会 葬 礼 状
感 染 症	学校保健法による出席停止	医師の診断書
交通機関	交通機関のストライキ、事故または災害による不通等	遅延証明書等
そ の 他	大学が特別に認めたもの。	

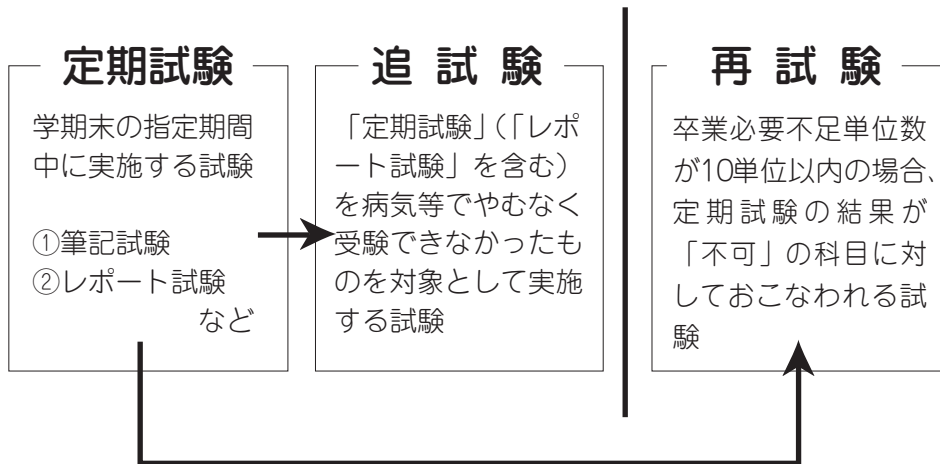
- ①上記に該当する者で、追試験を希望する場合は、指定日時に追試験願を教学課へ提出してください。試験料は1科目につき1,000円です。
- ②願出の際、必ず証明書を添えてください。
- ③試験時間割等の発表は掲示により行います。
- ④試験時間の勘違い、電車等の乗り遅れ、通学途中のトラブル等の自己による不注意は追試験の対象になりません。
- ⑤追試験を欠席した場合、いかなる理由があっても、その後の追試験は行いません。

4. 再試験

再試験とは、卒業年次に定期試験の結果、成績が「不可」となり、卒業必要単位数に足りない場合、その不足単位数が10単位以内であり、その不足単位を修得すれば卒業できる場合の試験です。ただし、前学期は必修科目のみ対象とします。（留年生は前学期・後学期に実施します）

- ①対象科目は定期試験期間中に試験を実施した科目です。
- ②定期試験を欠席した科目は対象になりません。
- ③成績は「可」または「不可」で評価されます。
- ④再試験を希望する場合は、指定日時に再試験願を教学課へ提出し、願い出てください。試験料は1科目につき3,000円です。
- ⑤時間割等の発表は掲示により行います。

5. 定期試験と追・再試験の関係



6. 追・再試験時間帯 追・再試験の時間帯は次のとおりです。(60分)

第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限
9:10 ~10:10	10:20 ~11:20	11:30 ~12:30	13:00 ~14:00	14:10 ~15:10	15:20 ~16:20

6 成 績

1. 成績評価

成績は、点数により評価する科目と、合否のみで判定し合格すれば認められる科目（認定科目）の2種類の評価があります。評点は100点満点で、60点以上が合格で単位が認められます。59点以下の科目は不合格であり単位は認められません。

なお、成績評価には「出席」「小テスト」「レポート」「普段の授業態度」「定期試験」などが含まれます。それぞれの科目における成績評価の割合は、講義要項（シラバス）に記載されているので参考にしてください。

*成績評価・成績評価基準等は次のとおりです。

区 分	評価	成績評価基準	G P	評価内容
合 格	秀	100点～90点	4.0	特に優れた成績
	優	89点～80点	3.0	優れた成績
	良	79点～70点	2.0	妥当と認められる成績
	可	69点～60点	1.0	合格と認められる最低限の成績
不合格	不可	59点～0点	0.0	合格と認められる最低限の成績に達していない
G P 対象外	認	単位認定科目	—	認定※
	止	履修中止	—	所定の手続きを経て履修を中止

(注1) 成績証明書・・・評価（秀・優・良・可・認）が記載されます。ただし、止（履修中止科目）は記載されません。

成績通知書・・・評価（秀・優・良・可・不可・認・止）の全てが記載されます。

※単位認定科目

下表に示す科目は単位認定科目であり、その評価は、「秀・優・良・可」ではなく「認定」となります。他の授業科目と同様、一度単位を認定された科目については、再び単位の認定を申請することはできません。詳細はP.95～P.96を参照してください。

入学年度	認 定 科 目 名
2017年度以降入学生	地域連携特別講義a、地域連携特別講義b、ボランティア活動a、ボランティア活動b、国際協力研修、インターンシップ、資格取得による読替科目、他大学開放科目a～e
2013～2016年度入学生	インターンシップ、ボランティア活動a、ボランティア活動b、青年海外協力研修、資格取得による読替科目

2. 成績配付

各学期の在学生対象のオリエンテーション（9月と3月）にて、成績通知書を配付します。

オリエンテーションの日程等は履修要綱3ページで確認してください。

なお、配付された成績通知書の内容について、内容の確認、修正希望等を含む重要な問い合わせは、成績通知書配付日を含む3日以内に教学課まで申し出てください。

また、時間割・成績はユニバーサルパスポート（保護者用サイト）でも確認していただけます。

1. GPA制度

成績の評価（秀・優・良・可・不可）にそれぞれGP（グレードポイント）（4.0・3.0・2.0・1.0・0.0）を付けて全履修科目の平均を算出したものであり、学業成績を総合的に評価する指標となります。

評価	秀	優	良	可	不可	認	止
G P (グレードポイント)	4.0	3.0	2.0	1.0	0.0	—	—

2. GPAの算出方法

$$\frac{4.0 \times \text{秀の修得単位数} + 3.0 \times \text{優の修得単位数} + 2.0 \times \text{良の修得単位数} + 1.0 \times \text{可の修得単位数}}{\text{総履修登録単位数〔不合格（「不可」）の単位数を含む〕}}$$

注1. 「不合格（「不可」）」は計算式に含めません。

*登録科目が多くても「不合格（「不可」）」が多いとGPAの値は小さくなります。

注2. 「認（単位確定科目）」「止（履修中止）」は計算式に含めません。

注3. GPAは小数点第3位を四捨五入し、小数点第2位までの数値で以下のように成績通知書および成績証明書に記載します。

成績通知書・・・学期ごとのGPA、通算のGPA

成績証明書・・・通算のGPA

3. GPAの活用

通算GPA3.5以上で、特待生基準により学業成績が優秀な者に対し、四日市大学特待生として奨学金を給付します。

成績不振な学生及びその保護者の方と年2回保護者面談（3月と9月）を実施しています。保護者面談対象者で通算GPAが1.00未満の学生に対しては、退学勧奨を含めた指導を実施しています。

少しでもGPA値を上げるように、学業に励んで下さい。

8 UNIVERSAL PASSPORT

●UNIVERSAL PASSPORTへのログイン方法



① 四日市大学のHPを開きます。

学内のコンピュータ教室では、ブラウザを立ち上げると、コンピュータセンターのHPが開きます。そこからUniversal Passportに行くリンクがあります。

② [在学の方へ] をクリックします。

次の画面に移ります。



③ [四日市大学UNIVERSAL PASSPORT] をクリックします。

[学内用] [学外用] があります。学内のコンピュータ教室からは、[学内用] のボタンをクリックしてください。

UNIVERSAL PASSPORTのログイン画面に移ります。



④ [User ID] [PassWord] を入力し [ログイン] をクリックします。

[UserID] および [PassWord] は、学内のコンピュータにログインするものと同じです。

注意) 学外からの接続の場合、使用PCの仕様によってログインが出来ない場合があります。出来るだけ学内のPCを使用し接続するようにしてください。

●UNIVERSAL PASSPORTの画面（TOP画面）説明



- ① [ホーム] ボタン
TOP画面に画面移動します。
- ② [メール設定] ボタン
自分のアドレスを登録します。特に、携帯電話のアドレスを登録しておくこと、休講が発生した場合など、即時に情報を得ることができます。
- ③ [サイトマップ] ボタン
機能の簡単な説明が見られます。
- ④ [ログアウト] ボタン
UNIVERSAL PASSPORTを終了します。



- ⑤ [個人情報] ボタン
成績や履修登録した結果の個人時間割が参照できます。
- ⑥ [授業関連] ボタン
当該年度の時間割が参照できます。
- ⑦ [履修関連] ボタン
履修登録ができます。
- ⑧ [見込み判定] ボタン
当該年次に履修登録した結果と取得単位から卒業見込み判定が行えます。



四日市大学UNIVERSAL PASSPORTは「緊急連絡」「休講情報」「お知らせ」が画面表示されます。特に、「メール設定」がされていれば、「緊急連絡」「休講情報」が即時配信されます。

これ以外に、スケジュール管理機能などもあり、個人ベースの情報の管理が可能です。

- ⑨ [その他機能] ボタン
通常は使用できません。必要な時にUNIVERSAL PASSPORTのお知らせ機能で連絡します。

注意) 常時全ての機能が使えるわけではありません。例えば履修登録機能などは期間を限定して運用します。情報はUNIVERSAL PASSPORTや掲示板を通じて連絡します。

8 UNIVERSAL PASSPORT

●履修登録方法



- ①四日市大学UNIVERSAL PASSPORTにログインします。

ログイン方法はP18を参照してください。

- ②履修関連にマウスを合わせるとプルダウンメニューが開きます。

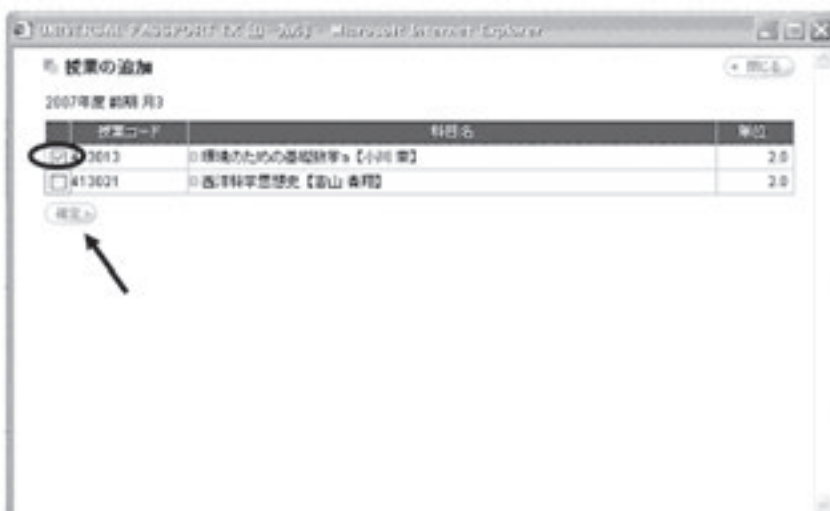
- ③ [履修登録] をクリックします。

画面が切替わり履修登録画面になります。



- ④ [選択] ボタンをクリックします。

ここでは月曜日3時限を例にしています。



- ⑤選択できる科目の一覧が表示されます。

- ⑥履修する科目にチェックを入れます。

ここでは、「環境のための基礎数学a」を選択します。

- ⑦科目を選択したら [確定] ボタンをクリックします。

履修登録の画面に戻ります。

⑧ UNIVERSAL PASSPORT



⑧ “④～⑦” の操作を繰り返して履修したい授業を選択します。

⑨授業の選択を終えたら [チェック] ボタンをクリックします。

⑩チェック開始の確認ウィンドウが開くので [OK] を選択します。



⑪エラーがあれば、一覧表の該当部分がピンクで表示されます。同時に、メッセージも表示されます。

該当部分の時間割を選択しないおとして、再度、[チェック] ボタンをクリックします。
エラーメッセージが消えるまで、繰り返し操作してください。



⑫チェックでエラーが無いと、その旨のメッセージが表示されます。

⑬ [確定] ボタンをクリックします。

⑭チェック開始の確認ウィンドウが開くので、[OK] をクリックします。続いて確定ウィンドウが開くので [OK] をクリックします。

[授業の選択へ戻る] ボタン（点線で示した部分）をクリックすれば、いつでも授業選択画面に戻ります。

8 UNIVERSAL PASSPORT



⑮ “履修登録が完了しました。”とのメッセージが表示されれば完了です。

履修登録が完了すると「時間割表の印刷」ボタンが表示されるようになり、登録した科目が印刷できます。

必ず、保存用に2部印刷を行ってください。

注意）登録期間中は何度でも履修の変更が可能です。しかし、期間後は一切の変更が出来なくなりますので、履修科目を選ぶ際は、講義要綱（シラバス）・履修要綱をよく読んでから行うようにしてください。

●学生時間割確認方法



①四日市大学UNIVERSAL PASSPORTにログインします。

ログイン方法はP18を参照してください。

②個人情報にマウスを合わせるとプルダウンメニューが開きます。

③ [学生時間割表] をクリックします。

画面が切替わり学生時間割表画面になります。



④自分の履修している科目の一覧が表示されます。

この画面で、学生時間割の印刷が可能です。出来る限り画面で確認するようにしてください。

注意) 学生時間割表の機能は、履修登録が完了していなければ使えません。

8 UNIVERSAL PASSPORT

●成績照会



- ① 四日市大学UNIVERSAL PASSPORTにログインします。

ログイン方法はP18を参照してください。

- ② 個人情報にマウスを合わせるとプルダウンメニューが開きます。

- ③ [成績照会] をクリックします。

画面が切替わり成績照会画面になります。



- ④ 単位を取得した一覧が表示されます。

履修中科目がある場合には、単位を取得した科目と混在して表示されます。科目の頭に※印のついているものが履修中の科目になります。

(注意) 成績照会画面には印刷機能はありません。学期始めのオリエンテーション時に、その前までの学期の成績表を配付しますので、必ずオリエンテーションには出席してください。

1. 各年次担当教員

専任教員が担当教員として大学生活全般にわたり指導および相談に応じます。年次ごとの担当教員は下表科目担当者のとおりです。

(2017年度以降入学生)

年次	前 学 期	後 学 期
1年次	入 門 演 習 I	入 門 演 習 II
2年次	基 礎 演 習 a	基 礎 演 習 b
3年次	専 門 演 習 a	専 門 演 習 b
4年次	専 門 演 習 c	専 門 演 習 d

* 専門演習 a～d は同一担当教員です。

9 担当教員

2. オフィスアワーについて

学生の皆さんが、予約なしに先生と話し合うことができる時間帯としてオフィスアワーを設けています。

オフィスアワーでは、皆さんからの授業や勉強についての質問や、さらに就職や将来の進路についてなど、個人的な相談を受けるために教員が研究室で待機しています。

オフィスアワーは、原則として授業期間中の週一回、研究室にて実施します。

なお、オフィスアワー以外にも、各教員は学生からの相談等に応じています。

教学課内にある電子掲示板「教員在校状況表示」にて在校状況を確認し、休み時間などに研究室を訪問してください。

詳しくは、ホームページをご覧ください。

⇒「キャンパスライフ」から「各種相談窓口」、次にオフィスアワーを選択してください。

学部・学科別に教員名が掲載されています。

※四日市太郎先生の場合は、前学期は火曜日の3時限目に876教室に待機していることを示します。

教員名	曜日	時間帯	場所(部屋番号)	備考
※四日市太郎	(前) 火曜日	3時限目	※876教室	原則として在室時は、対応します。
	(後) 木曜日	3時限目		

※架空の先生、場所です

総合政策学部 研究室一覧

教員名	研究室	教員名	研究室
岩崎 恭典		高田 晴美	4605
岩崎 祐子	4603	鶴田 利恵	4704
岡 良浩	4710	富田 与	4607
奥原 貴士	4602	中西 紀夫	4702
加納 光	6507	永井 博	4508
鬼頭 浩文	4511	フェリペ・フェハーリ	4606
小泉 大亮	6501	本部 賢一	6415
小林 慶太郎	4505	松井 真理子	4503
ゴードン・リース	4611	三田 泰雅	4505
杉谷 克芳	4708	若山 裕晃	4703

環境情報学部 研究室一覧

教員名	研究室	教員名	研究室
井岡 幹博	6503	千葉 賢	6420
池田 幹男	4509	野呂 達哉	6502
大八木 麻希	6406	エリック・プレイ	6416
片山 清和	4610	樋口 晶子	6422
木村 眞知子	6411	廣住 豊一	6414
黒田 敦哉	6510	前川 督雄	4609
関根 辰夫	6402	牧田 直子	6412
田中 伊知郎	6405	吉山 青翔	6505

3. 授業改善アンケート

講義の内容や進度、板書法や声量、教育機器の利用等の教授法について「授業改善アンケート」を実施します。このアンケートはみなさんの期待に応える授業を実現することを目的としています。アンケートは無記名方式で、授業の改善以外の目的には使用しません。

実施時期は前学期・後学期の2回を予定しています。

1. 掲示板

掲示板には常に注意してください。

伝達事項や行事等については、全て掲示板で伝達しますので、登校したら必ず掲示板に目を通し、下校するときも再び確認をするようにしてください。

掲示は、学生に対して大学側の意思を伝達する手段です。公示・連絡等を徹底させる重要なものから、常に掲示への注意を図ってください。

一旦、掲示したものについては、全てに連絡したものと見做します。

掲示を見なかったために、不都合を生じ、大きな不利益をこうむるのは自分自身です。掲示を見なかったことに対して責任を免れることはできません。

2. UNIVERSAL PASSPORT

「緊急連絡」「休講情報」「お知らせ」が画面表示されます。特に「メール設定」がされていれば、「緊急連絡」「休講情報」が即時配信されます。

これ以外に、スケジュール管理機能などもあり、個人ベースの情報の管理が可能です。

3. 提出物

提出期限は厳守してください。期限後の提出は一切認められません。

4. 窓口受付時間

曜 日	受 付 時 間
月曜日～金曜日	8：30～17：00

5. 問い合わせ

電話による問い合わせは受け付けません。

学事日程、休講、補講、その他授業や試験に関すること等についての電話による問い合わせには特別な場合を除き応じられません。必要時には、掲示または直接教学課窓口で問い合わせてください。

また、学籍・履修・成績・住所等個人情報についての問い合わせには来課、電話を問わず応じられません。

10 その他

6. 各種願・届

各種願・届	備 考
保証人変更届	保証人が変更になったもの
公 欠 願	<p>忌引、学校保健法に規定する感染症、交通機関のストライキまたは事故、その他大学が認めた事由による者</p> <p>※忌引きによる公認欠席となる日数は次のとおりとします。</p> <p>父母 ————— 5日</p> <p>祖父母・兄弟 ————— 3日</p> <p>その他3親等までの血族 ——— 2日</p> <p>・上記の日数に往復に要する日数を加えることができる場合もあります。</p> <p>・上記の日数には土・日・祭日を含めます。</p>
欠席届（長期）	病気等の理由で2週間以上授業を欠席する者
仮学生証交付願	試験時等に学生証を忘れた者 （発行当日限り有効）（手数料1,000円）
追 試 験 願	履修要綱P.14に記載してある事由で、定期試験を受験できなかった者 （手数料1科目につき1,000円）
再 試 験 願	卒業必要不足単位数が10単位以内の者 （詳細はP.14で確認） （手数料1科目につき3,000円）
休 学 願	病気等の事由で修学を継続できない者
復 学 願	休学事由が消滅した者
他大学受験許可願	他の大学への入学又は転入学を志願しようとする者
退 学 願	一身上の都合等により退学したい者 （その期の授業料が納入されていなければなりません）
再 入 学 願	再入学したい者 ただし、学則第31条第2号の規定により除籍された者は、再入学を願い出ることはできません。

カリキュラム

2017年度以降入学生対象【全学共通教育科目】

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

1. 全学共通教育のねらい

四日市大学は、建学の精神である「人間たれ」という理念に基づき、「世界を見つめ地域を考える」を教育目標としながら、地域密着型大学として「地域の要請する人材育成」と「地域の学術文芸の拠点としての地域社会への貢献」をその大きな柱として教育活動を進めています。

そのなかで、全学共通教育は、主に2年生以後に学部ごとに進められる専門教育を受ける前提となる、大学生としての基礎的な力を身に付けるために学修するもので、「基礎科目」「語学科目」「情報科目」「地域科目」「一般教養科目」「キャリア科目」「特別科目」「スキル科目」の8つの科目群から構成されています。

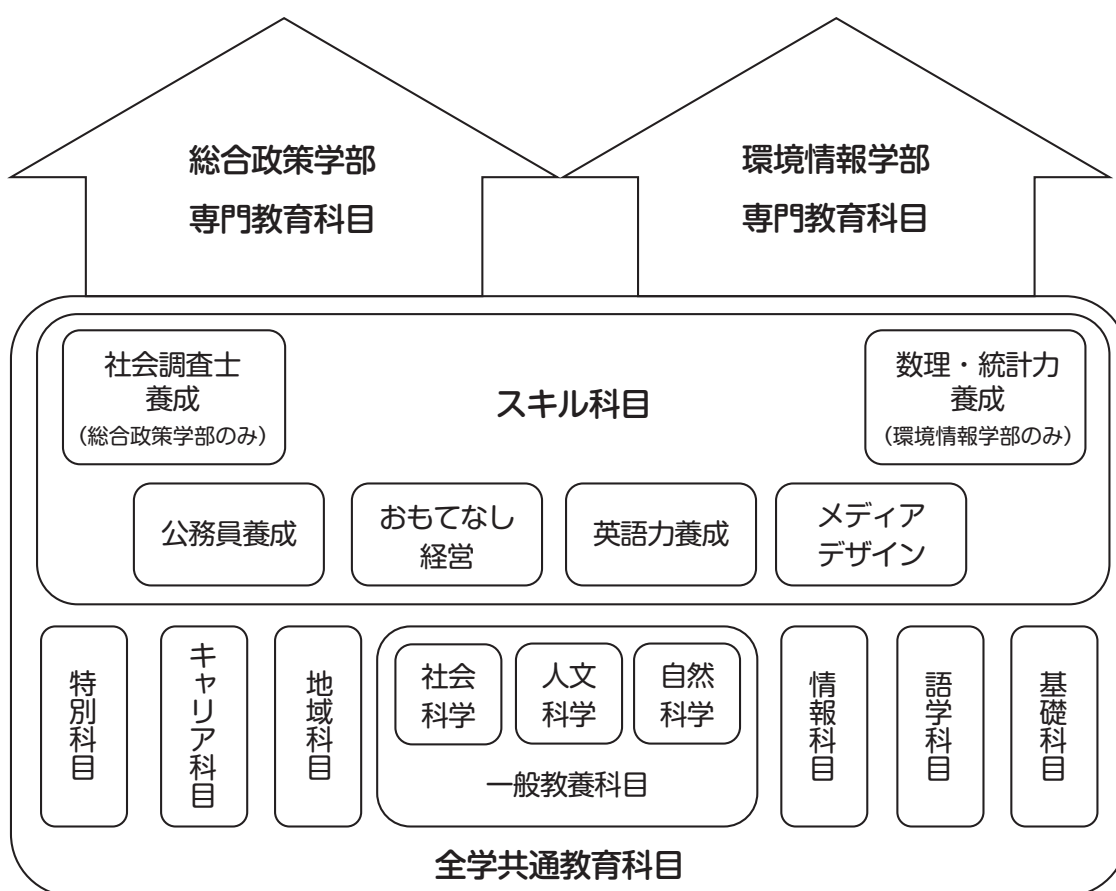
「基礎科目」では、本学の建学の精神を学ぶとともに、大学生として身に付けておかなければならない基本的な学修・研究方法の習得をめざします。

「語学科目」では英語を中心とした外国語を、「情報科目」では情報社会に必須の知識を、「一般教養科目」では、社会科学、人文科学、自然科学の3分野を、所属学部に関係なく幅広く学び、学部ごとに設置された専門教育課程に向けた学修（教養）を積み上げていきます。「地域科目」では、地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材を目指します。

また「キャリア科目」では、学士にふさわしい職業観の育成を図り、人生を通じて通用する学士号を持つ職業人としての資質の獲得を目指し、「特別科目」ではボランティア、インターンシップや海外研修などの体験学習を通じて見聞を広めます。

さらに「スキル科目」では、いずれかのユニットを選ぶことによって、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルを、修得していきます。

2. 全学共通教育のイメージ



11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

3. 全学共通教育科目の卒業要件

区 分		必修選択	授業科目の名称	配当年次	単位	卒業に必要な単位数	50単位以上 (必修を含む)	全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上修得
全 学 共 通 教 育 科 目	基礎科目	必修	「人間たれ」	1	2	6単位		
			入門演習Ⅰ	1	2			
			入門演習Ⅱ	1	2			
	語学科目	必修	基礎英語Ⅰ	1	2	4単位。但し、留学生は日本語(※)で修得すること。		
			基礎英語Ⅱ	1	2			
			基礎日本語Ⅰ(※)	1	2			
			基礎日本語Ⅱ(※)	1	2			
			英語コミュニケーションⅠ	2	2			
		選択	英語コミュニケーションⅡ	2	2	4単位以上。但し、留学生は日本語(※)で修得すること。		
			中国語Ⅰ	2	2			
			中国語Ⅱ	2	2			
			ポルトガル語Ⅰ	2	2			
			ポルトガル語Ⅱ	2	2			
	情報科目	必修	コンピュータリテラシー	1	4	6単位以上		
			情報倫理	1	2			
地域科目	選択	情報科学	1	2	4単位以上			
		情報と職業	1	2				
		アプリケーション演習Ⅰ	1	2				
		アプリケーション演習Ⅱ	2	2				
		四日市学	1	2				
		地域社会の歴史	1	2				
		市民教育	1	2				
		人権論	1	2				
地域社会と環境	1	2						
地域防災	1	2						
地域連携特別講義 a	1	2						
地域連携特別講義 b	1	2						
一般教養科目	社会科学系列	選択	各系列科目から選択	1	各2	各系列で4単位。合計12単位以上修得すること。		
人文科学系列								
自然科学系列								
キャリア科目	必修	キャリア基礎Ⅰ	1	2	4単位以上			
		キャリア基礎Ⅱ	2	2				
	選択	キャリア基礎Ⅲ	2	2				
特別科目	選択	ボランティア活動 a	1	2				
		ボランティア活動 b	1	2				
		国際協力研修	1	2				
		インターンシップ	2	2				
		他大学開放科目 a	2	2				
		他大学開放科目 b	2	2				
		他大学開放科目 c	2	2				
他大学開放科目 d	2	2						
他大学開放科目 e	2	2						
スキル科目	選択	社会調査士養成ユニット	各ユニット科目から選択		各2	いずれかのユニットで10単位以上修得すること		
		公務員養成ユニット						
		おもてなし経営ユニット						
		英語力養成ユニット						
		メディアデザインユニット						
専門教育科目	(各学部ごとに配置)						62単位以上 (必修を含む)	
計							130単位以上	

各区分ごとに必要な単位数を修得し、かつ全学共通教育科目および専門教育科目で合計130単位以上修得しなければなりません。全学共通教育科目では、卒業のために50単位以上が必要です。全学共通教育科目、専門教育科目の卒業要件合計は112単位です。残り18単位は全学共通教育科目・専門教育科目から選択し、修得してください。

なお、専門教育科目の卒業要件詳細は55ページで確認してください。留学生は、日本語科目(※)を修得の上、母国語以外の語学を履修することができます。その場合、卒業単位に算入されます。

特別科目の他大学開放科目については、上記全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができます。

4.基礎科目について

(1) 基礎科目の目的

基礎科目は、これから大学で学ぶことについて、その意義や学び方を学修することを目的としている科目群です。

科目としては、新入生全てが一斉に学ぶ「人間たれ」と、少人数に分かれて専任教員が指導する「入門演習」があります。

「人間たれ」では、まず、本学の特色でもある「成長スケール」について理解し、入学直後の自分の姿を記録するとともに、学長自らが、建学の精神「人間たれ」の今日的意義について、本学の設立母体となっている暁学園の歴史を振り返りながら講義し、今後の人口減少社会のなかで、大学で学ぶ意義を学修します。また、本学卒業生・本学に学ぶ社会人学生、本学に所在する様々な団体の代表者による実体験に基づくお話や、ボランティア活動、防災に関する科目、海外研修など、本学の特色となっている講義科目について、それぞれの担当者が解説します。このことにより、大学生活・学修上の留意点、卒業を見通したキャリア形成、生活設計など、学生としての基本事項を学ぶことを目的としています。

入門演習では、(1)マナーや学内の施設の使い方、ノートの取り方、人間関係の作り方などの、学生として、人として生きていく上で必要な最低限の常識（これをステューデントスキルと言います）、(2)資料の収集・整理の方法やまとめ方、発表や意見交換の仕方などの、大学で学ぶために必要となる最低限の技法（これをスタディースキルと言います）の2つについて学びます。

主に、1年次前学期の入門演習Ⅰではステューデントスキルを、そして1年次後学期の入門演習Ⅱではスタディースキルを身に付けることを、それぞれの目的としています。

(2) 基礎科目の科目名と分類

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数
				必修
基礎科目	「人間たれ」	前	1	2
	入門演習Ⅰ	前	1	2
	入門演習Ⅱ	後	1	2

(3) 履修上の注意

小学校・中学校・高等学校などでは、多くの場合、学級が設けられ、各学級に担任の先生がいて、勉強だけではなく、生活面や進路の面も含めた指導をしてくださったり、相談に乗ってくださったりしていたと思います。

ところが、大学には学級はありません。担任の先生もいません。小・中学校のようにあらかじめ時間割が決められているのではなく、かなり自由に、自分自身で科目を学ぶことができるため、授業科目ごとに、受講する顔ぶれも異なります。

しかし、不安に思う必要はありません。大学においてホームルームの役割を果たすのが、毎週1回あるこの入門演習（一般に「ゼミナール」、略して「ゼミ」と呼びます）の授業です。前学期・後学期ともに必ず受講するこの入門演習の担当教員が、諸君の担任に相当する役割を果たします。

大学からの様々な連絡事項などが、この入門演習の時間に担当教員から伝えられることもあるので、学生諸君は、休むことなく必ず出席するようにしてください。

なお、基礎科目は、いずれも必修科目です。1年次の「人間たれ」・「入門演習Ⅰ」（前学期）および「入門演習Ⅱ」（後学期）は、必ず単位を修得しなければなりません。必修科目の単位を取得できなかった場合には、翌年度以降も、単位が取得できるまで再履修し続けなければなりませんし、取得できない限り卒業することもできませんので、必ず、配当年次に単位を修得できるよう、しっかり出席し学修して下さい。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

(4) クラス編成

「人間たれ」は1年次生全員、1クラスとなります。

「入門演習」は各ゼミ約15名程度で編成されます。

(5) シラバス

シラバスには、各回の授業で取り上げる主な内容（講義計画）や、成績評価方法などが書かれています。講義計画については、内容自体の変更はないものの、順番については入れ替わる場合があります。掲示板や、各教員からの指示に、注意してください。

(6) その他

2年次以降の各学部専門教育科目においても、毎学期演習科目が設けられており、それぞれの学期の担当教員が引き続き担任の役割を担うこととなります。諸君が入学直後に記入した「成長スケール」は、ゼミ担当者が変わっても引き継がれていきます。担当教員との面談を繰り返しながら、自己の成長を振り返り、課題発見と目標設定に努めてください。そして、卒業式の日には、4年間の軌跡を記した貴重な記録として、また、卒業後の生き方の指針となるものとして、諸君の手元に戻ってくることとなります。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

5. 語学科目について

(1) 語学科目の目的

語学科目は、みなさんが語学への関心を高め、基本的なコミュニケーション力を身につけると同時に、世界のそれぞれの語学圏の地域への理解を深めることを目的としています。

【英語】英語への関心を高め、それぞれの英語力に応じて「聞く」「話す」「読む」「書く」の四技能をスキルアップすると同時に、世界の英語圏の地域への理解を深めます。

【中国語】初めての中国語を楽しく学びながら「話す」「聴く」「読む」「書く」の四技能の基礎を身につけると同時に、世界の中国語圏の地域への理解を深めます。

【ポルトガル語】地域で暮らすブラジルなどのポルトガル語圏の方々とコミュニケーションをとることができるよう、ポルトガル語の基礎を学ぶとともにブラジルなどのポルトガル語圏の地域についての理解を深めます。

【海外語学研修 a（英語）】 【海外語学研修 b（中国語）】それぞれの言葉が話されている国で語学研修することで実際の英語、中国語を学びながら、それぞれの地域についての理解を深めます。

（英語）コロナ禍で、当面は海外での研修は不可能であると考えられます。そこで、国内（東京）のTokyo Global Gatewayもしくは、四日市大学構内での英語国内留学プランを実施し、総合的な英語力の向上に努めます。

(2) 外国語教育の科目名と分類

区分	授業科目名	学期	配当年次	単位数	
				必修	選択
語 学 科 目	基礎英語Ⅰ	前	1	2	
	基礎英語Ⅱ	後	1	2	
	英語コミュニケーションⅠ	前	2		2
	英語コミュニケーションⅡ	後	2		2
	中国語Ⅰ	前	2		2
	中国語Ⅱ	後	2		2
	ポルトガル語Ⅰ	前	2		2
	ポルトガル語Ⅱ	後	2		2
	海外語学研修 a（英語）	前	2		2
	海外語学研修 b（中国語）	後	2		2

※海外語学研修については巻末の案内をご覧ください。

(3) 履修上の注意

「基礎英語Ⅰ、Ⅱ」は、日本人学生の必修科目です。留学生（2年生以上）は、選択科目として履修することができます。

「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ」、中国語、ポルトガル語の各科目は選択科目です。ただし、中国人留学生は中国語を履修することはできません。

「Ⅰ」「Ⅱ」は先修制科目ではありませんが、各科目とも「Ⅰ」「Ⅱ」の順番に履修することが望まれます。

(4) クラス編成

1年次の「基礎英語Ⅰ、Ⅱ」は、プレースメントテストの結果によりクラスが指定されます。なお、留学生（2年生以上）が「基礎英語Ⅰ、Ⅱ」を選択した場合も、クラスが指定されます。

2年次の「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ」は複数のクラスがあり自由に選ぶことができます。また、中国語、ポルトガル語の各科目も自由に選ぶことができます。ただし、いずれの言語も3月および9月の履修登録締め切り時点で履修者多数となった場合は「抽選」を行います。授業開始時に抽選結果と他のクラスの履修状況をお知らせしますので、抽選に外れた学生は履修登録確認・訂正期間に追加可能な科目を履修するようにしてください。

(5) シラバス

「基礎英語Ⅰ、Ⅱ」は、クラスにより講義内容が異なります。第1回目の授業で講義内容、使用テキストなどについての説明がありますので、「必ず出席」してください。

2年次の「英語コミュニケーションⅠ、Ⅱ」、「中国語Ⅰ、Ⅱ」「ポルトガル語Ⅰ、Ⅱ」の各クラスの内容はシラバスで確認してください。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

6. 日本語科目について（留学生対象科目）

(1) 日本語教育の目的

本学の日本語教育は、大学で必要とされる日本語の能力を身につけるためのものです。日本語の一般的な基礎力や日本語資格への対応はもちろんですが、留学生のみなさんが大学で授業を受け、その内容を理解し、授業に積極的に参加するための日本語力を養成します。そのため、それぞれの学年で次の内容を学びます。

1年次の基礎日本語Ⅰ・Ⅱでは、基礎的な日本語の運用能力を定着させ、大学の授業で必要となる専門用語や表現およびレポートの書き方などについて学びます。また、日本語能力試験対策の授業も実施します。

2年次の日本語中級Ⅰ・Ⅱでは、日本についての知識を深め、与えられたテーマについて、多様な観点から検討・分析を加え、それをもとに自分の主張を表現する日本語能力を身につけます。

3年次の日本語上級Ⅰ・Ⅱでは、新聞やインターネットなどの情報を用い、より高度な読解能力を身につけます。また、就職後にも役立つ日本語応用力を高めます。

なお、日本語中級Ⅰ・Ⅱ、日本語上級Ⅰ・Ⅱでは、日本語能力試験のN1対策クラスを設けています。

(2) 日本語教育の科目名と分類

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数	
				必修	選択
語 学 科 目	基礎日本語Ⅰ	前	1	2	
	基礎日本語Ⅱ	後	1	2	
	日本語中級Ⅰ	前	2		2
	日本語中級Ⅱ	後	2		2
	日本語上級Ⅰ	前	3		2
	日本語上級Ⅱ	後	3		2

(3) 履修上の注意

留学生のみ履修できます。1年次の基礎日本語Ⅰ・Ⅱは必修科目です。日本語中級Ⅰ・Ⅱと日本語上級Ⅰ・Ⅱは必修科目ではありませんが、留学生が本学の授業を受けるために必要とされる日本語能力を養う授業でもあることから、対象となる年次・学期に優先的に履修登録されます。なお、Ⅰの単位が未修得であっても、Ⅱを履修することができます。

(4) クラス編成

日本語科目の1クラスの履修者数は15名程度です。基礎日本語Ⅰのクラスは入学後の日本語試験の結果により決定されます。基礎日本語ⅡのクラスはⅠの成績を含む1年生前期の成績により決定されます。

日本語中級Ⅰ・Ⅱのクラスは第1講の合同ガイダンスで実施する日本語試験の結果により決定されます。日本語上級Ⅰ・Ⅱのクラスは第1講の合同ガイダンスで実施するクラス選択のアンケートに基づき、前期の日本語科目の成績等を考慮して決定されます。各科目ともそのうち1クラスはN1対策クラスです。N1対策クラスはN2を取得済みで、N1の受験を目指す学生のみ受講できます。なお、各クラスとも希望者が多い場合には前学期の日本語科目の成績や日本語試験の結果を参考にして人数調整を行いますので、第一希望以外のクラスになることがあります。

(5) シラバス

シラバスは全クラス共通の内容を掲載しています。授業時の第1回目に、講義の内容・テキストの説明がありますので、必ず出席して下さい。

(6) その他

不明な点は各教員に遠慮なく質問、相談してください。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

7. 情報科目について

(1) 情報教育の目的

コンピュータは社会の様々な所に応用されています。これを道具として使いこなすことは、文字の読み書きのように社会生活に不可欠なスキルとなっています。全学共通教育で行う情報教育では、基本的なコンピュータの使い方に慣れるとともに、ネット社会における常識を身につけることを目標としています。

(2) 情報教育の科目名と分類

区分	授業科目の名称	学 期	配当年次	単位数	
				必修	選択
情報科目	コンピュータリテラシー	前	1	4	
	情報倫理	後	1	2	
	情報科学	前	1		2
	情報と職業	前	1		2
	アプリケーション演習Ⅰ	後	1		2
	アプリケーション演習Ⅱ	前	2		2

(3) 履修上の注意

コンピュータリテラシーと情報倫理は必修科目なので必ず履修しなければなりません。アプリケーション演習Ⅱは2年次配当科目なので2年生になってから受講することになります。

なお、アプリケーション演習科目は資格認定科目に指定されているので、これらの科目を受講しなくてもMOS資格の取得によって単位を修得できます。（詳細は各学部の単位認定の項目を見てください。）

(4) クラス編成

コンピュータリテラシーはタイピング能力に応じてクラス分けを実施します。ですが教育の内容と評価基準はどのクラスも同じものになります。

なお、クラスによって授業の進むスピードに若干の差が出る場合があります。

(5) シラバス

各授業の具体的な内容と評価基準はシラバスで確認して下さい。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

8. 地域科目について

(1) 地域科目の目的

大学が自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めます。地域に出て実践的な学習をしたり、学外から講師を招いて地域のことを深く学んだりする講義を用意し、地域とかわり、地域を深く知ることを通じて幅広い教養を身につけていきます。専門教育を学ぶ上でも、卒業後に社会人として生活をする上でも、大いに役立ちます。

(2) 地域科目の科目名と分類

2021年度は、7科目が開講されます。また、表に示したように、通常の授業時間に設定されるコマと、週末などに学外に出て学んだり学内で集中的に実習をしたりする科目が含まれます。クラブ活動、地域活動、旅行の計画などとスケジュールが重ならないよう、事前に確認をしてください。

区分	授業科目の名称	単位数	配当年次	学期	時間割	学外授業・実習 学外講師
地域科目	四日市学	2	1	前	金曜2時間目 通常授業9コマ	6～7月の週末を利用した四日市市立博物館等でのフィールドワーク
	地域社会の歴史	2	1	後	金曜3時間目 通常授業15コマ	
	市民教育	2	1	前	金曜3時間目 通常授業15コマ	
	人権論	2	1	後	金曜2時間目 通常授業15コマ	
	地域社会と環境	2	1	前	火曜2時間目 通常授業15コマ	
	地域防災	2	1	前	金曜3時間目 通常授業9コマ	外部講師を招いた講義・実習を6月の週末3日間で行う。
	地域連携特別講義a (食と観光実践)	2	1	後	9月以降の週末に主に学外で講義・実習を行う。	
地域連携特別講義b	2	1	後	9月～10月に開催される「三重とこわか国体」に、競技補助員として協力することを中心とした授業になります。		

(※) 「地域連携特別講義a」は、三重県内の高等教育機関において共同で開講する予定です。なお、「地域連携特別講義a」「地域連携特別講義b」は、履修制限外となります。詳細は決まり次第案内します。

(3) 履修上の注意

地域科目から2科目4単位以上修得しなければなりません。卒業要件をクリアするために、できるだけ2年生までには4単位以上の修得を目指しましょう。

(4) シラバス

シラバス（講義要綱）では、各授業の目標やねらい、学外授業・実習など講義の実施方法、使用されるテキスト、担当教員からの注意事項、それに毎回の授業の学期全体計画などが掲載されていますので、それらの内容をよく読んで履修登録し、受講するようにしてください。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

9. 一般教養科目について

(1) 一般教養科目教育の目的

現代社会では、私たちの身の周りにさまざまな情報や出来事があふれ、私たちは、それらをどのように理解し受けとめればよいのか、はじめは少し、とまどってしまうことさえあります。本学の全学共通教育の中でもこの一般教養科目は、大学教育における主要な柱の一つとして、現代社会において、私たちが生涯にわたって物事を理解し、判断していく際に、どこかで必ず役立つような、もっとも基本的な教養を、幅広く身につけることができる授業科目となっています。

一般教養科目には、社会科学系列科目、人文科学系列科目、自然科学系列科目の3種類があります。

社会科学系列科目は、政治学、法学、経済学、経営学、社会学などを学修することで、現代社会の基本的な仕組みや制度を学んだり、社会福祉、ジェンダー、メディアといった現代社会での重要なテーマの講義を通じて、広く社会的なものを見方や考え方について学んでいきます。

人文科学系列科目は、哲学や文学、それに文化、歴史、地理など、人間そのものや、広く人類の生活・生存の様子などに焦点をあてた様々な学問を通して、先人たちの知恵に学びながら、現代の世界に生きる私たちの喜びや苦悩を見つめ、そして未来への希望をどのように切り開いていくか考えていきます。

自然科学系列科目は、自然科学の基礎（数学、科学論、化学、生物学、など）、それに、環境論や心理学などを学修することにより、自然科学的なもの見方や考え方を習得していきます。現代は身近な環境問題や地球温暖化など喫緊の課題に直面しており、人類の生存にとって無視できない懸念が高まっています。それゆえ自然科学的なもの見方や分析手法の学習は大切なものです。

これら3種類の一般教養科目の中から、自分自身の興味や関心に合わせて、できるだけ幅広く学んだり、あるいは、所属学部の専門分野に関連した科目をできるだけ多く学んだりしていくことが望まれます。

(2) 一般教養科目の科目名と分類

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数 選択	
一般 教 養 科 目	社会科学系列	経営学	前	1	2
		経済学	後	1	2
		政治学	前	1	2
		社会学	前	1	2
		ジェンダー論	後	1	2
		メディアリテラシー	前	1	2
		社会福祉概論	前	1	2
		日本国憲法	後	1	2
		法学	前	1	2
		民法入門	前	1	2
	人文科学系列	倫理学	後	1	2
		哲学	前	1	2
		文学	前	1	2
		文章表現論	前・後	1	2
		文化論	後	1	2
		教育学	前	1	2
		日本史概論	前	1	2
		世界史概論	後	1	2
		地理学概論	後	1	2
地誌	後	1	2		

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数 選択	
一般 教養 科目	自然科学 系列	科学的思考論	後	1	2
		科学思想史	前	1	2
		自然科学概論	後	1	2
		数学概論	前	1	2
		化学概論	前	1	2
		地学概論	前	1	2
		生物学概論	前	1	2
		生物と進化	後	1	2
		環境論	後	1	2
		心理学	後	1	2

(3) 履修上の注意

社会科学、人文科学、自然科学の各系列からそれぞれ2科目4単位以上、一般教養科目全体で合計して6科目12単位以上を履修しなければなりません。

(4) クラス編成

クラスは、基本的に履修希望者全員で1クラスとなります。

(5) シラバス

シラバス（講義要綱）では、各授業の目標やねらい、使用されるテキスト、担当教員からの注意事項、それに毎回の授業の学期全体計画などが掲載されていますので、それらの内容をよく読んで履修登録し、受講するようにしてください。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

10. キャリア科目について

(1) キャリア科目の目的

キャリア教育は、進路選択に必要な考え方や技法を学ぶこと目的としています。卒業後にどのような進路を考えるかは、皆さんにとって重要であることは言うまでもありません。同時に近年の社会情勢の変化のなか、大学は「学生が卒業後自らの資質を向上させ、社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を、教育課程の実施及び厚生補導を通じて培うことができるよう、大学内の組織間の有機的な連携を図り、適切な体制を整えるものとする」（大学設置基準）とされています。

四日市大学では、就職活動などへの直接的な支援はキャリアサポートセンターがあたりますが、その基礎となる教育はカリキュラムのなかで行います。

近年、大学進学率が高まる一方、企業は厳選した採用をする傾向にあり、その結果、就職難・就活ミスマッチ・大卒無業者など、大学生の就職をめぐる状況は社会問題化しつつあります。このようなことから、大学卒業後の生き方や働き方を視野に入れて、主体的・能動的・積極的に学生生活を送ることが何より求められています。

(2) キャリア教育の科目名と分類

カリキュラムには、キャリア科目として、「キャリア基礎Ⅰ」「キャリア基礎Ⅱ」「キャリア基礎Ⅲ」の3科目をおいています。

区分	授業科目の名称	学期	曜日・時限	配当年次	単位数	
					必修	選択
キャリア科目	キャリア基礎Ⅰ	後	月曜1限	1	2	
	キャリア基礎Ⅱ	前	月曜1限	2	2	
	キャリア基礎Ⅲ	後	月曜3限	2		2

なお、キャリア科目では、公務員志望者のために、公務員志望者だけを集めたクラスを設けます。

(3) 履修上の注意

- 「キャリア基礎Ⅰ」「キャリア基礎Ⅱ」は必修科目です。必ず履修してください。
- 「キャリア基礎Ⅲ」は選択科目ですが、就職活動に必要な実践的な演習を行います。卒業後、就職する学生はもちろん、将来、就職する可能性のある学生（進学など）も必ず履修するようにしてください。
- 履修登録は事前登録されています。登録されたクラスで受講してください。
- 3科目とも、第1回は大教室で行いますが、その後、少人数の部屋を使用する予定です。また、回によっては教室を移動する場合があります。テキストやガイダンスでお話しますが、教室の変更については、掲示板等で確認するようにしてください。

(4) クラス編成

- クラスは約20名程度で編成します。
- 1年前学期のオリエンテーション時にプレースメントテストを実施し、その結果を参考にクラス編成を行います。
- 公務員クラスの希望調査は、1年前学期中に行います。
- クラスは履修登録時に事前登録されています。また教学課の掲示板に掲示します。登録されたクラスで受講してください。

(5) シラバス

それぞれの科目で行う授業内容は、シラバスに掲載されています。受講前によく読んでおいてください。

(6) その他

進路選択は、皆さん一人ひとりがどのように考えるかが重要です。授業に積極的に取り組むのはもちろんですが、自ら主体的に考えてください。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

11. 特別科目「ボランティア活動 a・b」について

高齢者、障害がある人、子どもたち等への支援活動や、災害救援活動、環境保護活動、国際交流活動など、地域ではさまざまな市民活動が行われています。これらの活動にボランティアとして参加することは、机上の学習では把握できない現実の課題を体感する機会となるとともに、社会の様々な構成員がともに支え合い、交流する地域社会づくりが進むなど、大きな意義を持っています。

四日市大学では、このようなボランティア活動の意義を尊重し、広くボランティア活動の振興と学生の社会貢献活動を促進するために、ボランティア活動への参加に対して以下のとおり単位認定を行います。

(1) 単位認定の対象となる活動

① ボランティアセンターで紹介するボランティア活動

② 別に大学の審査により認められたボランティア活動

* ②の活動を紹介してほしい場合は、総合政策学部の松井教授が相談に乗ります。

(2) 活動時間

全実働時間60時間以上を基準とします。

注1) 複数のボランティア活動の合計時間でもかまいません。

注2) 年度を超えてもかまいません。

(3) 活動時期

大学の授業、行事等に支障がないと判断される時期

(4) 単位認定の手続き

① ボランティア活動を始める前に

単位認定を希望する場合には、ボランティア活動が単位認定にふさわしい活動であるかどうかを審査します。活動に参加予定の1ヶ月前、あるいはすでに参加した場合は終了後1ヶ月以内に「ボランティア活動内容書」（用紙は教学課にあります）を教学課に提出してください。単位認定にふさわしい活動であるかどうか審査後、教学課より結果を連絡します。

注1) 複数のボランティア活動を行う場合は、それぞれについて提出が必要です。

注2) ボランティアセンターが紹介したボランティア活動については不要です。

② 単位認定を申請する時に

大学が単位認定にふさわしいと認めたボランティア活動が60時間を超え、これにより単位認定を申請する場合は、以下の書類を教学課に提出してください。

なお、最終受付日は、卒業年次の1月末日（平日のみ）となります。

ア) 「ボランティア活動 a・b 単位認定申請書」

イ) 「ボランティア活動団体発行の証明書」

・参加したボランティア活動ごとに、参加者の氏名、活動内容、活動日時が明記されているもの。

ウ) 「活動日誌・レポート」

・ボランティア活動期間中の活動内容、成果、感想などが具体的に明記されており、活動の経験を三重県の地域でどう活かすかについて言及されているもの。

・参加した学生自身で作成すること。字数1,000字程度。様式は自由。但しワープロ使用のこと。

注) 複数のボランティア活動を行った場合は、それぞれのボランティア活動について全体で1,200字程度の記述をすること。

(5) 単位認定

単位が認定された場合は、申請のあった学期の成績として通知します。但し、申請時期により申請のあった次の学期の成績に含まれる場合があります。評価は「認」（認定）となります。

なお、この単位（2単位）は履修制限単位数に含まれません。

12. 特別科目「国際協力研修」について

国際協力研修は、海外での国際支援・協力、ボランティア活動などの社会貢献活動について学び、実際に東南アジア等の地域において活動に従事し、国際協力活動を体験することで、国際的視野を広げることを目的としています。

本学では、このような国際的な社会貢献活動への参加に対して以下のとおり単位認定を行います。

(1) 単位認定の対象となる活動

- ① 本学が「国際協力研修」として募集したプログラム（事前研修を含みます）
- ② 別に大学の審査により認められた国際協力活動（事前審査が必要です）

(2) 活動時期

大学以外の国際協力活動の場合、大学授業、行事等に支障がないと判断された場合に活動を認めます。

(3) 単位認定の手続き

①大学以外の国際協力活動の場合、事前審査が必要のため、研修の1ヶ月前までに教学課に申し出てください。

②単位認定を申請する場合は、海外研修から帰国後1か月以内に教学課に以下の書類を提出してください。

(ア) 「国際協力研修単位認定申請書」

(イ) 「活動団体発行の証明書」（学外の国際協力活動に参加した場合に必要）
参加者の氏名、活動内容、活動期間が明記されているもの。

(ウ) 「活動日誌」

研修・活動期間中の日々の活動内容、感想などが具体的に明記されているもの。

(エ) 「レポート」

研修・活動の成果、全体の感想などが明記され、研修・活動の経験を今後どう活かすかについて言及されているもの。参加した学生が作成。字数1,200字程度。様式は自由、パソコン使用のこと。

(4) 単位認定の通知

単位が認定された場合は、申請のあった学期の成績として通知します。但し、申請時期により申請のあった次の学期の成績に含まれる場合があります。評価は「認」（認定）となります。

なお、この単位（2単位）は履修制限単位数に含まれません。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

13. （全学共通教育科目）特別科目「インターンシップ」について（2013年度以降入学）

全学共通教育科目では、2年次以上に特別科目として2単位が認定される「インターンシップ」が配当されます。学部カリキュラムの中での学びをより深めるチャンスです。ぜひ受講しましょう。

★3年次6月以降には、就活に直接つながる就職情報サイト等が仲介する1～数日間の短期のインターンシップを積極的に受けましょう。ただし単位認定はありません。

★日頃からCSC掲示板を確認するようにしてください。

1. インターンシップとは

インターンシップとは、「自らの専攻に関連した就業体験」や「実社会での就業体験」を行うことです。インターンシップを経験することにより、アルバイトとは異なり正社員と同じ視点から「働く」ことを経験し、社会人としてのものの考え方を学ぶことにより、「高い就業意識」を身につけることができ、さらに「以後の学習における課題・問題意識等の向上」につながるという効果があります。また、「自らの適性と能力に応じた将来の進路を考える」機会にもなります。

2. 配当年次

2年次以上

3. 研修期間

実働10日以上〔（例）月～金 9:00～17:00を2週間〕

*別途、事前・事後研修には、必ず出席してください。

*大学行事及び授業等に支障がある場合は研修を認めません。

4. インターンシップを履修するための条件

参加希望者は4月にCSCが実施する説明会に参加し、そこで配布される申請用紙にて申込を行ってください。申請者に対し書類と面接で厳しい審査を実施します。審査項目は以下のとおりです。

- ・厳しい現場での就業に耐えられること
- ・3カ月以上のアルバイト経験（週1～2日以上）の定期アルバイトがあること
- ・基本的マナーが身につけており、コミュニケーション能力が高いこと
- ・インターンシップに対して、明確な目的と目標があること

5. 単位認定

①事前研修 ②インターンシップ先からの評価 ③事後研修 ④面談

①～④の総合評価により単位認定を行います。評価は「認定」（2単位）となります。

6. スケジュール（詳細は4月の説明会にて資料を配布します）

4月中旬 説明会（CSC主催）⇒ スケジュールの詳細説明や申込用紙配布など

4月末 申込用紙提出期限

5月 書類審査・面接実施 ⇒ 合格者発表

5月下旬 ガイダンス ⇒ 事前研修についての連絡など

6月 事前研修（学内外）

8月～9月 インターンシップ

9月～10月 事後研修（学内外）

11月以降 単位認定

※2～3月にインターンシップを希望する場合は、担当教員に相談してください。

7. 保険

「学生教育研究災害傷害保険」「学生教育研究賠償責任保険」に全員加入済です。

8. その他

*期間や利用区間によっては「実習用通学定期」を申請できる場合があります。

*詳細及び不明な点はCSC（キャリアサポートセンター）で確認してください。

*「三重創生ファンタジスタ（ベーシック）資格の認定に、この科目を使う場合は、三重県内でインターンシップ研修を受けてください。

14. スキル科目について

スキル科目は、希望する進路に応じた、卒業までにあらかじめ身に付けておきたい即戦力となるスキルの修得を目指す科目群です。

① 社会調査士養成ユニット、② 公務員養成ユニット、③ おもてなし経営ユニット、④ 英語力養成ユニット、⑤ メディアデザインユニット、⑥ 数理・統計力ユニットの、6つのユニットから構成されています。

いずれかのユニットから5科目（10単位）以上修得することが卒業要件の一つとなります。もちろん、他のユニットの科目を履修し、単位を取得することもできます。スキル科目の単位は全学共通科目としてカウントされます。

ただし、①社会調査士養成ユニットは総合政策学部の学生のみ、⑥数理・統計力養成ユニットは環境情報学部の学生のみが履修できるユニットです。他の4つのユニットはいずれの学部の学生も履修可能です。

将来を見据えて、早い段階から計画的に履修していくことが求められます。将来、企画やマーケティング等の仕事に就きたいのであれば①社会調査士養成ユニット、市役所や警察・消防など公務員志望であれば②公務員養成ユニット、ビジネスの世界で活躍したければ③おもてなし経営ユニット、グローバルに活躍したければ④英語力養成ユニット、ITやデザインの世界で活躍したければ⑤メディアデザインユニット、自然科学を究める上で必要な分析力を身に付けたければ⑥数理・統計力養成ユニットの、各ユニットの科目を履修すると良いでしょう。

① 社会調査士養成ユニット（総合政策学部）

(1) 社会調査士養成ユニットの目的

社会調査の専門家「社会調査士」の資格取得をめざす科目群です。社会に関するデータを集めて分析することを社会調査といい、企業・行政・科学など様々な分野で使われています。

この科目群では「社会調査入門」「社会調査の技法」でデータ収集の、「データ分析の基礎」「統計的分析」でデータ分析の基礎を身につけ、「データ解析の技法」や「フィールドワーク論」で具体的な調査手法を学びます。最後に「社会調査実習1・2」を通して、調査の全過程を体験学修します。これらの単位を取得すると、申請によって卒業後に社会調査士の資格が得られます（在学中は仮認定）

(2) 科目名と分類

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数 選択	
ス キ ル 科 目	社 会 調 査 士 養 成 ユ ニ ツ ト	社会調査入門	前	1	2
		社会調査の技法	後	1	2
		データ分析の基礎*	前	2	2
		統計的分析*	後	2	2
		データ解析の技法*	後	2	2
		フィールドワーク論	前	2	2
		社会調査実習1	前	3	2
		社会調査実習2	後	3	2

*のつく科目は数理・統計力養成ユニットと共通

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

（3）履修上の注意

- ①所定の科目を履修すると、社会調査士の資格を申請することができます。およそ3年かかるので計画的に履修してください。
- ②「データ解析の技法」は、数理・統計力養成ユニットと共通開講科目です。
- ③資格認定のためには、「社会調査実習1」「社会調査実習2」の2科目を同一年度に履修する必要があります。年度をまたぐと資格要件を満たさないので注意してください。

（4）クラス編成

記入事項なし

（5）シラバス

シラバス（講義要綱）では、各授業の目標やねらい、使用されるテキスト、担当教員からの注意事項、それに毎回の授業の学期全体計画などが掲載されていますので、それらの内容をよく読んで履修登録し、受講するようにしてください。

（6）その他

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

②公務員養成ユニット

(1) 公務員養成ユニットの目的

市役所職員、警察官、消防士等の公務員になるためには、採用試験（公務員試験）を受けなければなりません。その流れは以下のようなものです。

〈市役所職員採用試験の例〉

- 一次試験・・・教養試験、（専門試験）、適性検査など
- 二次試験・・・集団面接、集団討論、事務適性試験など
- 三次試験・・・個別面接、論文試験など

〈警察官・消防士採用試験の例〉

- 一次試験・・・教養試験など
- 二次試験・・・論文試験、個別面接、集団討論、体力試験、適性検査、身体検査など

ここでの「教養試験」は、以下の科目内容から構成されています。

- ・数的推理（数学にパズル要素が加わったもの）
- ・判断推理（よりパズル的なもの）
- ・資料解釈（表やグラフなどの読み取り）
- ・文章理解（国語・英語）
- ・社会科学（政治・経済・法学等）
- ・人文科学（世界史・日本史・地理等）
- ・自然科学（物理・化学・生物・地学・数学）

公務員養成ユニットでは、公務員を志望する学生のために、教養試験全体をカバーする科目群と論文・面接対策の科目を用意しています。本ユニット科目により、一連の公務員試験対策が可能となります。

(2) 科目名と分類

区分	授業科目の名称	担当 教員	学期	配当 年次	当該科目の履修前に、先立って履修しておくことが望ましい科目
スキル科目 公務員養成ユニット	公務のための判断推理	高田	前学期 水曜4限	1	
	公務のための数的推理	高田	後学期 水曜4限	1	
	公務のための現代文	高田	後学期 金曜3限	1	
	公務のための法学	中西	前学期 水曜2限	2	
	公務のための人文科学	李	前学期 木曜4限	2	
	公務のための政治学	小林	後学期 水曜1限	2	全学共通「政治学」(前期火曜2限)
	公務のための経済学	鬼頭	後学期 火曜2限	2	全学共通「経済学」(後期火曜4限)
	公務のための自然科学	高田	前学期 月曜3限	3	
	公務のための英文理解	リース	後学期 月曜3限	3	「英語コミュニケーションI」「同II」
公務のための論文・面接	小林	前学期 火曜3限・金曜1限	4		

(3) 履修上の注意・・・配当年次通りに全科目履修せよ

公務員試験を突破するためには、数多くの筆記試験科目それぞれについて、確実に学力を身につけなければなりません。そのためには、時間をかけてじっくりと計画的に学習していく必要がありますが、それを独学でやり通すのは非常に困難です。この公務員養成ユニット科目では、1年次より段階的に着実に公務員試験対策を進めていけるようにカリキュラムが組まれています。公務員試験を受ける予定の学生、受ける可能性がある学生は、配当年次通りに、全科目を履修する（(6)参照）ようにしましょう。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

（4）シラバス

シラバス（講義要綱）には、各授業の目標やねらい、使用されるテキスト、担当教員からの注意事項、毎回の授業の学期全体計画などが掲載されていますので、よく読んで受講するようにしてください。

（5）公務員養成ユニット科目以外の公務員養成プログラム（「キャリア科目」の公務員クラス）

「公務員養成ユニット」科目が属する「スキル科目」とは別に、全学共通教育科目には、将来のこと、就職のことを考え、その準備をする「キャリア科目」という区分の科目があります（詳しくは履修要綱「キャリア科目」の項目参照のこと）。

「キャリア基礎Ⅰ」・・・1年生後学期（必修科目）

「キャリア基礎Ⅱ」・・・2年生前学期（必修科目）

「キャリア基礎Ⅲ」・・・2年生後学期（選択科目だが、基本的には全員履修することを望む）

この「キャリア科目」において、公務員志望者のために、公務員志望者だけを集めたクラスを設けます。本学の公務員養成プログラムとしては、「公務員養成ユニット」科目がプログラムの中心となりますが、筆記試験対策の補習や、筆記試験対策以外の就職のための準備など、公務員を目指した包括的な学びを「キャリア科目（公務員クラス）」において行います。公務員志望者は配当年次通りに「公務員養成ユニット」の全科目を履修・単位取得するとともに、「キャリア科目」においても「公務員クラス」に入ることで、公務員を目指すためのより良い環境を整えましょう。

「キャリア科目」の公務員クラスの希望調査は、1年生前学期中に行います。

（6）公務員関係科目の履修の順番・・・なるべくこの通りに履修しよう

	公務員養成ユニット科目	キャリア科目	その他、全学共通科目
1年生前学期	「公務のための判断推理」		「政治学」「基礎英語Ⅰ」
1年生後学期	「公務のための数的推理」 「公務のための現代文」	「キャリア基礎Ⅰ（公務員クラス）」	「経済学」「基礎英語Ⅱ」
2年生前学期	「公務のための法学」 「公務のための人文科学」	「キャリア基礎Ⅱ（公務員クラス）」	「英語コミュニケーションⅠ」
2年生後学期	「公務のための政治学」 「公務のための経済学」	「キャリア基礎Ⅲ（公務員クラス）」	「英語コミュニケーションⅡ」
3年生前学期	「公務のための自然科学」		
3年生後学期	「公務のための英文理解」		
4年生前学期	「公務のための論文・面接」		

（7）その他

本ユニット科目によって、公務員試験に必要な知識の土台となる部分を身につけることは可能ですが、これだけでは公務員試験を合格するための学力養成にはまだまだ不十分です。授業時間だけでなく、自習にもかなりの時間を割く必要があります。学習のペース作りに授業を上手く活用しましょう。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

③おもてなし経営ユニット

(1) おもてなし経営ユニットの目的

おもてなし経営ユニットは、サービス業に従事することを目指す学生のためのスキル科目です。観光業の経営中核人材を育成するために開発した『おもてなし経営実践プログラム』の「現場で学ぶ」「スキルをみがく」の部分に該当します。

(2) 科目名と分類

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数	
				選択	
スキル科目	おもてなし経営ユニット	ビジネスマナー	前	1	2
		サービス経営論	後	1	2
		販売士講座	前	2	2
		ビジネスコミュニケーション	前	2	2
		グローバルコミュニケーション	後	2	2
		オペレーション演習	前	2	2
		ビジネスマネジメント	前	3	2
		マーケティング演習	後	3	2
		おもてなし特別講義 a	前	2	2
		おもてなし特別講義 b	後	2	2

(3) 履修上の注意

履修は学年に応じて初級クラスから配置しています。できるだけ順を追って履修するように心がけてください。

一部、初級クラスの履修が前提となっている科目もあります。また学外での演習を前提としている科目もあります。講義要綱で確認してください。

(4) クラス編成

科目によっては、履修人数を制限している場合があります。講義要綱で確認してください。

(5) シラバス

シラバス（講義要綱）では、各授業の目標やねらい、使用されるテキスト、担当教員からの注意事項、それに毎回の授業の学期全体計画などが掲載されていますので、それらの内容をよく読んで履修登録し、受講するようにしてください。

(6) その他

総合政策学部の学生は、専門教育科目の履修とあわせて、おもてなし経営実践プログラムの修了証（おもてなし経営エキスパート）を発行することができます。詳しくは『おもてなし経営実践プログラム』（P.99）の記載を確認してください。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

④英語力養成ユニットについて

(1) 英語力養成ユニットの目的

本ユニットは、「基礎英語Ⅰ・Ⅱ」や「英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ」に加えて、さらなる英語力を高めようとする学生のために用意されたものであり、内容は昨今のインバウンドによる外国人観光客等を視野に入れた「観光英語Ⅰ・Ⅱ」や英語の様々な表現方法について学ぶ「英語表現Ⅰ・Ⅱ」、ビジネス的な内容を専門とする「ビジネス英語Ⅰ・Ⅱ」、英検やTOEIC、TOEFL等の英語資格取得を目指すための「検定英語Ⅰ・Ⅱ」、その他「コンピュータ英語Ⅰ・Ⅱ」によって構成されています。

(2) 科目名と分類

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数	
				選択	
スキル科目	英語力養成ユニット	観光英語Ⅰ	前	1	2
		観光英語Ⅱ	後	1	2
		コンピュータ英語Ⅰ	前	1	2
		コンピュータ英語Ⅱ	後	1	2
		英語表現Ⅰ	前	2	2
		英語表現Ⅱ	後	2	2
		ビジネス英語Ⅰ	前	2	2
		ビジネス英語Ⅱ	後	2	2
		検定英語Ⅰ	前	3	2
		検定英語Ⅱ	後	3	2

(3) 履修上の注意

本ユニットの細分化された目的に沿って、意図するジャンルの英語クラスを自主的自立的に選択することが望ましいです。各ジャンルの内容については、シラバスにおいてそれぞれ確認するようにしてください。

(4) クラス編成

クラスはそれぞれ目的に応じた編成になるため、能力別に分けることはしません。ただし、それぞれのクラスサイズの上限を超える場合には抽選になることがあります。

(5) シラバス

シラバス（講義要綱）では、各授業の目標やねらい、使用されるテキスト、担当教員からの注意事項、それに毎回の授業の学期全体計画などが掲載されていますので、それらの内容をよく読んで履修登録し、受講するようにしてください。

(6) その他

学部の専門性に関わらず、英語を中心とした外国語の習得は就職等においてもきわめて有利になるだけでなく、生涯にわたって有益、有用な武器となります。TOEICに挑戦したり、新たな外国語に挑戦したりすることで、新境地を開いてみませんか。

11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

⑤メディアデザインユニット

(1) メディアデザインユニットの目的

デジタルコンテンツ制作やWebサイト制作・開発に従事することを目指す学生のためのスキル科目です。これらの業界で必要とされているメディア加工技術、Webページ作成技術の最低限の内容を学修します。ここで学修したものを基礎に、専門科目でさらに技術や物の見方を深めることが要求されます。

(2) 科目名と分類

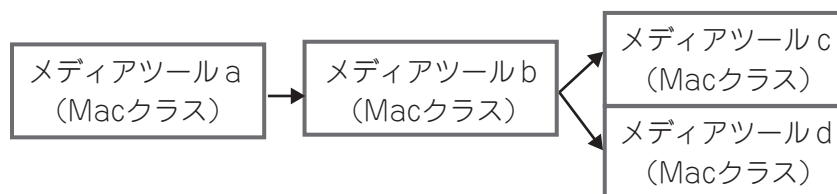
区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数	
				選択	
スキル科目	メディアツールa	前	1	2	
	メディアツールb	後	1	2	
	メディアツールc	前	2	2	
	メディアツールd	後	2	2	
	Webプログラミングa	後	1	2	
	Webプログラミングb	前	2	2	
	インターネット論	前	2	2	
	Webデザインa	後	2	2	
	Webデザインb	前	3	2	

(3) 履修上の注意

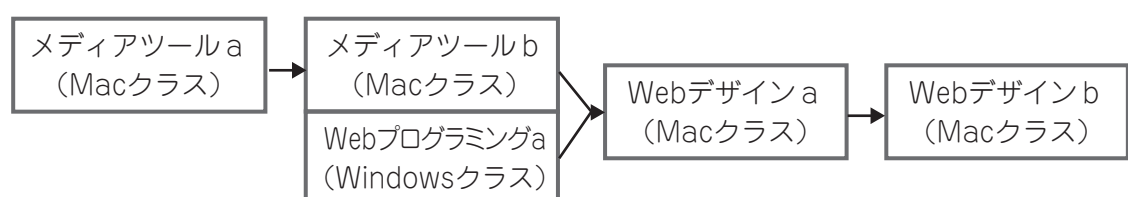
本格的にメディアデザインの勉強をしていきたい人用の制作スキルコースと、全般的な概要を修得したい人用のITスキルコースに分かれます。また、コースによって実習に使用するマシンがMacのクラスとWindowsのクラスに分かれている（メディアツールa、メディアツールb）など、複数のクラスが開講される科目があります。同じ科目を複数クラス履修することはできませんので、どれかひとつのクラスを選択して下さい。

【制作スキルコース】本格的にメディアデザインを勉強したい人は、全ての科目を受講し、Macを使用するクラスを選んでください。下図に示す順序で履修して下さい。

【制作スキルコース】メディア作品制作（グラフィックデザイン・映像・音楽）を学びたい人



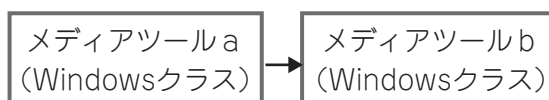
【制作スキルコース】Webデザインを学びたい人



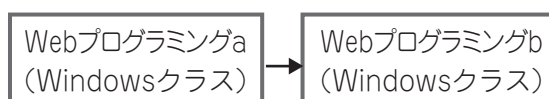
11 カリキュラム全学共通教育科目（2017年度以降入学生）

【ITスキルコース】 一般的な概要を修得したい人は、メディアツールa、メディアツールb、Webプログラミングa、Webプログラミングb、インターネット論を受講し、Windowsを使用するクラスを選んでください。下図に示す順序で履修して下さい。

【ITスキルコース】 画像制作を学びたい人



【ITスキルコース】 Webプログラミングを学びたい人



(4) クラス編成

メディアツールaとメディアツールbは、Windowsクラスが1つ、Macクラスが3つあります。メディアツールcとメディアツールdはMacを使用します。Webプログラミングaと、WebプログラミングbはWindowsを使用します。Webデザインa、WebデザインbはMacを使用します。インターネット論は講義を行います。

(5) シラバス

シラバス（講義要綱）をよく読んで、各授業の目標、授業計画、使用マシン等をよく読んで、選択してください。（3）、（4）にも書かれているように、メディアデザインユニットを受講して、どのような方向に進みたいのかによって、受講する科目が決まってきます。また、受講する順番が決まっていますので注意してください。

(6) その他

環境情報学部メディア情報分野の学生は、専門教育科目もしくは基礎演習、専門演習でメディアを扱う基礎科目として、メディアツールの各科目が位置づけられています。メディア制作を学びたい人は必ず受講してください。また、プログラミングを学びたい人は、Webプログラミングの各科目とインターネット論が基礎科目として位置づけられています。必ず受講してください。

⑥ 数理・統計力養成ユニットについて

(1) 数理・統計力養成ユニットの目的

■統計力を身につけてデータに強くなろう！

統計の知識は理系分野はもちろん、広く社会で広く役立つスキルです。たとえば、アンケートの集計・分析やビジネスの戦略立案などで統計の知識は必須です。統計に関する知識、統計処理技術は卒業後皆さんにとって必ず役に立ちます。

本ユニットを履修して基礎力をつけ、ぜひ統計を応用するための基礎力を獲得してください。

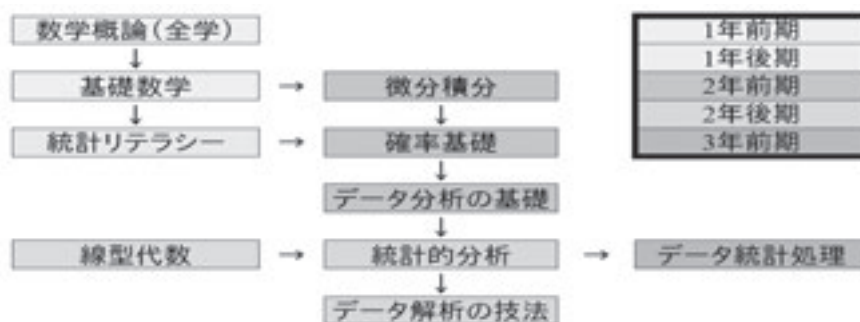
(2) 科目名と分類

区分	授業科目の名称	学期	配当年次	単位数	
				選択	
ス キ ル 科 目	数理・統計力養成ユニット	基礎数学	前	1	2
		統計リテラシー	後	1	2
		確率基礎	前	2	2
		微分積分	前	2	2
		線型代数	後	2	2
		データ分析の基礎	前	2	2
		統計的分析	後	2	2
		データ解析の技法	後	2	2
		データ統計処理	前	3	2

(3) 履修上の注意

■順序良く履修するのがよい！

数理統計ユニットの科目は次のように構成されています。自分の基礎知識に合わせて無理のないところから履修を始めるのがよいでしょう。無理をしなくても在学中にすべての科目を履修することが可能です。履修にあたって不明な点があれば担当教員に相談してください。



■基本はここまで！

基礎数学からデータ分析の基礎まで履修すると統計の基礎が学べます。

■応用力を身につける！

線型代数、統計的分析、データ統計処理、データ解析の技法までユニット内のすべての科目を学ぶことを勧めます。

(4) シラバス

シラバス（講義要綱）では、各授業の目標やねらい、使用されるテキスト、担当教員からの注意事項、それに毎回の授業の学期全体計画などが掲載されていますので、それらの内容をよく読んで履修登録し、受講するようにしてください。

(5) その他

■基礎が大事！

みなさんが消化不良にならないように科目ごとに基礎事項を復習することもあります。内容が重複する場合がありますが、そういう部分はとても重要な事柄だと思ってください。

途中で急に難しくなったりはしませんから、すべての科目を履修するつもりで頑張ってください。

資格等の単位認定

「防災士」の資格を目指す科目

三重創生ファンタジスタ(ベーシック) 資格

成長スケール

海外語学研修

スポーツ指導者養成科目 (総合政策学部)

社会調査士資格科目 (総合政策学部)

おもてなし経営実践プログラム (総合政策学部)

環境情報特別講義 I (環境情報学部)

海洋調査法 (環境情報学部)

資格等の単位認定（大学以外の教育施設等における学修の単位認定）

本学では、本学以外の教育施設等で学修した成果（資格等）を本学の単位として認定することができます。単位を認定することができる学修の種類等は表の通りです。なお、対象となる資格及び試験は在学中に取得したものに限りです。

（1）単位認定申請受付

認定を希望する学生は、「大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定書」に必要書類を添付して、以下に指定する期日までに教学課に提出してください。

<申請時期>

- ① 4年次（卒業年次）：前学期 7月末日まで
後学期 1月末日まで

上記以降に提出があった場合は認定できませんので注意してください。

- ② 1～3年次生：随時

提出書類 ①大学以外の教育施設等における学修に係る単位認定書

- ②試験の合格書、成績証明書のコピー（いずれも資格・試験の種類および受験者本人のものと同確認できるもの）を添付

※単位認定を受けようとする場合、次のことに注意してください。

- ・既に読替授業科目の単位を修得している場合は、その授業科目の単位認定申請はできません。
- ・単位認定を受けようとする授業科目を履修中の場合は、必ず授業科目担当教員に申請する旨を連絡すること。
- ・履修登録を行っていない科目の場合は、単位を認定された当該授業科目は、履修制限単位数に含まれません。ただし、履修登録を行っている科目の場合は履修制限単位数の中に含まれます。

（2）単位認定

- ①単位認定された場合は、申請のあった学期の成績として通知します。ただし、申請時期により申請のあった次の学期の成績に含まれる場合があります。評価は「認」（認定）となります。
- ②単位認定の上限は6単位です。

（3）【単位を認定することができる検定等】（2013年度以降入学生）

（表の見方）取得した資格により読替授業科目を履修したと見なし、単位を認定します。

例えば、TOEICを受験し、520点以上を取った場合、英語コミュニケーションⅠあるいは英語コミュニケーションⅡの単位を修得したと見なし、2単位が認められます。

なお、ひとつの資格等について認められる単位は読替授業科目1科目のみです。

12 資格等の単位認定

資格・検定試験名	主催者	成績等基準	総合政策学部 読替授業科目	単位	環境情報学部 読替授業科目	単位
TOEIC	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	520点以上	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	2
TOEFL	国際教育交換協議会	480点以上	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	2
実用英語技能検定 (英検)	公益財団法人 日本英語検定協会	2級以上	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	2	英語コミュニケーションⅠ 英語コミュニケーションⅡ	2
マイクロソフトオフィス スペシャリストWord	マイクロソフト	Word合格	アプリケーション演習Ⅱ	2	アプリケーション演習Ⅱ	2
マイクロソフトオフィス スペシャリストExcel		Excel合格	アプリケーション演習Ⅰ	2	アプリケーション演習Ⅰ	2
マイクロソフトオフィス スペシャリストAccess		Access合格			情報システム論	2
日商簿記検定試験	日本商工会議所	3級以上	簿記入門	2		
販売士検定試験	日本商工会議所	2級以上	販売士講座	2		
ITパスポート試験	独立行政法人 情報処理推進機構	合格			システム管理論 インターネット論	2
基本情報技術者試験	独立行政法人 情報処理推進機構	合格			ハードウェア論 ソフトウェア論 システム管理論 インターネット論 データベースプログラミング	2
実用数学技能検定 (数学検定)	公益財団法人 日本数学検定協会	準1級以上			微分積分学	2
		1級以上			統計的分析 データ統計処理	2
気象予報士	一般財団法人 気象業務支援センター	合格			資源循環論	2
公害防止管理者	一般財団法人 産業環境管理協会	第4種以上			資源循環論 環境エネルギー論	2
サウンドレコーディング 技術認定試験	一般社団法人 日本音楽スタジオ協会	Bランク以上			音響概論	2

13 「防災士」の資格取得を目指す科目

地域防災／総合政策特講 a（地域防災）

「防災士」とは、日本防災士機構が認証する資格で、「自助・共助・協働を原則として、社会の様々な場で防災力を高める活動が期待され、そのための十分な意識と一定の知識・技能を修得したことを、日本防災士機構が認証した人」とされます。地域でも会社でも、大きなリスクを抱える日本において、注目される資格です。就職活動においても、自分の特長を表現するきっかけになります。もしかすると、こんな自己PRも可能かもしれません。

「ボランティア活動に興味があり、東北の支援活動にも参加しました。私は、安心して暮らせる社会を実現するために、ぜひ御社で働きたいと思います。御社の社是でもある『地域の皆さんの生活を豊かに』という言葉には、鳥肌が立つほどの共感をしました。また、会社の皆さんの命を守るためのノウハウも、この資格取得で身に付けています。ぜひ、御社で働かせていただきたいと思います」

この講義は、4月～6月の9週にわたって事前学習をし、6月19・20・26日に、三重県周辺の高校生・大学生や一般社会人にも授業を公開し、行政・社協・自主防災隊・消防団など、さまざまな防災に関わる機関から講師を招聘して集中的に地域防災について勉強します。そして、8月25日には、防災士の試験を実施し、合格を目指します。

講義日程 9コマの事前学習（前学期金曜3限）、6コマに相当する週末講義（6月の週末）

★テキスト代など実費負担が17,500円。徴収の方法は、別途案内をします。

■内訳

- ・テキスト代「防災士教本」
- ・講師招聘費用などの講座運営に必要な経費
- ・資格試験受験料
- ・防災士資格登録料

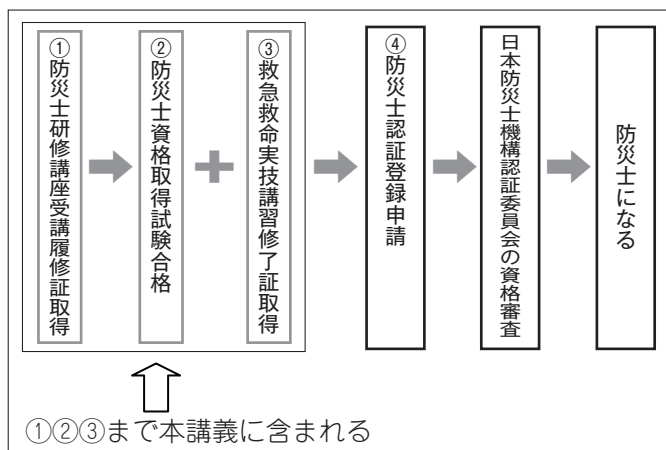
◎本講義のメリット

本学で地域防災を履修することで、「防災士」資格の取得を通常よりも容易に目指せます。

防災士になるための手順のうち①②③までは本講義に含まれていて、資格試験も救命講習も大学で実施しますので、本学学生にとっては、とても有利な講義と言えます。

資格試験の練習として、課題に答えるレポートを書き、期末試験に合格すれば、2単位が認定されます。さらに「防災士」の資格も取得できます。受講費用も、一般の講習と比較して格安です。

- ① 日本防災士機構が認証した研修機関が実施する研修カリキュラムの履修
- ② 日本防災士機構が実施する「防災士資格取得試験」を受験し、合格すること。
- ③ 「救急救命講習」を受け、その修了証を取得すること。
- ④ 上記3項目の証明書を取得することにより、日本防災士機構への「防災士認証登録申請」を行うことが出来ます。



実費負担17,500円にすべての費用が含まれる

14 地域志向科目と三重創生ファンタジスタ資格

本学は、地方自治体を中心に地域社会と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進めています。教育の面では、大学での学びを通じて地域の課題等の認識を深め、地域と結びつき具体的に学び・実践する授業科目と位置付けられる「地域志向科目」を数多く開設してきました。これらの科目は、地域課題の解決に向けて主体的に行動できる人材を育成することを目的とした授業科目でもあります。地域の方に講師を務めていただいたり、地域を教材として学びを深めていたり、地域の方々とともに地域で実習活動を行ったりといった特徴がある科目です。

さらに2015年度からは、三重大学など県内の全高等教育機関と連携して、「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」の採択を受け、三重県内の歴史、文化、産業等の特徴を理解し、地域が抱える課題に対して深い関心を持ち、能動的な活躍を期待できる人材である「三重創生ファンタジスタ」の育成を目指しています。

四日市大学総合政策学部では、「地域志向科目」である以下の各科目の中から、2017年度以降に、3科目（6単位）以上の単位を修得し申請すると「三重創生ファンタジスタ（ベーシック）」の資格を、さらに、2018年度以降に下の表の☆印のついている科目（実践交流科目といえます）を3科目（6単位）以上を含んで「地域志向科目」6科目（12単位）の単位を修得し申請すると「三重創生ファンタジスタ（食と観光）」の資格を、それぞれ取得することができます。ベーシックは初級相当の、食と観光は中級相当の資格となります。三重県で就職して三重県で活躍したいと思っている人にピッタリな資格ですので、ぜひ積極的に資格取得を目指しましょう。

★資格申請方法等の詳細は、掲示などで案内しますので、見落とさないようにしてください。

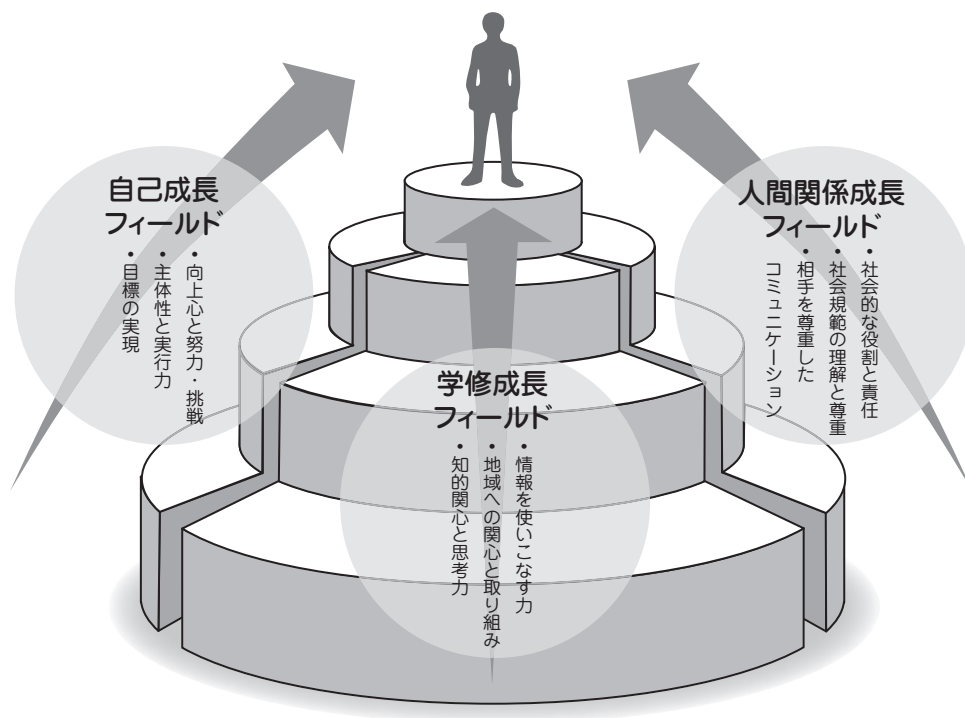
★開講日を必ず確認してください。休日に学外で実習などを行なう科目もあります。詳細はシラバスや掲示などで案内しますので、必ず参加するようにしてください。日程が変更されることもありますので注意してください。

科目区分		科目名 (2017年度以降入学生)	
全学 共通 教育 科目	地域科目	四日市学	
		地域社会の歴史	
		市民教育	
		人権論	
		地域社会と環境	
		地域防災	
		地域連携特別講義 a ☆	
		地域連携特別講義 b ☆	
	特別科目	ボランティア活動 a	
		ボランティア活動 b	
		インターンシップ	
	スキル 科目	社会 調査士	社会調査実習 1
			社会調査実習 2
		おもて なし	オペレーション演習 ☆
マーケティング演習			
おもてなし特別講義 a			
おもてなし特別講義 b			
学部 専門 教育 科目	理 論	行政法	
		地域と 社会	地域産業論
		地域開発論	
	ま ち づ くり	食とまちづくり ☆	
		祭りとまちづくり ☆	
		音楽とまちづくり ☆	
		鉄道とまちづくり ☆	
		コミュニティ論	
		地方議会論	
		NPO論	
	政 策	観光政策 ☆	
国際経営	ビジネス	起業論	
分野共通	文化論	地域文化論	

科目区分		科目名 (2013～16年度入学生)	
全学 共通 教育 科目	地域・社会 系 列	地域社会の歴史	
		四日市学	
		市民教育	
		人権論	
	人 文 系 列	芸術学 ☆	
		文化論 a (2019年度以降の履修に限る)	
	特 別 科 目	インターンシップ	
		ボランティア活動 a ボランティア活動 b	
	学部 専門 教育 科目	資 格 分 野	観光実務 ☆
		総 合 分 野	総合政策特講 a (地域防災)
まちづくり研究			
コース別研修			
起業論			
地方議会論			
鉄道とまちづくり ☆			
祭りとまちづくり ☆			
食とまちづくり ☆			
地 域 政 策		行政法	
	地域開発論		
	コミュニティ論 NPO論		

本学では、文部科学省「地（知）の拠点整備事業（大学COC事業）」に採択されたことを機に、「四日市大学成長スケール」を導入しました。四日市大学成長スケールは、「本学の学生が、大学生活を通して、どのような点でどのくらい成長するのか」を知るための取り組みです。四日市大学成長スケールには、「高校を卒業して大学で学び、社会人となる前に身につけて欲しいこと」「三重県四日市市にある大学で地域を通して学び考えて欲しいこと」が示されています。学生の皆さんには、四日市大学成長スケールへの取り組みで、「現在の自分が大学生活でどのように成長したのか」を振り返り、実感する機会を持ってもらえれば、と思います。

地域から求められる人材



1. 四日市大学成長スケールは、「学生の皆さんがどのように成長してきたのか」を実感して「今後はどのような取り組みが必要なのか」を考えてもらうために実施しています。
2. 四日市大学成長スケールは、学生と教員で成長に対する意識を共有するための取り組みです。回答の内容により、マイナスの評価をしたり、特定の考えや行動を強制したりすることはありません。
3. 調査票への回答は全て任意です。また回答の結果を、同意なく個人が特定される形で公表することはありません。
4. 調査票を実施して頂いた後に、ゼミの担当教員との面談があります。
5. 四日市大学では、皆さんの回答を分析して、教育カリキュラムや大学生活における支援について、よりよい方向を目指して行きます。

★四日市大学成長スケールは、毎年定期的実施して、皆さんの成長を継続的にフォローしていく予定です。ご協力をお願いします。

16 海外語学研修について

2021年度 四日市大学海外語学研修

四日市大学では、外国語の語学力向上と国際感覚養成を目的に、海外語学研修を実施しています。異文化体験を通してしか見えないものを見ることで、今後の自分をより高めていくきっかけとなるでしょう。そんな2週間（英語）・4週間（中国）の経験しませんか！

1. 研修内容（コース・費用等は、変更になる場合があります。）

英語研修（海外語学研修 a）		中国語研修（海外語学研修 b） ★2021年度は実施しません	
研修先	東京GLOBAL GATE WAY	研修先	南開大学（天津市）
期間	2022年2月頃に4日間（予定）	期間	8月頃に4週間程度（予定）
語学研修	東京GLOBAL GATE WAYで4日間（約20時間）の英語レッスン	語学研修	南開大学にて週15時間＋補習4時間のセミナーを受講／セミナー期間中は週2～3回早朝に太極拳実技指導あり／週末には天津市内にある南市食品街・天津芸術博物館・古文化街などを見学
フリータイム	未定	フリータイム	大学周辺にある百貨店・書店・レストラン・映画館の利用、天津市最大の水上公園散策など。
宿泊	都内のホテル	宿泊	研修期間中は南開大学の留学生宿舎。
他	観光など予定	他	観光など予定
費用概算	10～13万円前後程度（無利子の貸付金制度あり）	費用概算	30万円以下程度（無利子の貸付金制度あり）

2. 単位認定

語学研修および研修旅行の全ての行事を修了すると下記の単位が認定されます。ただし、事前研修への参加、研修後のレポート提出等が単位修得の必要条件となります。いずれも2年生以上が対象です。単位は認定されませんが、1年生も参加は可能です。

学部	科目名	単位数
総合政策学部	海外語学研修 a・b	2単位
環境情報学部	海外語学研修 a・b	2単位

3. 参加申込については、後日掲示でお知らせします。

4. 実施には、最少催行人数がありません。

参加人数が少数の場合実施しない場合があります。いずれのコースも本学の教員が引率します。なお、実施が決定した場合は、説明会を改めて開催します。

海外語学研修費用の貸付制度について 詳しくは会計課にお尋ねください。

17 スポーツ政策コース（スポーツ指導者養成科目）（総合政策学部）

本学で取得可能な日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格

【スポーツリーダー】

日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格には様々な種類があります。それらの資格を取得するためには各資格ごとに定められた「専門科目」及び「共通科目」を修得する必要があります。「共通科目」は、資格の種類に応じてⅠ～Ⅳまであり、本学ではⅠ・Ⅱ・Ⅲが修得可能です。表1の7科目を修得すると「共通科目Ⅰ・Ⅱ」、表1の7科目に加えて表2の3科目を修得すると「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の修了条件が満たされ、申請すれば修了証が発行されます（カリキュラムの構成上、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲの中から単独、あるいは、「共通科目Ⅰ・Ⅱ」と「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」以外の他の組み合わせでの修得はできません）。「共通科目Ⅰ・Ⅱ」と「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」のどちらでも修了することによって、「スポーツ・リーダー」の資格が認定されます。「スポーツ・リーダー」とは、地域のスポーツクラブやサークルなどでスポーツ指導を行うための基礎資格です。

【アシスタント・マネジャー（受験資格）】

「共通科目Ⅰ・Ⅱ」（表1）あるいは「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」（表1+表2）に加えて表3の2科目を修得することによって、日本スポーツ協会が主催する「アシスタント・マネジャー」試験の受験資格が得られます。「アシスタント・マネジャー」とは、地域のスポーツクラブなどの運営に関わるための資格です。

※詳細については、日本スポーツ協会のホームページを参照してください：<http://www.japan-sports.or.jp/>

※資格認定のための申請は卒業時に行います。その手続きについては、適宜お知らせします。

表1

17年度以降入学生 科目名	配当年次	2013～2016年度入学生 科目名	配当年次	担当教員	学期
スポーツ指導論	1	スポーツ指導論	1	若山裕晃	前
スポーツトレーニング論	1	スポーツトレーニング論	1	若山裕晃	前
スポーツ栄養学	2	スポーツ栄養学	2	櫻井智美	後
スポーツ心理学	1	スポーツ心理学	1	若山裕晃	後
スポーツ生理学	2	スポーツ生理学	2	小泉大亮	前
スポーツ社会学	2	スポーツ社会学	2	若山裕晃	後
健康スポーツ論	2	健康スポーツ論	2	小泉大亮	後

表2

17年度以降入学生 科目名	配当年次	2013～2016年度入学生 科目名	配当年次	担当教員	学期
スポーツ応用科学	2	スポーツ応用科学	2	小泉大亮	前
アスリート育成論	1	アスリート育成論	1	若山裕晃	前
スポーツメディカル論	2	スポーツメディカル論	2	小泉大亮	後

表3

17年度以降入学生 科目名	配当年次	2013～2016年度入学生 科目名	配当年次	担当教員	学期
地域スポーツ論	2	地域スポーツ論	2	小泉大亮	前
スポーツ政策論	1	スポーツ政策論	2	小泉大亮	後

18 社会調査士資格科目（総合政策学部）

社会調査士とは

社会調査士は調査方法や分析手法に通じた「社会調査」の専門家です。行政や企業の企画部門など、活躍の場は多岐にわたります。四日市大学では下表の科目を習得することで、卒業後に一般社団法人社会調査協会から社会調査士の資格を取得できます*。就職活動等で利用する際は、在学中に「社会調査士キャンディデイト」（取得見込み）の資格が取れます。

（詳細は社会調査協会のwebサイトを参照：<http://jasr.or.jp/>）

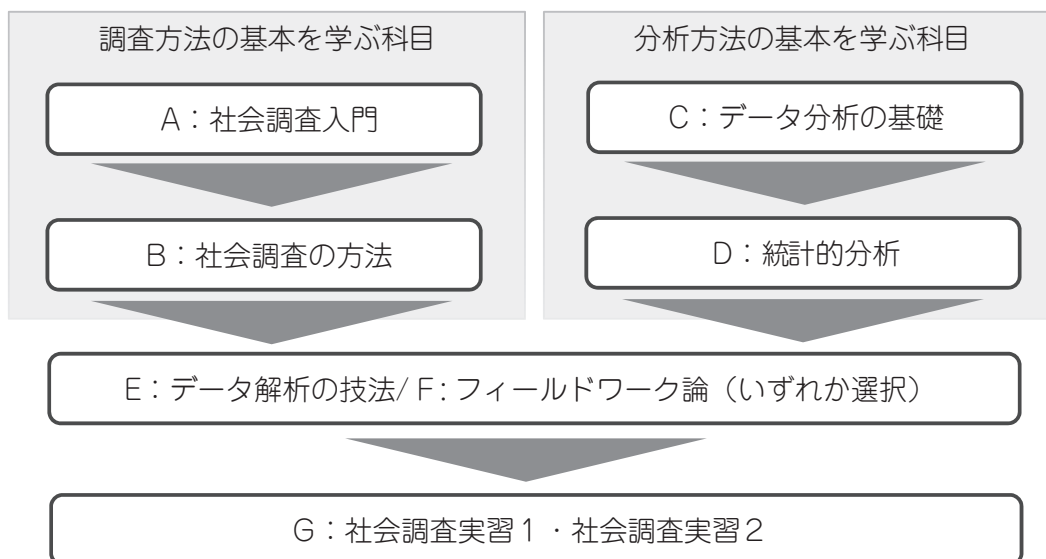
社会調査士標準カリキュラム認定科目

科目内容	科目名	配当年次		担当教員
		1	2	
【A】 社会調査の基本的事項に関する科目	社会調査入門	1	前	三田
【B】 調査設計と実施方法に関する科目	社会調査の技法	1	後	三田
【C】 基本的な資料とデータの分析に関する科目	データ分析の基礎	2	前	田中伊
【D】 社会調査に必要な統計学に関する科目	統計的分析	2	後	田中伊
【E】 量的データ解析の方法に関する科目	データ解析の技法	2	後	吉見
【F】 質的な分析の方法に関する科目	フィールドワーク論	2	前	富田
【G】 社会調査の実習を中心とする科目	社会調査実習1	3	前	三田
	社会調査実習2	3	後	三田

注 ①社会調査実習1・社会調査実習2は、2科目を同一年度に履修しなければなりません。

②資格認定には、審査・認定手数料16,200円が必要です。

科目履修のイメージ



おもてなし経営実践プログラムによる
修了証（おもてなし経営エキスパート）の発行について

1. 概要

四日市大学は、観光業の経営中核人材の育成を目指しています。この科目群を「おもてなし経営実践プログラム」と称しています。

2. 修了証（おもてなし経営エキスパート）の発行について

おもてなし経営実践プログラムの科目を一定以上修得した学生には、学長名による修了証が授与されます。修了証の発行条件は以下①②のとおりです。

- ①総合政策学部 専門教育科目「国際・経営分野」から必修6単位を含む24単位以上を修得すること。
- ②全学共通教育科目 スキル科目「おもてなし経営ユニット」から12単位（6科目）以上を修得すること。ただし、うち2単位（1科目）は下記③本学指定科目から振り替えることができます。

①国際・経営分野 必修6単位を含む24単位以上		②おもてなし経営ユニット 12単位（6科目）以上	③本学指定科目 2単位（1科目）を②に振替可
(必修) 国際経済事情 国際関係論 経営管理論	日本経済事情 金融論 国際経営論 国際協力論 開発経済学 簿記入門 会計学総論 財務諸表論 経営戦略論 マーケティング論 中小企業論 人事管理論 ものづくり経営 流通論 農業経営論 起業論	ビジネスマナー サービス経営論 販売士講座 ビジネスコミュニケーション オペレーション演習 ビジネスマネジメント マーケティング演習 おもてなし特別講義a おもてなし特別講義b グローバルコミュニケーション	(地域科目) 地域防災 (スキル科目) ビジネス英語Ⅰ ビジネス英語Ⅱ (地域・まちづくり分野) 地域産業論 地域開発論 食とまちづくり 祭りとまちづくり 鉄道とまちづくり コミュニティ論 観光政策 (スポーツ・人間分野) スポーツ政策論 地域スポーツ論 (分野共通) 地域文化論

3. 修了証（おもてなし経営エキスパート）申請・発行手順

「おもてなし経営実践プログラム」の修了証発行の要件を満たしている学生は、修了証の発行の手続きを行ってください。

教学課で申請用紙を受け取り、必要事項を記入し、教学課に提出してください。

修得単位を確認し、発行要件を満たしている場合は、修了証（おもてなし経営エキスパート）を発行します。（発行までに約1週間かかります。）

修了証の申請・発行は在学中とし、卒業後には発行しません。

20 環境情報特別講義Ⅰ（環境情報学部）

履修制限対象外科目

1. 環境情報特別講義Ⅰ

「環境」に関する講義内容で日本国内外の教育機関において実施される授業。

履修登録時の履修制限単位数に含まれません。

教育機関において実施される授業の受講について

時 間 数：15コマ（30時間）以上の講義等の受講

期 間：研修期間は、原則として本学在学中の夏季・冬季・春季休業の期間とします。ただし、各休業期間中であっても大学行事及び授業等に支障を来す場合は活動を認めません。また、休業期間外でも、大学行事及び授業等に支障を来さない場合は、活動を認める場合があります。

事前申請：受講1ヶ月前までに受講内容等を教学課へ提出しなければなりません。

※単位付与にふさわしい内容かどうかを審議します。

単位取得申請

提出書類：（事前）①受講する教育機関名および所在地

②受講内容（詳細資料添付）

③受講期間

※以上①～③を明記し、受講1ヶ月前までに教学課へ提出

（事後）①受講修了書等（受講した国外の教育機関交付のもの）

②レポート

評 価：評価結果は、申請のあった当次期の成績とまとめて通知します。

評価は「認」（認定）となります。

※2021年度は不開講です。

2. 海洋調査法

三重大大学の練習船「勢水丸（せいすいまる）」を共同利用した伊勢湾の海洋調査実習を以下のとおり実施します。この実習は三重大大学の協力により実現したもので、洋上実習に参加できる貴重な機会です。奮ってご参加ください。

目 的 三重大大学の練習船「勢水丸（せいすいまる）」に乗船し、伊勢湾の海洋調査実習に参加し、海洋調査方法の基礎を学ぶとともに、伊勢湾の水質、流動、生物相の特徴を知り、環境状態を理解します。

研修日程 7月 実習ガイダンス、事前授業1回
8月4日～6日 伊勢湾洋上実習2泊3日
9月下旬 事後授業2回

費 用 食事代等の実費

提出書類 ①研修日報 実習内容を実習中に記録したもの
②研修評価書 実習担当者による評価を記載したもの
③単位取得申請書

詳しくは、7月上旬に開催する実習ガイダンスに必ず参加してください。
あるいは、担当教員の千葉までお問い合わせください。

総合政策学部 カリキュラム

2017年度以降入学生対象【専門教育科目】

1. カリキュラムポリシーとディプロマポリシー

<総合政策学部>

<カリキュラム・ポリシー>（教育課程の編成方針）

【学士力を身につける全学共通教育科目の編成】

全学共通教育として、ベースとなる基礎科目、社会人として必要とされる基礎的知識を修得する科目、幅広く一般教養を身につけるための科目、地域との関りから社会人としての感覚を修得する科目、キャリアを形成するために必要とされる能力を身につける科目、自分の能力を生かした一つのスキルを極めることが可能な科目を配置する。

【一人ひとりの学ぶ目的に即した専門教育の提供】

総合政策学部は、「地域・まちづくり」、「スポーツ・人間」、「国際・経営」の3つの分野を設置し、分野ごとに系統的に科目を配置すると同時に、分野をまたがって総合的な学修が可能なカリキュラム編成を行う。これにより、例えば、民間企業の経営感覚を身につけた公務員、「公」の視点を持ちつつ利益を上げるビジネスパーソン、継続的に活動する資金を獲得できる経営感覚を持ったNPO・NGO職員など、新しい時代が求める人材が育つための総合的な教育研究の機会を提供する。

【地域連携による新しいスタイルの教育の提供】

地域科目、地域志向科目など、全学共通教育科目・専門教育科目の両方で、行政、議会、企業、NPO等と協働し、学外授業・実習や学外講師招聘を講義に取り入れ、現実を重視した実践的な学びの場を提供する。

<ディプロマ・ポリシー>（卒業認定・学位記授与に関する方針）

- 地域を志向した学修を通じて地域社会に貢献する人材になる
- プレゼンテーション・コミュニケーションの能力を身につける
- 調査・分析を通じて研究テーマを探求する能力を身につける
- 系統的に学修し、進路に即した人間力の根幹を形成する
- 幅広い人間力を身につける

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

2. カリキュラムマップ

総合政策学部 カリキュラムマップ

学部共通		
学部基礎・演習	分野共通科目	
4年 ↑	専門演習 d	
	専門演習 c	
	専門演習 b	
3年 ↑	専門演習 a	地域文化論
	基礎演習 b	東洋文化論
	基礎演習 a	西洋文化論
2年	総合政策論 II	出版文化論
		日本文化論
1年後期	総合政策論 I	
1年前期	政策科学入門	

総合政策学を
さまざまな文化を学ぶ科目。おもてなし経営ユニットを選択する場合は「地域文化論」を履修することが望ましい。

全学共通教育科目				
基礎科目	語学科目	情報科目	地域科目	
社会科学	人文学	自然科学	キャリア科目	特別科目
社会調査士養成ユニット	公務員養成ユニット	おもてなし経営ユニット	英語力養成ユニット	メディアデザインユニット

地域・まちづくり分野				
分野必修	政策の理論	地域と社会	地域政策	まちづくり
4年 ↑		地域開発論	都市計画論	
	政策法務	社会保障論	交通政策	音楽とまちづくり
	都市法	環境社会学	経済政策	鉄道とまちづくり
3年 ↑		女性学		
	行政学	地域産業論	環境政策	NPO論
	政策過程論	地域福祉論	観光政策	祭りとまちづくり
2年	地域経済論	地域社会学	都市政策	地方議会議論
1年後期	地方自治論			食とまちづくり
1年前期			マイノリティ政策	コミュニティ論

地域とまちづくりを学ぶ分野必修科目
政策の基本的な理論を学ぶ
地域の社会問題を深く学ぶ科目
具体的な個別政策に関わる科目
地域活動と社会貢献を実践しつつ政策を学ぶ

スポーツ・人間分野			
分野必修	ｽﾎｰﾌﾞ基礎	ｽﾎｰﾌﾞ実践	こころと健康
4年 ↑			
		スポーツ社会学	
		スポーツ栄養学	
3年 ↑	こころの科学	健康スポーツ論	健康ｽﾎｰﾌﾞ実践
	からだこころ	スポーツ生理学	介護予防ｽﾎｰﾌﾞ
		ｽﾎｰﾌﾞ応用科学	こころと文学
1年後期	スポーツ政策論	スポーツ心理学	スポーツ実技
1年前期		ｽﾎｰﾌﾞ/ﾄﾚﾝｼﾞﾝｸﾞ指導	アスリート育成論

(注)ｽﾎｰﾌﾞ/ﾄﾚﾝｼﾞﾝｸﾞ指導 = スポーツトレーニング論・スポーツ指導論

スポーツと人間について学ぶ分野必修科目
スポーツ指導者になるための基礎を学ぶ
実践的なスポーツを研究する
こころとからだの健康を保つ理論を学ぶ

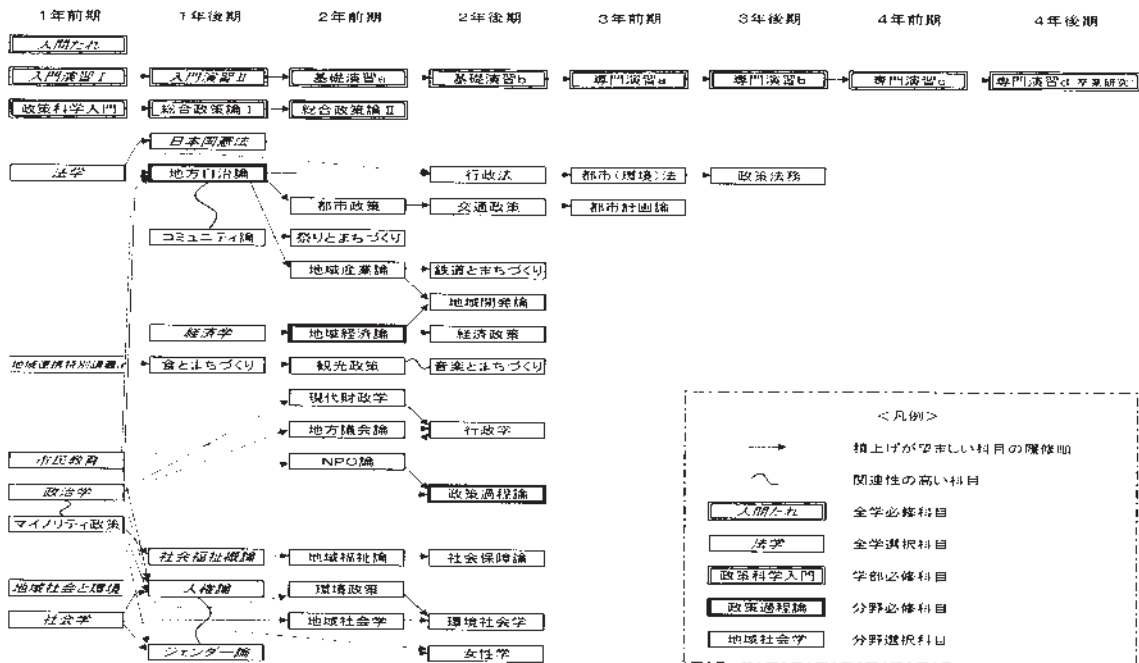
国際・経営分野		
分野必修	国際理解	ビジネス経営
4年 ↑		
		人事管理論
		中小企業論
3年 ↑	国際協力論	起業論
	開発経済学	農業経営論
	経営管理論	国際経営論
2年	国際関係論	マーケティング論
		ものづくり経営
	金融論	財務諸表論
		流通論
1年後期	国際経済事情	日本経済事情
1年前期		会計学総論
		簿記入門

国際と経営を学ぶ分野必修科目
国内外の経済・社会を理解する
企業の経営手法を総合的に学ぶ
業界とそれを支える企業の仕組みを学ぶ

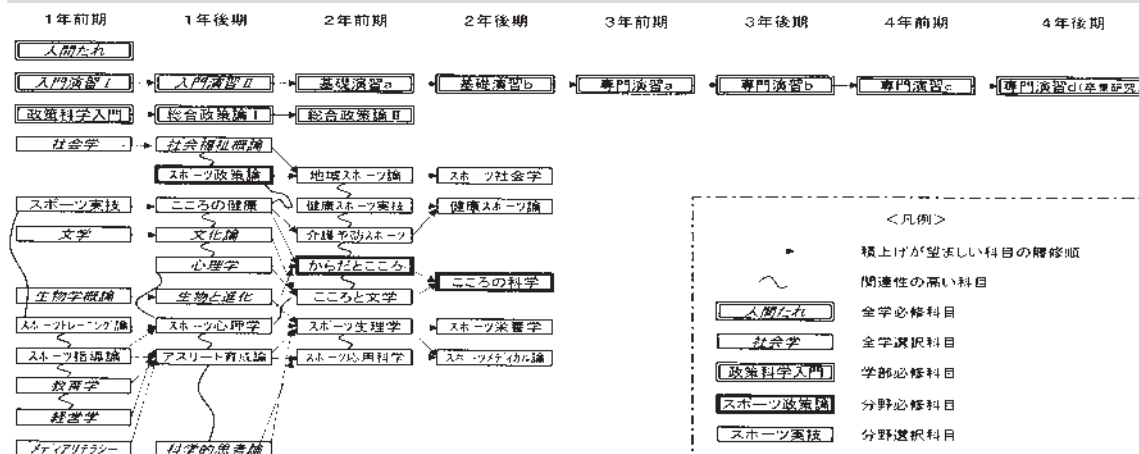
22 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

3. カリキュラムツリー

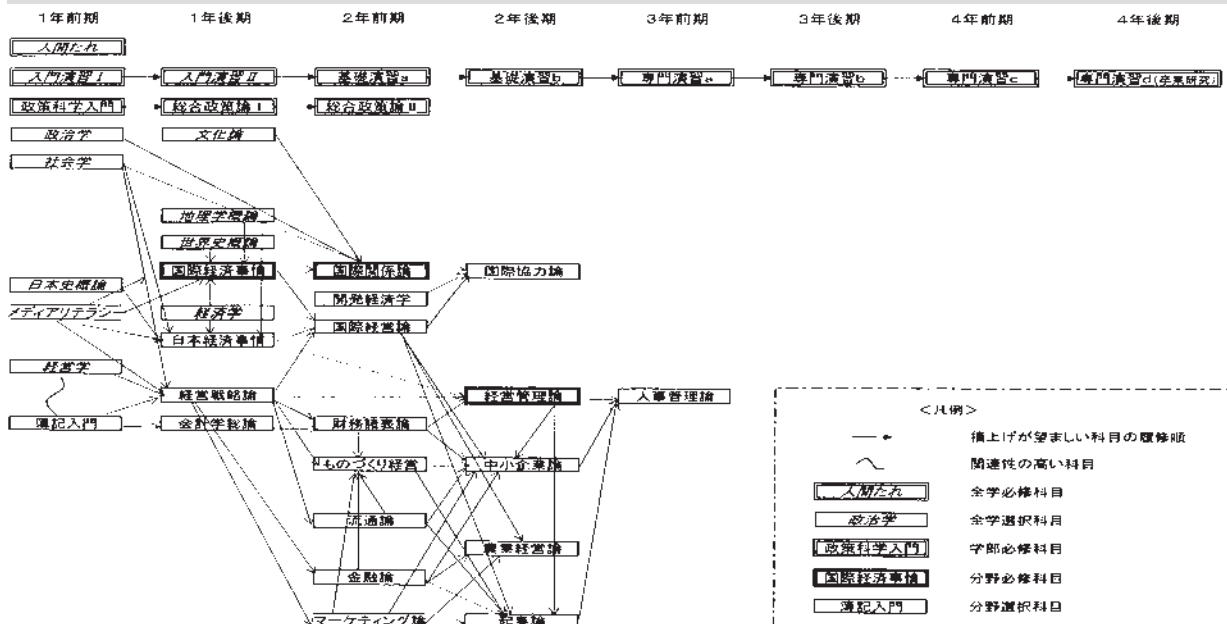
地域・まちづくり分野 カリキュラムツリー



スポーツ・人間分野 カリキュラムツリー



国際・経営分野 カリキュラムツリー



4. カリキュラム説明

総合政策学部の目標とする人材

地域から世界まで幅広い視野を持ち、
激動する現代社会に力強く対応できる
判断力・行動力と豊かな人間性を備えた、
地域のリーダーとして活躍できる人材



専門教育科目

地域・まちづくり分野

（3分野から選択）

- ・分野必修3科目
- ・4つの区分の26科目
- ★地域志向11科目

スポーツ・人間分野

（3分野から選択）

- ・分野必修3科目
- ・3つの区分の16科目

国際・経営分野

（3分野から選択）

- ・分野必修3科目
- ・2つの区分の16科目

学部必修科目

- ・政策科学入門
- ・総合政策論Ⅰ・Ⅱ

演習科目

（少人数クラス11ゼミ）

- ・基礎演習 a・b
- ・専門演習 a～d

分野共通科目

（自由に選ぶ5科目）

- ・文化論5科目

カリキュラムの基本方針

- ①自分の学ぶ目的に即した分野を体系的に履修できる
- ②学ぶ目的ごとに必修科目が明確に設定される
- ③自分が興味を持つ科目を自由に選択して学べる



全学共通教育科目（30～52ページ参照）

【専門教育の基礎となる学士力の養成】

専門教育科目

■学部基礎科目（必修3科目6単位）

「政策科学入門」「総合政策論Ⅰ」「総合政策論Ⅱ」の3科目です。学部基礎科目では、総合政策学部の専門教育科目を学ぶ上で必要となる準備をします。1年生前期の「政策科学入門」は4年間の学びの基礎となる科目です。現代社会を理解するキーワードについて、総合政策学部の各教員がそれぞれの専門分野をいかして解説します。続く「総合政策論Ⅰ・Ⅱ」では、総合政策学部らしい専門教育科目のエッセンスにふれてもらうことを目的に、各教員が自己紹介をかねて、現在研究している内容をできるだけやさしく講義します。これらの科目を通して、世の中の様々な問題を解明し解決する方法を考える「政策科学」の基本的な知識を学ぶことができます。学部基礎科目は総合政策学部の学生にとって欠かせない内容で構成されていることから、すべて必修科目になっています。

■演習分野（必修6科目12単位）

演習とは、一方的に行われる講義とは異なり、教員を囲んでの少人数の討論形式による科目です。学生は、自分が関心ある専門テーマの演習を選ぶことができます。2年次に「基礎演習a・b」、3年次から4年次にかけて「専門演習a～d」が必修科目として配置されます。演習は「ゼミ」と表現することが多く、例えば「鶴田ゼミ」というように担当教員の名前を付して自分の履修（所属とも言う）するゼミを表します。2017年度入学生のゼミは、12名の教員（奥原・鬼頭・小泉・小林・高田・鶴田・富田・中西・フェハリー・松井・三田・若山）が担当します。2年前学期の「基礎演習a」については1年後学期に決定したゼミに所属しますが、2年後学期の「基礎演習b」からは6月に予定している説明会で再びゼミを選択しなおし、3年以降の「専門演習a～d」までの2年半は同じ担当教員のゼミを履修することになります。

■地域・まちづくり分野

分野必修の「地方自治論」、「地域経済論」、「政策過程論」をベースに、4つの区分に整理される選択科目26科目が配置されます。「政策の理論」の区分に配置される科目では財政や行政の仕組みなどの理論的な知識を習得します。「地域と社会」では地域の産業や福祉などの実態を学びます。「まちづくり」は全ての科目が地域志向科目であり、学外授業や学外講師による実践的な学びを重視した科目が配置されます。「地域政策」では地域の課題を解決するための具体的な政策について学びます。この分野を通じ、地域の政治・行政に精通し、幅広い教養と柔軟な考え方でこれからの地域をつくり支えていく人材を育成します。特に公務員を志望する人にとっては、職業に直結する重要な分野といえます。

■スポーツ・人間分野

分野必修の「スポーツ政策論」、「からだところ」、「こころの科学」をベースに、3つの区分に整理される選択科目16科目が配置されます。「スポーツ基礎」では、スポーツ指導法、心理、生理、栄養など、スポーツの基礎を学ぶ科目が配置されます。「スポーツ実践」では、アスリートの育成や地域でのスポーツ実践について学びます。「こころと健康」では、心身ともに健康に暮らすために必要な知識を獲得します。この分野を通じ、スポーツを通じて、地域の健康を増進し、子どもたちの育成や高齢者の健康に心身両面で寄与できる人材を育成します。なお、この分野の指定された科目を取得すれば日本スポーツ協会公認の様々なスポーツ指導者資格に必要な「共通科目Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を修得でき、さらに「スポーツ政策論」「地域スポーツ論」を修得すれば、「アシスタント・マネジャー」の受験資格が得られます。（詳細は59ページ）

■国際・経営分野

分野必修の「国際経済事情」、「国際関係論」、「経営管理論」をベースに、2つの区分に整理される選択科目16科目が配置されます。「国際理解」では、国と国が政治やビジネスでどのように関係を持つか学ぶ科目を配置するとともに、途上国の発展に貢献する日本の企業・ビジネスについて学ぶ科目が配置されます。「ビジネス経営」には、会計やマーケティングなど企業経営に関わる科目と、ものづくり・流通・農業などさまざまなビジネス分野について具体的に学ぶ科目が配置されます。この分野を通じ、地域から世界までシームレスにつながるグローバル社会に貢献できる人材を育成します。

■分野共通科目

2年～3年次配当として、5つの文化関連の科目が配置され、全ての分野に共通する社会人として身に付けてほしい文化に関する知識を学びます。また、時代の変化に対応して必要となる総合政策学（政策学科）に関連するコンテンツを「総合政策特別講義」として開講していく予定です。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

5. 卒業要件

総合政策学部を卒業して「学士（総合政策）」の学位を得るためには、以下の2条件を同時に満たされなければなりません。

① 「4年以上」の在学期間

※每学期、履修登録が完了していなければなりません。

※8年を超えて在学することはできません。

② 「各科目分野の卒業必要条件」をすべて満たした上で「合計130単位以上」の修得

※卒業に必要な単位数は130単位以上であり、内訳は下表のとおりです。

区 分		卒業必要単位数							
全学共通教育科目	基礎科目	必修	6単位			50 単位以上	全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上	合計130 単位以上	
	語学科目	必修	4単位 留学生は日本語で4単位						
		選択	4単位以上 留学生は日本語で4単位以上						
	情報科目	必修	6単位						
		選択							
	地域科目	選択	4単位以上						
	一般教養科目	社会科学系列	選択	4単位以上					
		人文科学系列	選択	4単位以上					
		自然科学系列	選択	4単位以上					
	キャリア科目	必修	4単位						
		選択							
	※特別科目	選択							
スキル科目	社会調査士養成ユニット	選択	いずれかのユニットで10単位以上						
	公務員養成ユニット	選択							
	おもてなし経営ユニット	選択							
	英語力養成ユニット	選択							
	メディアデザインユニット	選択							
専門教育科目	学部基礎科目	必修	6単位			62 単位以上	左記の条件を満たし、さらに8単位以上		
	演習科目	必修	12単位						
	地域・まちづくり分野	選択必修	いずれかの分野を選択し、必修6単位と同じ分野から選択18単位以上	選択した以外の分野および分野共通科目から12単位以上					
		選択							
	スポーツ・人間分野	選択必修							
		選択							
	国際・経営分野	選択必修							
選択									
分野共通科目	選択								

※特別科目の他大学開放科目については、全学共通教育科目の必要単位数を超えて修得した科目として認定し、10単位まで含めることができる。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

6. カリキュラム表

○：半期科目	集：集中講義	単位数の○付き数字は必修単位
◎：半期（週2回連続）科目	▲：その他の科目	■の科目は本年度不開講
△：半期（週2回非連続）科目		

2017年度以降入学生

区分	授業科目名	単位数	配当年次								備考					
			1年次		2年次		3年次		4年次							
			前	後	前	後	前	後	前	後						
卒業に必要な単位数は130単位以上																
基礎科目	必修	「人間たれ」	②	○								} 6単位修得すること				
		入門演習Ⅰ	②	○												
		入門演習Ⅱ	②		○											
	語学	必修	基礎英語Ⅰ	②	○							} 4単位修得すること ただし留学生は日本語で修得すること 留学生対象科目		50 単 位		
			基礎英語Ⅱ	②		○										
			基礎日本語Ⅰ	②	◎											
		選択必修	英語コミュニケーションⅠ	2			○								} 4単位以上修得すること ただし留学生は日本語で修得すること	
			英語コミュニケーションⅡ	2				○								
			中国語Ⅰ	2			○									
			中国語Ⅱ	2				○							} 留学生対象科目	
ポルトガル語Ⅰ			2			○										
ポルトガル語Ⅱ			2				○									
海外語学研修a(英語)			2				▲									
海外語学研修b(中国語)	2					▲										
日本語中級Ⅰ	2					○										
日本語中級Ⅱ	2						○									
日本語上級Ⅰ	2						○									
日本語上級Ⅱ	2							○								
共通科目	必修	コンピュータリテラシー	④	◎							} 6単位以上修得すること	以上				
		情報倫理	②		○											
		情報科	2		○											
	選択	情報と職業	2		○											
		アプリケーション演習Ⅰ	2			○										
教育	地域科目	四日市学	2	○							} 4単位以上修得すること	修 得 す				
		地域社会の歴史	2		○											
		市民教育	2		○											
		人権と環境	2		○											
		地域社会と防災	2		○											
		地域連携特別講義a	2			▲										
	地域連携特別講義b	2			▲											
	社会科学系	必修	経営学	2	○							} 4単位以上修得すること	る こ と			
			経済学	2		○										
			政治学	2		○										
			社会学	2		○										
			ジェンダー論	2			○									
			メディアリテラシー	2		○										
			社会福祉概論	2		○										
			日本国憲法	2			○									
		民法入門	2		○											
人文科学系	必修	倫理	2		○						} 4単位以上修得すること					
		哲学	2		○											
		文章表現	2		○	○										
		文化育論	2		○	○										
		教育論	2		○											
		日本史概論	2		○											
	世界史概論	2			○											
	地理学概論	2			○											
	地誌	2			○											

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

2017年度以降入学生

区分	授業科目名	単位数	配当年次				備考				
			1年次	2年次	3年次	4年次					
			前後	前後	前後	前後					
全	自然科学系列	科学的思考論	2		○					4単位以上 修得すること	全
		科学思想史	2	○							
		自然科学概論	2		○						
		数学概論	2	○							
		化学概論	2	○							
		地学概論	2	○							
		生物学概論	2	○							
		生物と進化	2		○						
		環境論	2		○						
心理	2		○								
学	必修	キャリア基礎Ⅰ	②		○				4単位以上 修得すること	学	
		キャリア基礎Ⅱ	②			○					
共	特別科目	キャリア基礎Ⅲ	2			○			4単位以上 修得すること	共	
		ボランティア活動a	2	▲							
		ボランティア活動b	2	▲							
		国際協力研修	2		▲						
		インターンシップ	2			▲					
		他大学開放科目a	2			▲					
		他大学開放科目b	2			▲					
		他大学開放科目c	2			▲					
他大学開放科目d	2			▲							
他大学開放科目e	2			▲							
教	総合政策学部 スキル科目	社会調査入門	2	○					4単位以上 修得すること	教	
		社会調査の技法	2		○						
		データ分析の基礎	2			○					
		統計的分析	2				○				
		データ解析の技法	2				○				
		フィールドワーク論	2			○					
		社会調査実習1	2				○				
		社会調査実習2	2					○			
		公務のための数的推理	2		○						
		公務のための判断推理	2	○							
		公務のための現代文	2		○						
		公務のための政治学	2			○					
		公務のための経済学	2				○				
		公務のための法学	2			○					
		公務のための人文科学	2			○					
		公務のための自然科学	2				○				
		公務のための英文理解	2					○			
		公務のための論文・面接	2								◎
目	おもてなし経営ユニット	ビジネスマナー	2		○				いずれかのユニットから10単位以上修得すること	目	
		サービス経営論	2	○							
		販売士講座	2			○					
		ビジネスコミュニケーション	2			○					
		グローバルコミュニケーション	2				○				
		オペレーション演習	2			集					
		ビジネスマネジメント	2				○				
		マーケティング演習	2					○			
		おもてなし特別講義a	2			○					
		おもてなし特別講義b	2				○				

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

2017年度以降入学生

区分	授業科目名	単位数	配当年次				備考							
			1年次		2年次			3年次		4年次				
			前	後	前	後		前	後	前	後			
英語力養成ユニット	観光英語 I	2	○											
	観光英語 II	2		○										
	コンピュータ英語 I	2	○											
	コンピュータ英語 II	2		○										
	英語表現 I	2			○									
	英語表現 II	2				○								
	ビジネス英語 I	2				○								
	ビジネス英語 II	2					○							
	検定英語 I	2						○						
	検定英語 II	2							○					
	メディアデザインユニット	メディアアーツ a	2	○										
		メディアアーツ b	2		○									
		メディアアーツ c	2			○								
		メディアアーツ d	2				○							
		Webデザイン a	2				○							
		Webデザイン b	2					○						
Webプログラミング a		2		○										
Webプログラミング b		2			○									
インターネット論	2				○									
科学部基礎	必修 政策科学入門	②	○										6単位修得すること	
	必修 総合政策論 I	②		○										
	必修 総合政策論 II	②			○									
専門	必修 基礎演習 a	②			○								12単位修得すること	
	必修 基礎演習 b	②				○								
	必修 専門演習 a	②					○							
	必修 専門演習 b	②						○						
	必修 専門演習 c	②							○					
教育	分野必修 地域政策論	②		○									単位以上修得すること	
	分野必修 地域政策論	②			○									
	分野必修 地域政策論	②				○								
	政策の理論 現代財政学	2				○								
	政策の理論 行政学	2					○							
	政策の理論 都市法学	2						○						
	政策の理論 政策法務	2							○					
	地域と社会 地域産業論	2				○								
	地域と社会 地域開発論	2					○							
	地域と社会 地域福祉論	2						○						
	地域と社会 地域保健論	2							○					
	地域と社会 地域社会学	2								○				
	地域と社会 環境社会学	2									○			
	地域と社会 女性学	2									○			
	まちづくり分野 食とまちづくり	2	○											
まちづくり分野 祭りとまちづくり	2				○									
まちづくり分野 音楽とまちづくり	2					○								
まちづくり分野 鉄道とまちづくり	2						○							
まちづくり分野 コミュニティ論	2		○											
まちづくり分野 地方議会論	2				○									
まちづくり分野 NP O 論	2					○								

22 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

2017年度以降入学生

区分	授業科目名	単位数	配當年次								備考				
			1年次		2年次		3年次		4年次						
			前	後	前	後	前	後	前	後					
専 門 教 育 科 目	地域政策	マイノリティ政策	2	○									選択 した 以 外 の 分 野 お よ び 分 野 共 通 科 目 か ら 1 2 単 位 以 上 修 得 す る こ と		
		環境政策	2			○									
		観光政策	2			○									
		経済政策	2				○								
		都市計画	2			○									
	専 門 教 育	分野必修	からだここ	2			○							い ず れ か の 分 野 を 選 択 し 、 必 修 6 単 位 を 含 ん で 2 4 単 位 以 上 修 得 す る こ と	
			スポーツ政策論	2		○									
		スポーツ基礎	スポーツ指導論	2	○										
			スポーツトレーニング論	2	○										
			スポーツ心理学	2		○									
			スポーツ社会学	2				○							
			スポーツ生理学	2				○							
			健康スポーツ論	2					○						
			健康スポーツ栄養学	2						○					
		人間分野	スポーツ実践	アスリート育成論	2	○									
				スポーツ応用科学	2			○							
				スポーツメディカル論	2				○						
				地域スポーツ論	2			○							
				スポーツ実技	2	○									
				介護予防スポーツ	2			○							
			健康スポーツ実技	2			○								
			こここの健康	2		○									
	科 目	分野必修	国際経済事情	2		○									
			国際関係論	2			○								
			経営管理論	2				○							
		国際理解	日本経済事情	2		○									
			金融融論	2			○								
			国際経営論	2				○							
			国際協力論	2				○							
		経営分野	開発経済学	2			○								
			簿記入門	簿記入門論	2	○									
会計学総論				2		○									
財務諸表論				2			○								
経営戦略論				2			○								
ビジネス経営			マーケティング論	2			○								
			中小企業論	2				○							
			人事管理論	2					○						
			ものづくり経営論	2					○						
流通経営	流通経営論		2			○									
	農業経営論		2				○								
	起業論		2			○									
	特別講義	総合政策特別講義Ⅰ	2	○											
分野共通科目		総合政策特別講義Ⅱ	2	○											
		総合政策特別講義Ⅲ	2		○										
	文化論	出版文化論	2			○									
		日本文化論	2			○									
		東西文化論	2				○								
		地域文化論	2					○							

7. 年次履修計画

1年次の履修計画

はじめに、全学共通の必修科目、総合政策学部の必修科目を履修します。履修登録の際には、すでに入力されており、変更することはできません。次に、全学共通教育科目のスキル科目から「ユニット」を、専門教育科目から「分野」を選び、各1年次の前後学期配当の科目を履修します。履修登録の際には、65ページの履修モデルを参考に、4年間を見通したうえで、入門演習の指導教員の助言も受けながら、各自で入力します。

続いて、履修制限内で、1年次配当の選択科目から学びたい講義を履修します。履修することのできる単位数は半期あたり24単位までですが、後学期以降は直前の学期の成績（GPA）によって多めに履修できる制度があります。詳しくは、「履修制限」のページ（8ページ）を参照してください。

■ 1年前学期

★履修すべき科目

<全学共通教育科目>

① 必修科目は以下の4科目10単位を履修します。

- ・「人間たれ（2単位）」金曜1時限
- ・「入門演習Ⅰ（2単位）」木曜1時限
- ・一般学生は「基礎英語Ⅰ（2単位）」水曜1時限
- ・留学生は「基礎日本語Ⅰ（2単位）」水曜1時限と金曜4時限の2コマで2単位
- ・「コンピュータリテラシー（4単位）」火曜3・4時限

② スキル科目は、5つのユニットから1つを選び、前学期配当科目1科目2単位（英語力養成ユニットは2科目4単位）を履修します。

（注意）メディアデザインユニットは、専門的で高度な内容が含まれますので、シラバスをしっかりと読み、コンピュータ・映像・音響・デザインなどに強い興味を持つ場合のみ選択してください。

③ 地域科目から2科目4単位以上をできるだけ1年のうちに履修します。前学期には1～2科目（2～4単位）を履修することが望ましいでしょう。

④ 一般教養科目は3つの系列からそれぞれ2科目4単位以上（3系列の合計で12単位以上）を2年後学期までをめどに履修します。前学期には1～2科目（2～4）単位を履修することが望ましいでしょう。

<総合政策学部専門教育科目>

① 必修科目である「政策科学入門（2単位）」水曜3時限を履修します。

② 3つの分野から自分が学ぶ分野を選択し、1年前学期配当の選択科目（2～6単位）を履修します。

- ・地域・まちづくり分野…「マイノリティ政策」
- ・スポーツ・人間分野…「スポーツトレーニング論」「スポーツ実技」「スポーツ指導論」「アスリート育成論」
- ・国際・経営分野…「簿記入門」

★前学期履修計画の予備知識

- ① 「入門演習Ⅰ」「基礎英語Ⅰ」「基礎日本語Ⅰ」「コンピュータリテラシー」はクラスを指定します。
- ② 留学生の「基礎日本語Ⅰ」は、週2コマ（水曜1時限と金曜4時限）で2単位です。
- ③ 「コンピュータリテラシー」は2コマ連続の授業で、4単位です。
- ④ 必修科目を12単位、選択科目を12単位まで履修できます。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

★履修するときの手順

①巻末の時間割シートに、以下の必修科目を記入してください。

<全学共通教育科目>①に示した4科目10単位

<総合政策学部専門教育科目>①に示した1科目2単位

②留学生は、必修科目の「日本語基礎Ⅰ」で週2コマ両方を受けることが必要です。①で記入した水曜1時限の1コマのほかにもう1コマ、金曜4時限に「日本語基礎Ⅰ」を記入してください。

③スキル科目の5つのユニットから1つを選択し、1年前学期担当科目を履修します。英語力養成ユニットは2科目が、それ以外のユニットは1科目が配置されています。

*1年前学期の段階で選択したユニットは、後に変更することは可能ですが、1年前学期担当科目を2年次以降に履修するなどの影響が出てきます。この時点でしっかり自分の進路について考え、ユニットを選択しましょう。

④3つの分野から1つを決定し、以下の科目を履修します。決定した分野の科目を、シートの該当する曜日時間に記入してください。

・地域・まちづくり分野…火曜1時限に「マイノリティ政策」を履修します。

・スポーツ・人間分野…月曜1時限に「スポーツトレーニング論」、2時限に「スポーツ実技」、3時限に「スポーツ指導論」を履修します。

・国際・経営分野…火曜1時限に「簿記入門」を履修します。

*ただし、上記③までに記入した科目と重なっている場合は、2年次以降に履修することになりますので記入は不要です。

*1年前学期の段階で選択した分野は、後に変更することは可能ですが、1年前学期担当科目を2年次以降に履修するなどの影響が出てきます。この時点でしっかり自分の進路について考え、分野を選択しましょう。

⑤1年前学期には24単位までしか履修できません。④までで履修が決まった単位は何単位になりましたか。24単位から④までで履修が決まった単位数を引くと、残りの履修できる科目数・単位が計算できます。シラバスをよく読み、地域科目、一般教養科目から1年前学期に担当されている科目を選び、該当する曜日時間に記入してください。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

● 1年前学期の履修例

履修モデル①「地域・まちづくり分野」「公務員養成・社会調査士養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月			(系社)社会学	
火	(地ま)マイノリティ政策	(系社)政治学	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー
水	基礎英語I	(社工)社会調査入門	政策科学入門	(公工)公務のための判断推理
木	入門演習I			
金	「人間たれ」		(地域)地域防災	

履修モデル②「スポーツ・人間分野」「公務員養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	(ス人)スポーツレーニング論	(ス人)スポーツ実技	(ス人)スポーツ指導論	(ス人)アスリート育成論
火		(系社)政治学	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー
水	基礎英語I		政策科学入門	(公工)公務のための判断推理
木	入門演習I			
金	「人間たれ」			

履修モデル③「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				(お工)サービス経営論
火	(国経)簿記入門		コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー
水	基礎英語I	(系社)経営学	政策科学入門	(系人)哲学
木	入門演習I			
金	「人間たれ」	(地域)四日市学		

履修モデル④「スポーツ・人間分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	(ス人)スポーツレーニング論	(ス人)スポーツ実技	(ス人)スポーツ指導論	(お工)サービス経営論
火			コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー
水	基礎英語I	(系社)経営学	政策科学入門	(系人)哲学
木	入門演習I			
金	「人間たれ」	(地域)四日市学		

履修モデル⑤「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				(お工)サービス経営論
火	(国経)簿記入門	(系自)科学思想史	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー
水	基礎日本語I	(系社)経営学	政策科学入門	(系人)哲学
木	入門演習I			
金	「人間たれ」	(地域)四日市学		基礎日本語I

履修モデル⑥「国際・経営分野」「英語力養成ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月			(英工)観光英語I	
火	(国経)簿記入門	(系自)科学思想史	コンピュータリテラシー	コンピュータリテラシー
水	基礎日本語I	(英工)コンピュータ英語I	政策科学入門	(系人)哲学
木	入門演習I			
金	「人間たれ」	(地域)四日市学	(系人)日本史概論	基礎日本語I

< 1年前学期に自由に選択を推奨する科目 >

* 地域科目、一般教養科目のうち1年前学期に配当されている科目

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	(系自)地学概論	(系社)社会福祉概論	(系社)社会学	(系人)文学
火		(系社)政治学 (系社)メディアリテラシー (系人)文章表現論(留学生以外) (系自)科学思想史		
水		(系社)経営学 (系人)文章表現論 (系自)化学概論		(系社)民法入門 (系人)哲学
木				(系自)生物学概論
金		(地域)四日市学 (系自)数学概論	(地域)地域防災 (地域)市民教育 (地域)地域社会と環境 (系社)法学 (系人)日本史概論	

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

■ 1年後学期

★履修すべき科目

<全学共通教育科目>

①必修科目は以下の4科目8単位を履修します。

- ・「キャリア基礎Ⅰ（2単位）」月曜1時限
- ・「入門演習Ⅱ（2単位）」木曜1時限
- ・一般学生は「基礎英語Ⅱ（2単位）」水曜1時限
- ・留学生は「基礎日本語Ⅱ（2単位）」水曜1時限と金曜4時限の2コマで2単位
- ・「情報倫理（2単位）」月曜2時限

②スキル科目は、前学期に選択したユニットの後学期配当科目を履修します。

（注意）この段階でユニットを変更する場合は、3年までには5科目10単位の修得を目指し、計画的に履修しましょう。

③地域科目から2科目4単位以上をできるだけ1年のうちに履修します。

④一般教養科目は3つの系列からそれぞれ2科目4単位以上（3系列の合計で12単位以上）を2年後学期までをめどに履修します。

<総合政策学部専門教育科目>

①総合政策学部学生全員が、必修科目である「総合政策論Ⅰ（2単位）」火曜1時限を履修します。

②前学期に決定した分野の必修科目（2単位）水曜3時限を履修します。以下のいずれかを履修することになります。

- ・地域・まちづくり分野…「地方自治論」
- ・スポーツ・人間分野…「スポーツ政策論」
- ・国際・経営分野…「国際経済事情」

*ここで履修する必修科目は、後に分野を変更した場合、変更後の分野の必修科目を2年次以降に履修し直さなければなりません。慎重に選びましょう。

③前学期に決定した分野にある1年後学期配当の選択科目を履修します。

- ・地域・まちづくり分野…「コミュニティ論」
- ・スポーツ・人間分野…「スポーツ心理学」、「こころの健康」
- ・国際・経営分野…「会計学総論」、「国際経済事情」、「経営戦略論」

★後学期履修計画の予備知識

①「入門演習Ⅱ」「基礎英語Ⅱ」「基礎日本語Ⅱ」「情報倫理」はクラスを指定します。

②留学生の「基礎日本語Ⅱ」は、週2コマ（水曜1時限と金曜4時限）で2単位です。

③必修科目を12単位、選択科目を12単位まで履修できます。ただし、前学期の学業成績GPAが3.5以上だった学生は28単位まで、3.2以上だった学生は26単位まで履修できます。

★履修するときの手順

①巻末の時間割シートに以下の必修科目を記入してください。

<全学共通教育科目>①に示した4科目8単位

<総合政策学部専門教育科目>①②に示した2科目4単位

水曜3時限は、分野によって異なりますので、自分が決定した分野の必修科目（上記、総合政策学部専門教育科目の説明の②）を記入してください。

②留学生は、必修科目の「日本語基礎Ⅱ」で週2コマ両方を受けることが必要です。水曜1時限と金曜4時限目に「日本語基礎Ⅱ」を記入してください。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

③3つの分野から1つを決定し、以下の科目を履修します。決定した分野の科目を、シートの該当する曜日時間に記入してください。

- ・地域・まちづくり分野…木曜4時限に「コミュニティ論」を履修します。
- ・スポーツ・人間分野…水曜2時限に「スポーツ心理学」、木曜2時限に「こころの健康」を履修します。
- ・国際・経営分野…火曜3時限に「会計学総論」、木曜3時限に「日本経済事情」、木曜4時限に「経営戦略論」を履修します。

*ただし、上記②までに記入した科目と重なっている場合は、2年次以降に履修することになりますので記入は不要です。

④前学期に決定したユニットの1年後学期配当科目を履修します。シートに1年後学期配当科目を該当する曜日時間に記入してください。ただし、上記②までに記入した科目と重なっている場合は、2年次以降に履修することになりますので記入は不要です。

（注意）この段階でユニットを変更する場合は、3年までには5科目10単位の修得を目指し、計画的に履修しましょう。

⑤履修制限があるため、1年前学期には24単位までしか履修できません。ただし、前学期の学業成績GPAが3.5以上だった学生は28単位まで、3.0以上3.5未満だった学生は26単位まで履修できます。前学期の学修ペースを振り返り、履修科目数を決定してください。必ずしも履修制限まで履修する必要はありません。

④までで履修が決まった単位は何単位になりましたか。履修可能な単位数から④までで履修が決まった単位数を引くと、残りの履修できる科目数・単位が計算できます。シラバスをよく読み、地域科目、一般教養科目・情報科目から1年後学期に配当されている科目を選び、該当する曜日時間に記入してください。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

● 1年後学期の履修例

履修モデル①「地域・まちづくり分野」「公務員養成・社会調査士養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎I	情報倫理		
火	総合政策論I			(系社)経済学
水	基礎英語II	(社ユ)社会調査の技法	(地ま)地方自治論	(公ユ)公務のための数的推理
木	入門演習II			
金	(地ま)コミュニティ論	(地域)人権論	(公ユ)公務のための現代文	

履修モデル②「スポーツ・人間分野」「公務員養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎I	情報倫理		(系人)文化論
火	総合政策論I			(系社)経済学
水	基礎英語II	(ス人)スポーツ心理学	(ス人)スポーツ政策論	(公ユ)公務のための数的推理
木	入門演習II	(系自)心理学		
金			(公ユ)公務のための現代文	

履修モデル③「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎I	情報倫理		
火	総合政策論I		(国経)会計学総論	(系社)経済学
水	基礎英語II		(国経)国際経済事情	(系人)倫理学
木	入門演習II	(系自)心理学	(国経)日本経済事情	
金		(おユ)ビジネスマナー		

履修モデル④「スポーツ・人間分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎I	情報倫理		(系自)生物と進化
火	総合政策論I		(系社)ジェンダー論	
水	基礎英語II		(ス人)スポーツ政策論	(系人)倫理学
木	入門演習II	(系人)心理学		
金	(地ま)コミュニティ論	(おユ)ビジネスマナー		

履修モデル⑤「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎I	情報倫理		
火	総合政策論I		(国経)会計学総論	(系社)経済学
水	基礎日本語II		(国経)国際経済事情	
木	入門演習II	(系自)心理学	(国経)日本経済事情	(国経)経営戦略論
金		(おユ)ビジネスマナー		基礎日本語II

履修モデル⑥「国際・経営分野」「英語力養成ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎I	情報倫理	(英ユ)観光英語II	
火	総合政策論I		(国経)会計学総論	
水	基礎日本語II	(英ユ)コンピュータ英語II	(国経)国際経済事情	
木	入門演習II	(系自)心理学		(国経)経営戦略論
金		(地域)人権論		基礎日本語II

< 1年後学期に自由に選択を推奨する科目 >

* 地域科目、一般教養科目・情報科目のうち1年後学期に配当されている科目

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				(系人)文化論 (系人)世界史概論 (系自)生物と進化
火		(系社)日本国憲法 (系人)地理学概論 (系自)環境論	(系社)ジェンダー論 (系人)地誌 (系自)自然科学概論	(系社)経済学 (系自)科学的思考論
水				(情報)アプリケーション演習I (系人)倫理学
木		(系人)文章表現論 (系自)心理学		
金		(地域)人権論	(地域)地域社会の歴史	

■ 2年前学期

★履修すべき科目

1年前学期に不可になった必修科目（全学共通教育科目・専門教育科目）を履修します。

<全学共通教育科目>

①必修科目は以下の1科目2単位を履修します。

・「キャリア基礎Ⅱ（2単位）」月曜1時限

②2年次以降には、語学科目の選択必修科目を履修します。語学科目は、選択必修として、英語コミュニケーションⅠ・Ⅱ、中国語Ⅰ・Ⅱ、ポルトガル語Ⅰ・Ⅱ、海外語学研修a・bから2科目4単位を選択して履修しなければなりません。ただし、留学生は日本語中級Ⅰ・Ⅱ、日本語上級Ⅰ・Ⅱを履修します。2年前学期には、以下の科目から1科目2単位を履修します。

・「英語コミュニケーションⅠ（2単位）」月曜2時限または4時限

・「中国語Ⅰ（2単位）」月曜2時限または4時限

・「ポルトガル語Ⅰ（2単位）」月曜4時限

・留学生は「日本語中級Ⅰ（2単位）」金曜3時限

③スキル科目は、1年次に選択したユニットの2年前学期担当科目を履修します。スキル科目は、5つのユニットのうち、いずれかのユニットから5科目10単位以上修得することが卒業要件です。

（注意）この段階でユニットを変更する場合は、1年前学期担当の科目は必ず履修し、3年までには5科目10単位の修得を目指しましょう。

④地域科目から2科目4単位以上が1年生のうちに修得できていない場合は、2年生のうちに履修することが望ましいでしょう。

⑤一般教養科目の3つの系列から、それぞれ2科目4単位以上（3系列の合計で12単位以上）を2年後学期までをめどに履修します。

⑥1年前学期から2年前学期の履修、上記⑤までで、全学共通教育科目の合計は何単位になりますか。卒業のために必要となる全学共通教育科目は50単位以上です。以下の専門教育科目とのバランスを考え、3年後学期までには50単位をクリアできるよう、計画的に履修しましょう。

<総合政策学部専門教育科目>

①必修科目である「総合政策論Ⅱ（2単位）」月曜3時限を履修します。

②必修科目である「基礎演習a（2単位）」木曜2時限を履修します。

*基礎演習aでは、1年後学期に決定したゼミに所属します。

③選択した分野の必修科目（火曜2時限）を履修します。

・地域・まちづくり分野…「地域経済論」

・スポーツ・人間分野…「からだところ」

・国際・経営分野…「国際関係論」

④選択した分野の2年前学期担当科目を履修します。スキル科目や分野で重なる科目は、3年次以降に履修できます。

（注意）卒業のためには、選択した分野の必修を3科目6単位、それ以外にその分野から9科目18単位以上を修得することが必要になります。この段階で分野の変更を希望する場合は、1年で修得していない科目を履修することも含め、慎重に履修計画を再構築する必要があります。指導教員としっかり相談し、履修登録をしましょう。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

★2年前学期履修計画の予備知識

- ①「英語コミュニケーションⅠ」は、4クラスから自由に選択して履修登録できますが、受講希望者が多い場合は抽選などで受講できないことがあります。その場合は、履修修正期間に別の科目に変更します。
- ②前学期の成績によって履修できる上限の単位数が変わります。上限は、GPAが3.0未満の場合は24単位、3.0以上3.5未満の場合は26単位、3.5以上の場合は28単位です。

★履修するときの手順

巻末の時間割シートに、以下の手順で履修する科目を記入してください。

- ①1年前学期に不可となった必修科目を記入してください。
- ②以下の必修科目・選択必修科目を記入してください。
<全学共通教育科目>①に示した必修の「キャリア基礎Ⅱ」と②に示した語学科目の選択必修科目
<総合政策学部専門教育科目>①②に示した必修の2科目4単位
- ③スキル科目の5つのユニットから1つを選択し、2年前学期配当科目を履修します。
*1年の段階で選択したユニットは、この段階で変更することは、できるだけ避けてください。1年配当科目を2年次以降に履修するなど負担がとて重くなります。ユニットを変更する場合は、指導教員と相談しましょう。
- ④選択した分野の科目を履修します。決定した分野の科目を、シートの該当する曜日時間に記入してください。
*ただし、上記③までに記入した科目と重なっている場合は、3年次以降に履修することになりますので記入は不要です。
*1年の段階で選択した分野は、この段階で変更することは、できるだけ避けてください。1年配当科目を2年次以降に履修するなど負担がとて重くなります。分野を変更する場合は、指導教員と相談しましょう。
- ⑤履修制限があるため、2年前学期に履修できる科目数には上限があります。④までで履修が決まった単位は何単位になりましたか。上限の単位数から④までで履修が決まった単位数を引くと、残りの履修できる科目数・単位が計算できます。シラバスをよく読み、地域科目、一般教養科目、選択した以外の分野のうち前学期に配当されている科目を選び、該当する曜日時間に記入してください。

★卒業要件を満たすために知っておきたいこと

<全学共通教育科目>

56ページの「卒業必要単位数」の表に示されているように、区分ごとに卒業必要単位数が決められており、必ずそれ以上の単位を修得しなければなりません。これらの単位数を合計すると40単位ですが、卒業にはあと10単位の全学共通教育科目を自由に履修し、合計で50単位以上を修得する必要があります。

<専門教育科目>

56ページの「卒業必要単位数」の表に示されているように、区分ごとに卒業必要単位数が決められています。学部基礎科目と演習科目で9科目18単位、選択した分野の必修3科目6単位、選択した分野の選択科目9科目18単位以上、選択した以外の分野および分野共通科目から6科目12単位以上を履修しなければなりません。これらを合計すると54単位ですが、卒業にはあと8単位の専門教育科目を自由に履修し、合計で62単位以上を修得する必要があります。

<卒業に必要な単位数は130単位以上>

上記の通り、全学共通教育科目で50単位以上、専門教育科目で62単位以上の修得が必要ですが、卒業に必要な単位数は130単位以上です。つまり、 $50+62=112$ 単位とは別に、全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上を修得することが必要です。計画的に卒業に必要な科目を履修しましょう。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

● 2年前学期の履修例

履修モデル①「地域・まちづくり分野」「公務員養成・社会調査士養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ	総合政策論Ⅱ	(系人)文学
火		(地ま)地域経済論		(地ま)祭りともちづくり
水		(公ユ)公務のための法学	(社ユ)データ分析の基礎	(社ユ)フィールドワーク論
木		基礎演習a		(公ユ)公務のための人文科学
金				(地ま)地方議会論

履修モデル②「スポーツ・人間分野」「公務員養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎Ⅱ	(ス人)健康スポーツ実技	総合政策論Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ
火		(ス人)からだところ		(地ま)祭りともちづくり
水	(ス人)地域スポーツ論	(公ユ)公務のための法学	(ス人)スポーツ生理学	(公ユ)公務のための人文科学
木		基礎演習a		
金			(地域)地域防災	

履修モデル③「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎Ⅱ	英語コミュニケーションⅠ	総合政策論Ⅱ	(国経)開発経済学
火		(国経)国際関係論	(国経)財務諸表論	(おユ)ビジネスコミュニケーション
水				(おユ)おもてなし特別講義a
木	(国経)起業論	基礎演習a		
金			(地域)地域防災	
集中	(地ま)観光政策			

履修モデル④「スポーツ・人間分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎Ⅱ	(ス人)介護予防スポーツ	総合政策論Ⅱ	ポルトガル語Ⅰ
火		(ス人)からだところ		(地ま)祭りともちづくり
水	(ス人)地域スポーツ論	(ス人)スポーツ応用科学		(おユ)おもてなし特別講義a
木		基礎演習a		(系自)生物学概論
金			(地域)地域防災	

履修モデル⑤「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎Ⅱ		総合政策論Ⅱ	
火		(国経)国際関係論	(国経)財務諸表論	(おユ)ビジネスコミュニケーション
水				(おユ)おもてなし特別講義a
木	(国経)起業論	基礎演習a	(分共)日本文化論	(地ま)地域福祉論
金			日本語中級Ⅰ	

履修モデル⑥「国際・経営分野」「英語力養成ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	キャリア基礎Ⅱ		総合政策論Ⅱ	(国経)金融論
火	(国経)流通論	(国経)国際関係論	(国経)財務諸表論	
水		(系社)経営学	(英ユ)ビジネス英語Ⅰ	
木	(英ユ)英語表現Ⅰ	基礎演習a		
金			日本語中級Ⅰ	(国経)マーケティング論

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

■ 2年後学期

★履修すべき科目

1年後学期に不可になった必修科目（全学共通教育科目・専門教育科目）を再履修します。

<全学共通教育科目>

- ①「キャリア基礎Ⅲ（2単位）」月曜3時限を履修します。この科目は選択科目ですが、就職活動に必要な実践的な内容になっています。必ず履修するようにしてください。
- ②後学期配当の以下の語学科目の選択必修科目のいずれか1科目2単位を履修します。
 - ・「英語コミュニケーションⅡ（2単位）」月曜2時限または4時限
 - ・「中国語Ⅱ（2単位）」月曜2時限または4時限
 - ・「ポルトガル語Ⅱ（2単位）」月曜4時限
 - ・留学生は「日本語中級Ⅱ（2単位）」金曜3時限
- ③スキル科目は、選択したユニットの2年後学期配当科目を履修します。
- ④地域科目から2科目4単位以上が1年のうちに修得できていない場合は、2年の後学期のうちには履修することが望ましいでしょう。
- ⑤一般教養科目の3つの系列から、それぞれ2科目4単位以上（3系列の合計で12単位以上）を2年後学期までをめどに履修します。

（注意）1年前学期から2年後学期の履修の上記⑤までで修得または履修する全学共通教育科目の合計は何単位になりますか。卒業のために必要となる全学共通教育科目は50単位以上です。2年後学期までには50単位をクリアできるよう、計画的な履修をしなければなりません。指導教員による履修指導を受け、全学共通科目と専門教育科目をバランスよく履修しましょう。

<総合政策学部専門教育科目>

- ①必修科目である「基礎演習b（2単位）」木曜2時限を履修します。
 - * 2年後学期の「基礎演習b」は、6月に予定している説明会で再びゼミを選択しなおし、3年以降の「専門演習a～d」までの2年半は同じ担当教員のゼミを履修することになります。
- ②選択した分野の必修科目（金曜1時限）を履修します。
 - ・地域・まちづくり分野…「政策過程論」
 - ・スポーツ・人間分野…「こころの科学」
 - ・国際・経営分野…「経営管理論」
- ③選択した分野の2年後学期配当科目を履修します。この段階で全学共通科目や上記②までで履修を決めた専門教育科目と重なるケースが出てきます。2年後学期配当科目は、3年次以降にも履修できますが、分野ごとに早めに履修した方が良い科目があります。地域・まちづくり分野では「政策の理論」の区分の科目を、スポーツ・人間分野では「スポーツ基礎」の区分の科目を優先的に履修しましょう。

（注意）卒業のためには、選択した分野の必修を3科目6単位、それ以外にその分野から9科目18単位以上を修得することが必要になります。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

★履修するときの手順

巻末の時間割シートに、以下の手順で履修する科目を記入してください。

①1年後学期に不可となった必修科目を記入してください。

②以下の必修科目・選択必修科目を記入してください。

<全学共通教育科目>①に示した「キャリア基礎Ⅲ」と②に示した語学科目の選択必修科目

<総合政策学部専門教育科目>①②に示した必修の2科目4単位

③スキル科目の5つのユニットから1つを選択し、2年前学期配当科目を履修します。

*この段階でユニットを変更することは、避けてください。どうしてもユニット変更を希望する場合は、指導教員と相談してください。

④選択した分野の科目を履修します。決定した分野の科目を、シートの該当する曜日時間に記入してください。

*ただし、上記③までに記入した科目と重なっている場合は、3年次以降に履修することになりますので記入は不要です。

*1年の段階で選択した分野は、この段階で変更することは、避けてください。どうしても分野変更を希望する場合は、指導教員と相談しましょう。

⑤履修制限があるため、2年前学期に履修できる科目数には上限があります。④までで履修が決まった単位は何単位になりましたか。上限の単位数から④までで履修が決まった単位数を引くと、残りの履修できる科目数・単位が計算できます。シラバスをよく読み、地域科目、一般教養科目、選択した以外の分野のうち前学期に配当されている科目を選び、該当する曜日時間に記入してください。

●2年後学期の履修例

履修モデル①「地域・まちづくり分野」「公務員養成・社会調査士養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月		英語コミュニケーションⅡ	キャリア基礎Ⅲ	(系自)生物と進化
火		(公ユ)公務のための経済学		
水	(公ユ)公務のための政治学		(社ユ)統計的分析	
木	(地ま)音楽とまちづくり	基礎演習b	(地ま)社会保障論	
金	(地ま)政策過程論	(社ユ)データ解析の技法		(地ま)行政法

履修モデル②「スポーツ・人間分野」「公務員養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月		(ス人)健康スポーツ論	キャリア基礎Ⅲ	英語コミュニケーションⅡ
火		(公ユ)公務のための経済学	(地ま)鉄道とまちづくり	
水	(公ユ)公務のための政治学	(ス人)スポーツ栄養学	(地ま)地方自治論	
木		基礎演習b		
金	(ス人)こころの科学	(地域)人権論		(地ま)行政法

履修モデル③「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	(おユ)グローバルコミュニケーション	英語コミュニケーションⅡ	キャリア基礎Ⅲ	(国経)国際協力論
火	(分共)西洋文化論		(地ま)鉄道とまちづくり	
水	(国経)国際経営論			
木	(地ま)音楽とまちづくり	基礎演習b		(おユ)おもてなし特別講義b
金	(国経)経営管理論	(国経)農業経営論		

履修モデル④「スポーツ・人間分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	(おユ)グローバルコミュニケーション	(ス人)健康スポーツ論	キャリア基礎Ⅲ	ポルトガル語Ⅱ
火			(地ま)鉄道とまちづくり	(系社)経済学
水	(分共)西洋文化論	(ス人)スポーツ心理学		
木	(地ま)音楽とまちづくり	基礎演習b		(おユ)おもてなし特別講義b
金	(ス人)こころの科学			

履修モデル⑤「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	(おユ)グローバルコミュニケーション		キャリア基礎Ⅲ	(国経)国際協力論
火			(地ま)鉄道とまちづくり	
水	(国経)国際経営論			
木		基礎演習b		(おユ)おもてなし特別講義b
金	(国経)経営管理論	(国経)農業経営論	日本語中級Ⅱ	

履修モデル⑥「国際・経営分野」「英語力養成ユニット」を選んだ留学生の履修例

	1時限	2時限	3時限	4時限
月			キャリア基礎Ⅲ	(国経)国際協力論
火				(系社)経済学
水	(国経)国際経営論		(英ユ)ビジネス英語Ⅱ	(英ユ)英語表現Ⅱ
木		基礎演習b	(国経)日本経済事情	
金	(国経)経営管理論	(国経)農業経営論	日本語中級Ⅱ	

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

■ 3年前学期

★履修すべき科目

1・2年前学期に不可になった必修科目（全学共通教育科目・専門教育科目）を履修します。

<全学共通教育科目>

- ①卒業要件をしっかりと理解し、区分ごとに必要な単位がそろうように履修しましょう。
- ②全学共通教育科目の合計単位数が50単位になるように、計画的に履修しましょう。

<総合政策学部専門教育科目>

- ①必修科目である「専門演習a（2単位）」木曜3時限を履修します。
* 専門演習aは、2年後学期のゼミに継続して所属します。
- ②選択した分野の前学期配当科目を履修します。卒業要件を満たすためには、選択した分野の必修科目6単位を修得し、さらに選択した分野から18単位を修得しなければなりません。3年後学期以降の履修も視野に入れながら計画的な履修をしましょう。
- ③卒業要件を満たすためには、選択した分野以外および分野共通科目から12単位以上を履修しなければなりません。3年後学期以降の履修も視野に入れながら、幅広い分野から総合的に学修できるよう、選択した分野以外および分野共通科目から科目を選択し、計画的な履修を始めましょう。

■ 3年後学期

★履修すべき科目

1・2年後学期に不可になった必修科目（全学共通教育科目・専門教育科目）を履修します。

<全学共通教育科目>

区分ごとに必要な単位を修得し、単位数が合計で50単位になるように履修しましょう。

<総合政策学部専門教育科目>

- ①必修科目である「専門演習b（2単位）」木曜3時限を履修します。
- ②選択した分野のなかで、必修科目6単位の他に選択科目18単位を修得し終わるよう履修しましょう。
- ③選択した分野以外および分野共通科目から12単位以上を修得し終わるよう履修しましょう。
- ④専門教育科目で合計62単位以上の修得が必要です。そのうち、4年配当の専門演習c・dの4単位分を差し引いた58単位を修得し終わるよう履修しましょう。具体的には、学部基礎の必修6単位、演習科目は3年後学期までに8単位、分野必修6単位、選択した分野で18単位以上、選択した分野以外および分野共通科目から12単位以上を目標にして履修しましょう。

<卒業要件を満たすために>

全学共通教育科目で50単位以上、専門教育科目で62単位以上の修得が必要で、さらに卒業に必要な単位として合計で130単位以上を修得しなければなりません。つまり、 $50+62=112$ 単位とは別に、全学共通教育科目・専門教育科目から自由に18単位以上を修得することが必要です。4年生になると就職活動や卒業研究などで忙しくなります。できるだけ早い段階で、4年配当の専門演習c・dの4単位分を差し引いた126単位を修得し終わるよう履修しましょう。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

● 3・4年生の履修例

履修モデル①「地域・まちづくり分野」「公務員養成・社会調査士養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

3年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月		(ス人)介護予防スポーツ	(公ユ)公務のための自然科学	(地ま)地域社会学
火		(国経)国際関係論	(地ま)環境政策	(社ユ)社会調査実習1
水				(系人)哲学
木			専門演習a	(地ま)地域福祉論
金		(地ま)食とまちづくり		(ス人)こころと文学

3年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月			(公ユ)公務のための英文理解	(地ま)政策法務
火	(分共)西洋文化論	(系社)日本国憲法	(地ま)鉄道とまちづくり	(社ユ)社会調査実習2
水				(分共)東洋文化論
木		(系自)心理学	専門演習b	
金		(地ま)交通政策		

4年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				
火			(公ユ)公務のための論文・面接	
水				
木				専門演習c
金	(公ユ)公務のための論文・面接			

4年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				
火				
水				
木				専門演習d
金				

履修モデル②「スポーツ・人間分野」「公務員養成ユニット」を選んだ一般学生の履修例

3年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月		(ス人)介護予防スポーツ	(公ユ)公務のための自然科学	(地ま)地域社会学
火	(地ま)マイノリティ政策		(地ま)環境政策	
水		(ス人)スポーツ応用科学		(系人)哲学
木			専門演習a	
金				(ス人)こころと文学

3年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月	(ス人)スポーツメディカル論		(公ユ)公務のための英文理解	(系自)生物と進化
火				
水	(ス人)スポーツ社会学			
木			専門演習b	
金	(地ま)政策過程論	(地ま)交通政策		

4年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				
火			(公ユ)公務のための論文・面接	
水				
木				専門演習c
金	(公ユ)公務のための論文・面接			

4年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				
火				
水				
木				専門演習d
金				

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

履修モデル③「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

3年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月			(おユ)ビジネスマネジメント	(国経)金融論
火			(分共)地域文化論	
水	(国経)人事管理論			
木	(おユ)販売士講座		専門演習a	(地ま)地域福祉論
金		(地ま)食とまちづくり	(系人)日本史概論	(ス人)こころと文学
集中	(おユ)オペレーション演習			

3年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				(おユ)マーケティング演習
火				
水				アプリケーション演習I
木			専門演習b	
金	(国経)中小企業論	(国経)ものづくり経営		

4年生前学期 専門演習c(木曜4時限) 4年生後学期 専門演習d(木曜4時限)

履修モデル④「スポーツ・人間分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ一般学生の履修例

3年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月		(ス人)健康スポーツ実技	(おユ)ビジネスマネジメント	(ス人)アスリート育成論
火	(分共)出版文化論			
水				
木	(おユ)販売士講座		専門演習a	
金			(系人)日本史概論	(ス人)こころと文学
集中	(おユ)オペレーション演習			

3年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月				(おユ)マーケティング演習
火				
水				(分共)東洋文化論
木		(ス人)こころの健康	専門演習b	
金				

4年生前学期 専門演習c(木曜4時限) 4年生後学期 専門演習d(木曜4時限)

履修モデル⑤「国際・経営分野」「おもてなし経営ユニット」を選んだ留学生の履修例

3年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月			(おユ)ビジネスマネジメント	(国経)金融論
火	(国経)流通論		(分共)地域文化論	
水	(国経)人事管理論	日本語上級I		(分共)東洋文化論
木	(おユ)販売士講座		専門演習a	
金				(国経)マーケティング論

3年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月		(地ま)地域開発論		(おユ)マーケティング演習
火	(分共)西洋文化論			
水		日本語上級II		(系人)倫理学
木			専門演習b	
金	(地ま)環境社会学	(地ま)交通政策	(地域)地域社会の歴史	

4年生前学期 専門演習c(木曜4時限) 4年生後学期 専門演習d(木曜4時限)

履修モデル⑥「国際・経営分野」「英語力養成ユニット」を選んだ留学生の履修例

3年生前学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月			(系社)社会学	(英ユ)検定英語I
火			(分共)地域文化論	
水	(国経)人事管理論	日本語上級I		
木	(国経)起業論		専門演習a	(地ま)地域福祉論
金				

3年生後学期

	1時限	2時限	3時限	4時限
月		(地ま)地域開発論		(英ユ)検定英語II
火		(系自)環境論	(地ま)鉄道とまちづくり	
水		日本語上級II		(分共)東洋文化論
木	(地ま)音楽とまちづくり		専門演習b	
金	(国経)中小企業論			

4年生前学期 専門演習c(木曜4時限) 4年生後学期 専門演習d(木曜4時限)

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

■ 4年前学期

★履修すべき科目

- ・ 3年次配当以下の必修科目と専門演習 c（4年次前期ゼミ）を履修します。

★履修上の注意

- ・ 「卒業要件」をよく読み、卒業に必要な単位がそろうように履修しましょう。
- ・ 合計単位数だけでなく、各区分の必要単位数を満たしているか必ず確認してください。
- ・ 卒業要件よりも多めに余裕をもって履修登録するようにしましょう。

■ 4年後学期

★履修すべき科目

3年次配当以下の必修科目と専門演習 d（4年次後期ゼミ）を履修します。

★履修上の注意

- ・ 「卒業要件」をよく読み、卒業に必要な単位がそろうように履修しましょう。
- ・ 合計単位数だけでなく、各区分の必要単位数を満たしているか必ず確認してください。
- ・ 卒業要件よりも多めに余裕をもって履修登録するようにしましょう。
- ・ 専門演習 d の単位取得には「卒業研究」の提出が必要です。

22 カリキュラム専門教育科目（2017年度以降入学生）

8. 「卒業研究」

専門演習 d（4年次後期ゼミ）の単位を取得するには、卒業研究の提出が必要です。

- ・卒業研究は所定の様式に従い、提出期間内に提出しなければなりません。
- ・一枚目には必ず所定の表紙をつけ、上部2箇所をホチキス止めしてください。表紙は12月以降に教学課で配布します。
- ・表紙には「年度」（2021）「タイトル」「担当教員」「学籍番号」「氏名」をペンまたはボールペンで記入してください。下欄の卒業研究受領書（教学課控）および（本人控）にもすべて記入してください。
- ・論文形式の場合、1ページあたりの字数は1,200～1,600字程度とします。卒業研究の形式や内容はゼミごとに異なるため、自分の指導教員に確認してください。
- ・提出期限の直前は窓口が込み合います。提出期限後は受け付けられませんので、余裕をもって準備してください。
- ・卒業研究提出期間：2021年12月13日（月）～16日（木）16：30 / 提出先：教学課

環境情報学部 カリキュラム

2017年度以降入学生対象

専門教育科目

23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

1. カリキュラムポリシーとディプロマポリシー

環境情報学部

<カリキュラム・ポリシー>

環境情報学部のカリキュラムは、メディア情報分野と自然環境分野から成り立っています。学生は1年次から2年次にかけて共通教育科目を履修します。それと並行して、1年次に2つの分野に関する概論を体験的に学修します。2年次からは各分野に分かれて、専門的な学修を開始します。

メディア情報分野

高度情報化社会の進展で、各種メディアは社会全体へ影響を及ぼすようになりました。専門分野の知識・能力を習得するため、大きく以下の分野を設定しています。

- 全ての技術の基礎となる情報通信技術の分野
- 音響、映像、照明、電子メディアの技術の分野
- 何をどのように伝えるのかを考える上で他者理解、自己理解を探究する文化論

2年次より始まる演習は、2年次の基礎演習 a、b、3年次の専門演習 a、b、4年次の専門演習 c、d、と進み、最終学年では、卒業制作または卒業論文を課します。

自然環境分野

環境問題について、多角的に幅広い科目で学修することができる構成となっています。地域の環境を科学的な手法で把握することを基礎に、人間を取り巻く環境について考察します。大きく以下の科目分野からなります。

- 環境に関する基礎的な知識を習得する基礎科目の分野
- 環境化学分析や測定などの実験科目の分野
- 土壌、水、生物といったより対象に近づいた分野

2年次より始まる演習は、2年次の基礎演習 a、b、3年次の専門演習 a、b、4年次の専門演習 c、d、と進み、最終学年では、卒業制作または卒業論文を課します。

<ディプロマ・ポリシー>

環境情報学部では、以下の能力を身につけ、所定の単位を修得した学生に、「学士（環境情報学）」の学位を授与します。

- 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
- 地域の持続的発展のために貢献できる
- 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる
- 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる
- メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

2. カリキュラムについて

授業科目は、「全学共通教育科目」と「学部専門教育科目」の2つに分けられます。卒業するには、「全学共通教育科目」の中から50単位以上、「学部専門教育科目」の中から62単位以上を修得し、全体で130単位以上を修得する必要があります。「全学共通教育科目」と「学部専門教育科目」の最低修得単位数を合計しても、112単位にしかありません。卒業認定に必要な単位まで18単位足りません。これは、すべての配当科目から、最低18単位分を選ぶこととなります。

また、「全学共通教育科目」、「学部専門教育科目」それぞれに区分があり、区分ごとに最低修得単位数が決められています。卒業するには、この区分ごとの最低修得単位数を修得する必要がありますので、十分に注意してください。

「全学共通教育科目」には①基礎科目、②語学科目、③情報科目、④地域科目、⑤一般教養科目(社会科学系列、人文科学系列、自然科学系列)、⑥キャリア科目、⑦特別科目、⑧スキル科目の8つの区分があります。

「学部専門教育科目」には①学部基礎科目、②実習科目、③自然環境分野科目、④メディア情報分野科目、⑤分野共通科目の5つの区分があります。

卒業に必要な単位を修得するには、上記のように各授業科目とその中の各区分から、最低限必要な単位を修得し、その上で卒業に必要とされる単位数を上乗せするような計画が必要です。

まず、自分の興味のある分野を考えてください。新入生の中には、既に「自分は生物のことを勉強したい」「私はスタジオを使った音響関係に進みたい」など、方向性が決まっている人がいます。しかし、「自分は何も決めていない」という人もいるでしょう。現時点では、自然環境分野に興味を持っている人、メディア情報分野に興味を持っている人、今のところわからない状態の人に大きく分けられると思います。履修指導では、それぞれの状態に合った時間割を提示しますので、それを参考に自分自身の時間割を考えてください。

ただ、スキル科目については、どの科目群を選択するのかを意識する必要があります。環境情報学部で選択できるスキル科目は①メディアデザインユニット、②数理・統計力養成ユニット、③英語力養成ユニット、④おもてなし経営ユニット、⑤公務員養成ユニットの5つの科目群です。各ユニットで1年次前学期から科目が配当されていますので、どのスキル科目群を選ぶかによって、選択できる科目が決まってきます。環境情報学部では、メディア情報分野に進むのであればメディアデザインユニットを、自然環境分野に進むのであれば数理・統計力養成ユニットを選択することを勧めます。

スキル科目は、その科目群で10単位を取得することが要請されていますので、最低5科目を修得することになります。ただ、環境情報学部では、スキル科目を選択したら、その科目群に含まれる、なるべく多くの科目を取得することを勧めています。

スキル科目の選択は、途中で変更できます。科目を受講してみて、自分には合わないなと感じたら、別のスキル科目を選んでください。既に受講した科目は無駄にはなりません。卒業単位として認められます。ただし、選択し直したスキル科目で最低10単位は修得する必要があります。

とにかく、複数の時間割案を提示しますので、自分に合った時間割を選択し、それを参考に自分の時間割を考えてください。わからないところ、疑問を感じたら、教員に必ず質問しましょう。わからないまま、いい加減にすましてはいけません。では、勉強頑張りましょう。

12 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

3. カリキュラムマップ

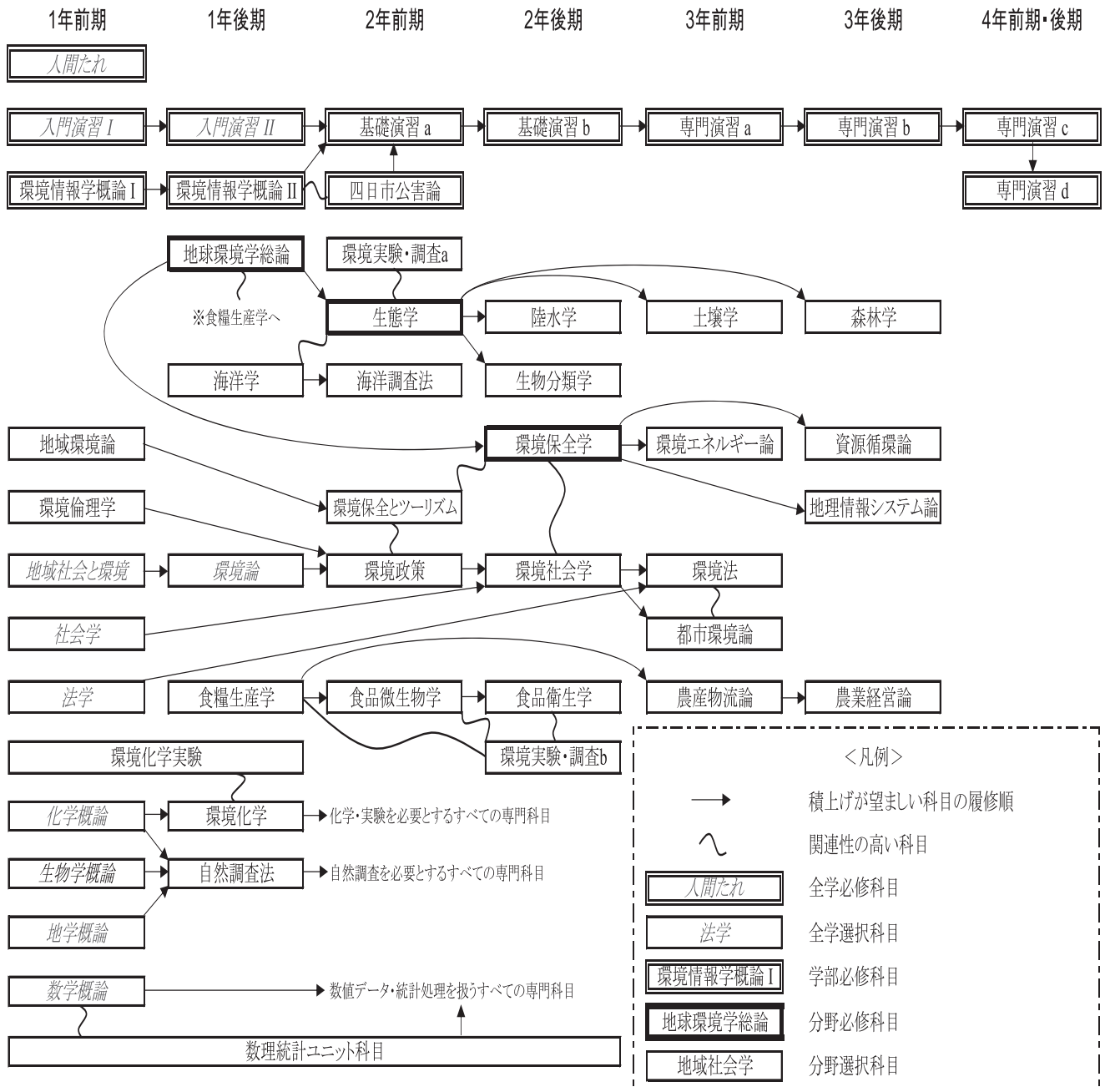
- DP1 専門技術者に求められる倫理観を身につけている
- DP2 地域の持続的発展のために貢献できる
- DP3 多様な社会の価値観を理解し、自分の考えを的確に表現し、伝えることができる
- DP4 環境に関する専門知識・技術を習得し、環境の個々の問題に取り組むことができる
- DP5 メディアに関する専門知識・技術を習得して、独自の視点で情報発信できる

		自然環境分野						
学部基礎/演習科目		環境保全	環境生態学	食糧と環境				
3・4年	専門演習d 専門演習c	環境エネルギー論 資源循環論 地理情報システム論	森林学 土壌学	農産物流論 農業経営論	数理・統計力養成ユニット データ統計処理 確率基礎 微分積分 線形代数 データ分析の基礎 統計的分析 データ解析の技法 基礎数学 統計リテラシー			
	専門演習b 専門演習a	環境法 都市環境論						
2年	基礎演習b 基礎演習a 四日市公害論	環境社会学 環境保全とツーリズム 環境政策	生物分類学 海洋調査法 環境実験・調査 a 陸水学	食品微生物学 食品衛生学 環境実験・調査 b				
	環境情報学概論II 環境情報学概論I	環境倫理学 地域環境論	海洋学	食糧生産学				
1年	分野基礎	環境化学	環境化学実験	自然調査法				
	分野必修	地球環境学総論	生態学	環境保全学				
科共通	基礎科目	語学科目	情報科目	地域科目	一般教養科目			
		分野共通科目	メディア情報分野					
		文化論	情報	スタジオと制作	メディアと社会			
3・4年	メディアデザインユニット		データベースプログラミング 情報システム論 メディア情報産業論	イベント制作演習 コンピュータ音楽論 スタジオ技術論 クリエイティブワークII	次世代メディア社会 ポップカルチャー論 コミュニケーションデザイン論 コンピュータグラフィックス			
	Webデザインb メディアツールc メディアツールd Webデザインa Webプログラミングb インターネット論	出版文化論 欧米文化論 アジア文化論 日本文化論 生命-情報-環境	プログラミング コンピュータ動作論 システム管理論	クリエイティブワークI 映像概論 照明概論 音響概論 表現と思想	グラフィックデザイン概論 脳・音・光の科学II			
2年	メディアツールa メディアツールb Webプログラミングa	音楽史	ハードウェア論	感性と創造	音楽とまちづくり 情報と感性 メディアの歴史			
	分野必修		メディア情報と文化	ソフトウェア論	脳・音・光の科学I			
科共通	キャリア科目	特別科目	公務員養成ユニット	おもてなし経営ユニット	英語力養成ユニット			

23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

4. カリキュラムツリー

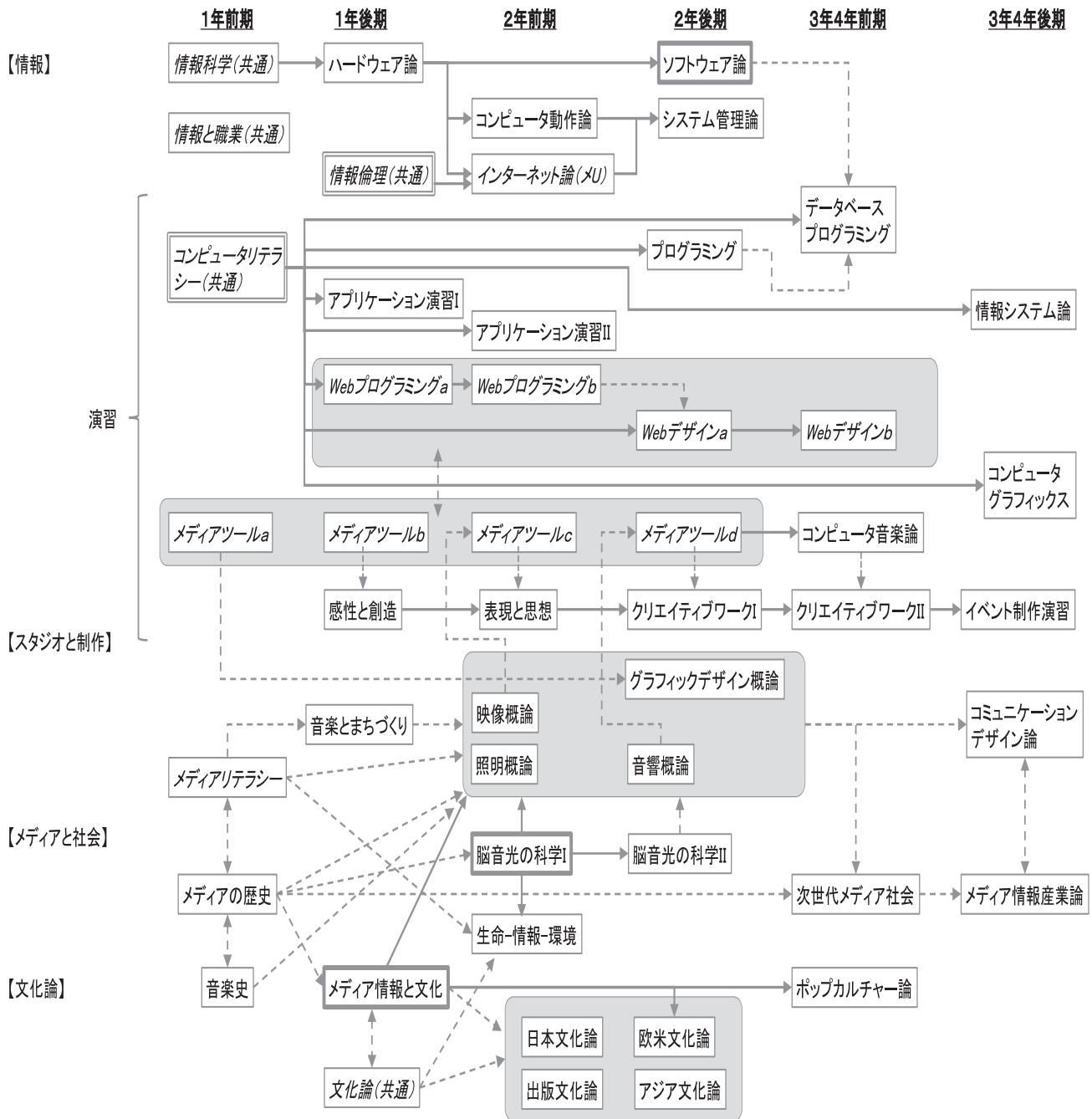
自然環境分野 カリキュラムツリー



23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

メディア情報分野 科目間連携

→ 積上げが望ましい科目の履修順 --> 関連性の高い科目



23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

5. 卒業要件

環境情報学部を卒業して「学士（環境情報）」の学位を得るためには、以下の2条件を同時に満たさなければなりません。

- ①「4年間以上」の在学期間
 - ・每学期、履修登録が完了していなければなりません
 - ・8年を超えて在学することはできません
- ②「全学共通科目と専門部門教育科目の卒業必要条件」をすべて満たすこと
 - ・卒業に必要な単位数は130単位であり内訳は下表のとおりです

区 分		卒 業 必 要 条 件				
全学共通教育科目	必修	基礎科目	6単位修得	留学生は日本語で修得 留学生は日本語で 4単位以上修得	50 単位以上 修得	自由に18 単位以上 修得
	必修	語学科目	4単位修得			
	選択		4単位以上修得			
	必修	情報科目	6単位修得			
	選択					
	選択	地域科目	4単位以上修得			
	選択	社会系列	4単位以上			
		人文科学系列	4単位以上			
		自然科学系列	4単位以上			
	必修	キャリア科目	4単位以上			
	選択					
	選択	特別科目				
公務員養成ユニット		いずれかのユニット で10単位以上修得				
おもてなし経営ユニット						
英語力養成ユニット						
メディアデザインユニット						
数理・統計力養成ユニット						
専門教育科目	必修	学部基礎科目	6単位修得	分野共通科目及び選 択した以外の分野か ら12単位以上修得	合わせて38 単位以上 修得	62 単位以上 修得
	必修	セミナー	12単位修得			
	選択	自然環境分野	いずれかの分野で			
	必修	メディア情報分野	6単位修得			
	選択	自然環境分野	選択必修で選んだ 同じ分野から18単位 以上修得			
		メディア情報分野				
選択	分野共通科目					

23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

6. カリキュラム表

○：半期科目
 ◎：半期（週2回連続）科目
 △：半期（週2回非連続）科目
 集：集中講義
 ▲：その他科目
 単位数の○付き数字は必修単位
 の科目は本年度不開講

区分	科目名称	単位数	配当年次								備考
			1年次		2年次		3年次		4年次		
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
										卒業に必要な単位数は130単位以上	
全 学 科 共 通 教 育 科 目	「人間たれ」	②	○								50 単 位 以 上 を 修 得 す る こ と
	入門演習Ⅰ	②	○								
	入門演習Ⅱ	②		○							
	基礎英語Ⅰ	②	○								
	基礎英語Ⅱ	②		○							
	基礎日本語Ⅰ	②	△								
	基礎日本語Ⅱ	②		△							
	英語コミュニケーションⅠ	2			○						
	英語コミュニケーションⅡ	2				○					
	中国語Ⅰ	2			○						
	中国語Ⅱ	2				○					
	ポルトガル語Ⅰ	2			○						
	ポルトガル語Ⅱ	2				○					
	海外語学研修a(英語)	2				▲					
	海外語学研修b(中国語)	2				▲					
	日本語中級Ⅰ	2			○						
	日本語中級Ⅱ	2				○					
	日本語上級Ⅰ	2					○				
	日本語上級Ⅱ	2						○			
	情報科目	コンピュータリテラシー	④	◎							
	情報倫理	②		○							
	情報科学	2	○								
	情報と職業	2	○								
	アプリケーション演習Ⅰ	2		○							
	アプリケーション演習Ⅱ	2			○						
地域科目	四日市学	2	○								
	地域社会の歴史	2		○							
	市民教育	2	○								
	人権論	2		○							
	地域社会と環境	2	○								
	地域防災	2	○								
	地域連携特別講義a	2			▲						
	地域連携特別講義b	2			▲						
一般教養科目	経営学	2	○								
	経済学	2		○							
	政治学	2	○								
	社会学	2	○								
	ジェンダー論	2		○							
	メディアリテラシー	2	○								
	社会福祉概論	2	○								
	日本国憲法	2		○							
	法学	2	○								
	民法入門	2	○								

23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

区分	科目名称	単位数	配当年次								備考		
			1年次		2年次		3年次		4年次				
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期			
全学共通科目	一般教養科目系列	倫理学	2		○							4単位以上修得すること	自由に18単位以上を修得すること
		哲学	2	○									
		文章表現論	2	○	○								
		文化教育学	2		○								
		日本史概論	2	○									
		世界史概論	2		○								
		地理学概論	2		○								
		地誌論	2		○								
		科学的思考論	2		○								
		科学思想史論	2	○									
	自然科学系列	自然科学概論	2		○							4単位以上修得すること	
		数学概論	2	○									
		化学概論	2	○									
		地学概論	2	○									
		生物学概論	2	○									
		生物と進化	2		○								
		環境論	2		○								
		心理学	2		○								
	必修科目	キャリア基礎Ⅰ	②		○							4単位以上修得すること	
		キャリア基礎Ⅱ	②			○							
		キャリア基礎Ⅲ	2				○						
	特別科目	ボランティア活動a	2	▲									
		ボランティア活動b	2	▲									
		国際協力研修	2		▲								
		インターンシップ	2			▲							
		他大学開放科目a	2			○							
		他大学開放科目b	2			○							
他大学開放科目c		2			○								
他大学開放科目d		2			○								
他大学開放科目e	2			○									
科目スキルト	公務員養成ユニット	公務のための数的推理	2		○						いずれかのユニットから10単位以上修得すること		
		公務のための判断推理	2	○									
		公務のための現代文	2		○								
		公務のための政治学	2				○						
		公務のための経済学	2				○						
		公務のための法学	2			○							
		公務のための人文科学	2			○							
		公務のための自然科学	2				○						
	公務のための英文理解	2					○						
	おもてなし経営ユニット	公務のための論文・面接	2						○				
		ビジネスマナー	2		○								
		サービス経営論	2	○									
		販売士講座	2			○							
		ビジネスコミュニケーション	2			○							
		グローバルコミュニケーション	2				○						
		オペレーション演習	2			○							
ビジネスマネジメント		2				○							
マーケティング演習	2					○							
おもてなし特別講義	おもてなし特別講義a	2			○								
	おもてなし特別講義b	2				○							

23 カリキュラム専門教育科目 (2017年度以降入学生)

区分	科目名称	単位数	配当年次								備考						
			1年次		2年次		3年次		4年次								
			前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期							
専門教育科目	自然環境学	海洋生物学	2		○										選択必修で選んだ同じ分野から18単位以上修得		
		海洋分類学	2				○										
		海洋調査法	2			○											
		環境実験・調査a	2			○											
		陸水学	2				○										
		森林学	2							○							
	環境分野	土壌学	2						○								
		食糧生産学	2		○												
		食品微生物学	2			○											
		食品衛生学	2				○										
		環境実験・調査b	2				○										
		環境農産物流通論	2						○								
	メディアと社会	農業経営論	2							○							
		分野必修	メディア情報と文化	2		○											
		メディアと社会	脳・音・光の科学Ⅰ	2			○										
			ソフトウェア論	2				○									
		メディアと社会	メディアの歴史	2	○												
			情報と感性	2		○											
			音楽とまちづくり	2		○											
			脳・音・光の科学Ⅱ	2				○									
グラフィックデザイン概論			2			○											
コミュニケーションデザイン論			2							○							
次世代メディア社会			2						○								
コンピュータ音楽論			2						○								
コンピュータグラフィックス		2							○								
メディアと社会		ポップカルチャー論	2						○								
	メディアと社会	感性と創造	2		○												
		表現と思想	2			○											
	メディアと社会	映像概論	2			○											
		照明概論	2			○											
		音響概論	2				○										
		クリエイティブワークⅠ	2					○									
		クリエイティブワークⅡ	2						○								
スタジオ技術論		2						○									
メディアと社会	イベント制作演習	2							○								
	メディアと社会	ハードウェア論	2		○												
		プログラミング	2				○										
		コンピュータ動作論	2				○										
		システム管理論	2					○									
		データベースプログラミング	2						○								
		情報システム論	2							○							
		メディア情報産業論	2								○						
特別講義		環境情報特別講義Ⅰ	2		○												
特別講義	環境情報特別講義Ⅱ	2			○												
	環境情報特別講義Ⅲ	2				○											
分野共通科目	音楽史	2	○											分野共通科目及び選択した以外の分野から12単位以上修得			
	生命-情報-環境	2			○												
	日本文化論	2			○												
	出版文化論	2			○												
	アジア文化論	2				○											
	欧米文化論	2				○											

2021年度 前学期時間割

曜日	1	2	3	4
月				
火				
水				
木				
金				

集中講義／実 習	
----------	--

2021年度 後学期時間割

曜日	1	2	3	4
月				
火				
水				
木				
金				

集中講義／実 習	
----------	--

学籍番号

氏名
